

# 朝露、紅薔薇の如く

~Rosée du matin, comme une rose rouge~



# 目次

台本指示のご説明.....	a
ACT I .....	1
0、バイトも立派な契約.....	1
○Scene 1.....	1
○Scene 2.....	9
1、ドール店長様の一存.....	15
○Scene 1.....	15
○Scene 2.....	19
○Scene 3.....	25
2、露と共に.....	33
○Scene 1.....	33
○Scene 2.....	40
ACT II .....	47
3、趣味の沼にご用心 .....	47
○Scene 1.....	47
○Scene 2.....	53
4、悩みはガールズトークで.....	63
○Scene 1.....	63
5、雨音による静寂.....	75
○Scene 1.....	75
○Scene 2.....	79
6、嵐を告げる .....	83
○Scene 1.....	83
ACT III.....	95
7、物語.....	95
○Scene 1.....	95
○Scene 2.....	102
○Scene 3.....	112
8、秘密.....	117
○Scene 1.....	117
○Scene 2.....	124
○Scene 3.....	131
9、萌芽.....	141
○Scene 1.....	141
○Scene 2.....	146

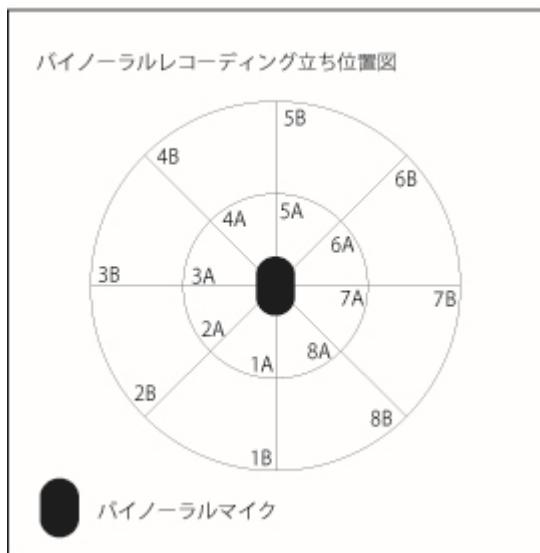
○Scene 3.....	150
Epilogue.....	153
1 0、紅薔薇と？？？ .....	153
○Scene 1.....	153
○Scene 2.....	157
○Scene 3.....	160
エキストラ：ドールに癒やされる ASMR .....	163

# 台本指示のご説明

1、()、『』、【】と<>の中の内容は指示と補足、それ以外のすべてはセリフとなります。

- 【】は複数のキャラクターが同時に登場する場合のみキャラクターの指示として使われています。トラック冒頭で登場人物とトラック内容を書いていますので、そちらをご参照ください。
- <>の中は位置、距離、向き、声の大きさの指示となります。次の指示が出るまで、前の指示に従ってください。
- ()の中はシーンに関する補足となります、基本的に以下三種類：
  - セリフの前の演技指示（ト書き）。キャラクターの口調、感情など。
  - アドリブの説明。イタリック体で表記しています。
  - 演出、SE とアンビエントの説明。主に編集の時に使われています。
- 『』の中はキャラとカット割りに関する補足となります、基本的に以下二種類：
  - キャラの動きや状態の説明。主に登場退場など。
  - 場面の切り替え、間隔などの説明。『少しの沈黙』、『以下は回想』など。

2、位置の指示は六種類となります：



1A/1B を正面に：

- 左側：7A/7B
- やや左：8A/8B
- 正面：1A/1B
- やや右：2A/2B
- 右側：3A/3B
- 後ろ：5A/5B

距離に関しては距離指示にご参照ください。

3、距離の指示は四段階となります：

- 直近距離：耳元（横から）、おでこコツン（正面から）の距離。
- やや近い：膝枕や耳打ちなどの距離。

- **通常距離**：普通の会話距離。
- **やや遠い**：通常より遠く感じる。

4、向きの指示は「正面向き、後ろ向き、左向き、右向き」四種類となります：

- **正面向き**：今の収録位置から、マイクの方に向いている状態となります（通常収録状態）。主人公と話す時などに使われています。
- **後ろ向き**：今の収録位置から、マイクの方に背向ける状態となります。
- **左向き・右向き**：マイクの方に向けず、ご自身の左側と右側に少し角度がずれる状態となります。主人公以外の多数キャラが登場する場面で、キャラとキャラの掛け合いを表現する時などに使われています。

5、声の大きさの指示は五段階となります：

- **囁き**：囁き声。
- **小さい声**：耳打ちや独り言をする時の音量となります。
- **通常音量**：普通の会話音量。
- **大きい声**：呼びかける時、気持ちが昂る時の音量となります。
- **叫び**：本編、「ロゼ」のセリフ一箇所だけ使われています。「やめろ！」

以下、台本本文となります。

1 ACT I

2 0、バイトも立派な契約

3 ○Scene 1

4

5 ||||登場人物：ロゼ、メルシー、主人公

6 ||||場所：カフェ「朝露」店内

7 ||||シーン内容：主人公がバイト探しのため「朝露」の募集に応募。そこでオート  
8 マタドールの店長の「ロゼ」とキキーモラの店員「メルシー」と対面する。簡単な  
9 面接をしたあと無事に合格。

10

11 (アンビエント：夕暮れ)

12 (演出：ドアを開ける、カラソコロンと鳴るドアベル)

13

14 **【メルシー】**

15 <正面、正面向き、やや遠い、通常音量>

16 あっ、すみませんお客様、もう閉店のお時間なんです。よろしければ、明日また…

17 …

18

19 **【主人公】**

20 ああいえ、その、僕はここがバイトを募集していると聞いて……！

21

22 **【メルシー】**

23 ああ！ バイトの応募ですね？ どうぞどうぞ！

24

25 (演出：足音、ドア閉める)

26

27 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>

28 閉店作業中なので、もう少しだけお待ちいただけますか？

29 えっとお、テーブル席はもう畳んでしまったので、カウンターで寛いでいてください。  
30 い。

31

32 (演出：主人公が席に着く)

33

34 **【メルシー】**

35 <やや左、右向き、通常距離、やや大きい声>

1 店長～バイトに応募したいって方がいらっしゃいましたよ～  
2  
3 (演出：店の裏に向かいながら)  
4  
5 【主人公】  
6 この人、店長じゃないんだ……。  
7  
8 『少しの時間経過、メルシーがロゼを抱っこしながら店の裏から登場』  
9  
10 (演出：店の裏から出る)  
11  
12  
13 【メルシー】  
14 <左側から正面、正面向き、通常距離、通常音量>  
15 すみませんすみません、おまたせしました～  
16 えっと、それでは早速ですが、面接を始めます。よろしいですか？  
17  
18 【主人公】  
19 え？ あっ、はい、大丈夫です。  
20 でも……先程店長さんを呼ばれていましたけど……  
21  
22 【メルシー】  
23 あっ、店長ですね～。えっと、少しだけ説明しますと…… (ロゼに遮られる)  
24  
25 【ロゼ】  
26 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>  
27 (やや冷たそうに) バイトに応募したいっていうのは、貴方ね？  
28  
29 【主人公】  
30 はい、そうですけど。  
31 って……えっ！？  
32  
33 (演出：椅子が転がる)  
34  
35 【メルシー】  
36 だ、大丈夫ですか！？  
37  
38 (演出：椅子を戻し、座り直す)  
39

1           【主人公】

2           いたたあ……い、一応……。

3           えっと……今のは、腹話術ですか！？

5           【ロゼ】

6           (やや冷たそうに) 人が話をしているのに「腹話術」と決めつけるのは感心しない  
7           わね。

8           その辺の評判の悪い道化師と一緒にしないで頂戴。

10          【主人公】

11          や、やっぱり、人形が喋ってる！

12          店長って……まさか！？

14          【メルシー】

15          もう一店長、初対面の方にいきなりそんなことしたら驚いちやいますよ。

17          【ロゼ】

18          はあ……めんどくさいわね。

24          (演出：てくてく)

26          【ロゼ】

27          貴方、オートマタドールに会うのは初めて？

29          【主人公】

30          オートマタドール……種族の名前だけは知っています。

31          僕はこの国に来たばかりなので……。

33          【ロゼ】

34          なるほど、この国に来たばかりなら驚くのも無理ないわ。

35          こちらこそ失礼したわね。

37          【主人公】

38          いえ、大丈夫です！

1   **【ロゼ】**

2   では仕切り直しね。まずは自己紹介から。

3

4   私はこのカフェ「朝露（あさつゆ）」の店主、ロゼ・ヴァーミリオン。

5   バラの「ローズ」ではなく、露と霧の「ロゼ」よ。

6   店名さえ覚えれば間違うことはないと思うけど、基本的には店長と呼んで。

7   見ての通り、人形の体をしているけど、仕事に支障はないわ。

8   そして、彼女が……

9

10   **【メルシー】**

11   （愛想よく）はい、お店の接客と会計を務めています、キキーモラのメルシー・モ  
12   ンブランです！

13   あっ、たまに軽食の調理のお手伝いもしているんですよ！

14   どうぞよろしく～

15

16   **【ロゼ】**

17   店を立ち上げて2年経つけど、ここで働いているのは私とメルシーの二人だけ。

18   最初の頃は客がそこまで多くなかったから、私達だけで十分だったの。

19   けれど今年に入ってから店の知名度が上がって、繁盛するようになってね。嬉しい  
20   ことだけど、最近はどうにも人手が足りなくて。

21   私はそろそろ新しいメニューの開発に取り組みたいし、メルシーの負担をこれ以上  
22   大きくしたくなかったのよ。

23

24   **【メルシー】**

25   店長！  私は大丈夫ですって……！

26

27   **【ロゼ】**

28   <左向き>

29   ダメよメルシー。家に帰ればきょうだいたちのご飯を作って、洗濯もしないといけ  
30   ないのでしょう？

31   店でも十分すぎるほど働いているのに。

32

33   <正面向き>

34   要するに、メルシーの仕事の補助と、会計や掃除といった雑用をしてくれる人を雇  
35   いたいの。それと、男だったら食料を仕入れる時にも力を貸してほしい。

36   ここまで質問はある？

37

38   なさそうね。次は貴方の番よ。自己紹介をお願い。

39

1 『主人公自己紹介』

2

3 【ロゼ】

4 ふむ……大学生、ね。

5 バイトは、学費か習い事の月謝を稼ぐためかしら？

6

7 【主人公】

8 もちろんそれもありますが、えっと……

9 この町に来たばかりなので、新しい環境に馴染みたいんです。

10

11 【ロゼ】

12 ふうん。お金のためだけじゃなく、「町に馴染みたい」と。

13 ……物好きね、貴方。

14

15 この町には私達をはじめ、色んな種族が住んでいる。

16 他の地域より騒がしいかもしれないけど、退屈しないのは確かだわ。

17 バイトを機会に彼らの生活がどんなものか見てみるといいけど、もちろん店の仕事  
18 が最優先よ。

19

20 その他の理由はあるのかしら？

21

22 【主人公】

23 は、恥ずかしながら、毎日この店の前を通っていて、その……

24 すごくいい匂いがして……

25

26 【ロゼ】

27 くすぐす、うちの香りに釣られたのね。

28

29 閉店後、売り残っているものがあったら食べてもいいわ。昔、メルシーもよく持ち  
30 帰っていたわね。

31 だけど今はほとんど残らないから、あまり期待しないで頂戴。

32 あとコーヒーはタダでは提供できないわ。一応、うちの一番の売りだから。

33 飲みたいのなら……そうね。自腹でいいなら、仕事を終えたあとに特別に一杯淹れ  
34 てあげてもいいわ。

35 もちろん、メルシーも構わないけど……コーヒー不耐症を治してからね。

36

37 【メルシー】

38 あ、あはは～。どうやら私、コーヒーとの相性が悪いみたいで。

39 飲むとすぐにお腹の調子が悪くなってしまうんです～

1  
2     【ロゼ】  
3     体質だけは仕方ないわ。  
4  
5     ……話が逸れたわね。貴方、自己紹介でレジ打ちの経験があるって言ってたわね。  
6     それも飲食店かしら？  
7  
8     【主人公】  
9     いいえ、実家にある小さな本屋です。  
10  
11    【ロゼ】  
12    (顔を伏せて独り言) 本屋ね……少し違うけど、経験は経験だわ。  
13    まずは、客が少ない時間から……かしら。  
14  
15    (顔をあげる) ……大体のことはわかった。  
16    頼りなさそうな顔だけど、悪い人ではないみたいだわ。  
17    メルシー、どう思う？  
18  
19    【メルシー】  
20    いやあ、私はただの従業員ですし、決めるのはやっぱり店長が……  
21  
22    【ロゼ】  
23    従業員だからこそ、今後一緒に働く貴女の意見を求めているのよ。  
24  
25    【メルシー】  
26    って言っても……  
27    えっとお……少し、失礼しますね？  
28  
29     【主人公】  
30     えっ？  は、はい……。  
31  
32     『メルシーが歩き回って主人公を観察する』  
33     (演出：足音)  
34  
35    【メルシー】  
36    <左から右、右から左、正面向き、通常距離、小さい声>  
37    ふむ……ふむふむ。  
38    なるほど……。  
39

1 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>  
2 ありがとうございます。  
3  
4 <後ろ向き>  
5 いいと思いますよ、店長。  
6  
7 **【ロゼ】**  
8 そう。  
9 では、異論はないということで、速やかに進めましょう。  
10  
11 (演出：ロゼが書類を持ち出す)  
12  
13 はい、この契約書に書いてあることをすべて読んで頂戴。  
14 給料や出勤に関する質問があれば遠慮なく言って。問題なければサインをしてもら  
15 って、契約成立よ。  
16  
17 **【メルシー】**  
18 <正面向き>  
19 どうぞ、このペンを使ってください。  
20  
21 (演出：ペンを出す)  
22  
23 **【主人公】**  
24 ありがとうございます、拝見します。  
25  
26 『主人公が契約書を読む』  
27 (演出：ペンでサイン)  
28  
29 これでよろしいでしょうか？  
30  
31 **【ロゼ】**  
32 おめでとう。これで貴方も朝露の一員よ。  
33 早速だけど、明日の午後にシフトを入れるわ。授業と被っていないわよね？  
34  
35 **【主人公】**  
36 ええ、大丈夫です。  
37  
38 **【ロゼ】**  
39 よろしい。基本の仕事は明日メルシーが教えるから、ちょっと早めに来て頂戴。

1  
2       【主人公】  
3        はい、わかりました。  
4  
5       【ロゼ】  
6       じゃあ、今日はもう帰っていいわ。ご苦労さま。  
7  
8       ……ん？ まだなにか？ 何か言いたそうな顔ね。  
9  
10      【主人公】  
11      その……えっと……  
12  
13      【ロゼ】  
14      (めんどくさそうに) はあ……言いたいことがあるならはっきり言いなさい。  
15  
16      【主人公】  
17      えっと……店長……  
18  
19      【ロゼ】  
20      (不機嫌そうに) なに？  
21  
22      【主人公】  
23      (手を前に) だ、抱っこさせてくれませんか？  
24  
25      【ロゼ】  
26      (驚く) なっ！  
27      (怒る) 気安く触れるな！  
28  
29      (演出：髪を鞭にして主人公の顔を叩く、ピシャ！)  
30  
31      【主人公】  
32      いたっ！  
33  
34      【ロゼ】 (怒る)  
35      契約書に不満でもあるのかと思えば、いきなり「抱っこさせて」ですって！？  
36      そんなことをレディーに言うなんて！  
37      想像より遥かに下賤で卑劣だわ、人間の男は……！  
38      もう顔も見たくないわ、帰って頂戴！  
39

1 『ロゼは部屋へ戻る、退場』  
2 (演出：ドスドスと足音、強めのドア締め)

3  
4 【メルシー】  
5 <正面、右向き、通常距離、やや大きい声>  
6 え、えっとー、私も帰りますね、店長ー！  
7  
8 <正面向き、通常距離、小さい声>  
9 さあ新人くん、一緒に帰りましょう？

10  
11 【主人公】  
12 は、はい……  
13  
14 (演出：ドア開け締め、鈴の音)  
15

16 ○Scene 2

17  
18 | | | | 登場人物：メルシー、主人公  
19 | | | | 場所：カフェ「朝露」外の小道  
20 | | | | シーン内容：二人の帰り道、ロゼに罵られて落ち込んでいる主人公を宥めるメ  
21 ルシー。

22  
23 (アンビエント：小道)  
24 (演出：二人の足音)

25  
26 【主人公】  
27 や、やらかしたあ……！！！ しかもバイトが決まった矢先にい……！！！  
28

29 【メルシー】  
30 <やや右、正面向き、通常距離、通常音量>  
31 あはは、ドンマイですよ新人くん～  
32 店長はあんなことで根に持つ方じやありません。  
33 それに、新人くんに悪意はないって気づいていると思います。  
34 契約は無効になってしまんし、明日になったら機嫌も戻ってますよ。

35  
36 【主人公】  
37 だったらいいですけど……

1  
2     【メルシー】

3     はい、きっと大丈夫です。

4     でも、新人くんの故郷って、やっぱり人間が多いんですか？

5  
6     【主人公】

7     はい……だから異種族との交流が少なくて……。

8     今回ここの大学に入学したのも、それが目当てなんです。

9  
10    【メルシー】

11    ほえー、異種族を知るためにわざわざここの大学を選んだんですか？

12    すごいです、尊敬しちゃいます。

13  
14    【主人公】

15    いやそんな大層なものじゃ……

16  
17    【メルシー】

18    謙遜しないでください。

19    こんな風に見知らぬ土地に足を踏み入れるのって、とても勇気の要ることだと思いますよ。

21  
22    【主人公】

23    勇気を出した結果、面接が終わって早々酷い目に遭いました……

24    衝動的になった自分が悪いんですけど……

25  
26    【メルシー】

27    さっきのことは心配する必要ありませんよ！

28    新人くんが異種族に不慣れだってことは、店長もわかっています。ちょっと驚いてしまっただけなんです。

29    先輩の私が保証します！

31  
32    【主人公】

33    そう言われても……罵倒されたんですよ！

34    あれ、相当怒ってるんじや……

35  
36    【メルシー】

37    罵倒？

38    ああ、あのとき言われた言葉ですか。えっとですねー

39

1 店長の言葉遣いは少し厳しくて、態度も親しみやすいとは言えませんけど、本当は  
2 とても優しい方なんです。  
3 怒った時はああいうことを言ってしまうものだと思って、慣れてください。口癖の  
4 ようなものですよ。

5  
6 【主人公】  
7 ええ……これ、慣れるんですか……？  
8 あと罵倒が口癖って本当に大丈夫なんですか……？  
9

10 【メルシー】  
11 新人くんは自力でとても遠いところから来たんですから、これくらいお茶の子さい  
12 さいですって！  
13 私も先輩としてきちんとフォローしますから、元気出してください！  
14

15 【主人公】  
16 (くす) ありがとうございます。メルシー先輩。

17  
18 【メルシー】  
19 えへへ、よそよそしいですよ新人くん。  
20 けど「メルシー先輩」って呼び方、なんかかっこいいです。  
21  
22 そう言えば、髪で叩かれたところは大丈夫ですか？  
23

24 【主人公】  
25 まだ少し赤いですが、大丈夫です。  
26 いやー、アレは本物の鞭のようでした。キレッキレで、とても髪には見えま  
27 せんでしたよ。  
28

29 【メルシー】  
30 店長の鞭攻撃、髪の毛の割には痛いですよねー  
31 でも、新人くんが店長に触れたくなる気持ちは、わからなくもありません。  
32 ここまで綺麗に作られたドールは、世界中を探しても少ないんじゃないでしょうか？  
33  
34

35 【主人公】  
36 店長ほど綺麗なドールは見たことがないです。だから好奇心が湧いたという  
37 か……。

38  
39 【メルシー】

1 へえー、新人くんはドールにも興味があるんですね！ すごい！

3 【主人公】

4 うちの妹、小さい頃人形遊びが大好きだったので、家の中にお人形がたくさんあって。僕もそのときに少しいじっていたんです。

7 【メルシー】

8 なるほどー、妹さんの影響で。

9 私も、弟や妹の趣味に付き合っていたら結局自分の趣味になってしまったことがあります。

11 ですけど、新人くんってドールに縁があるんですね～

13 【主人公】

14 ……縁？

16 【メルシー】

17 オートマタドールを作るのは禁止されているってことは、ご存知でしょうか。

18 そのせいで、オートマタドールの発祥地であるこの国でも、存命しているドールの数はかなり限られています。

21 それに、店長は普段滅多にキッチンから出ないので、常連客でも店長を見たことのある人は少ないんです。

23 それなのに新人くんは来て早々店長と会えたんですもの。ラッキーというより、縁を感じますよ～

26 【主人公】

27 へえー、そうなんだ……。

29 【メルシー】

30 あっ、そういえばうちの常連さんにも、一人ドールマニアの方がいらっしゃるんですよ。

32 初めてご来店されたときに、「是非店長に会いたい」と仰って。

33 店長はキッチンにこもっているから、そういうのは大体断っているんですが……

34 この方の執着心がかなり強くて、結局店長が「100日連続で来て毎回コーヒーを注文したら考える」って言つたんです。

37 【主人公】

38 いや、いくらなんでもそんな理不尽な……。

1       **【メルシー】**

2   確かに理不尽な要求ですけど、その方は本当に 100 日連続でご来店して毎日コーヒー  
3   一を注文されました。  
4   雨風にも負けずに。

5           **【主人公】**

6           マジか……

7       **【メルシー】**

8           それで、流石に店長も断りにくいくらいとお会いになったんです。  
9           ただ、帰られたあとに店長が「視線がいかがわしい」って呟いてて。  
10          多分そこで人間男性に対しての印象がちょっと……ねー

11       **【主人公】**

12          あいつのせいかよ！

13       **【メルシー】**

14          ですが店長にお会いになってそのお客様も満足されたみたいで、今では普通の常連さんになりました。  
15          週に 2 回ほどいらっしゃいますね。

16       **【主人公】**

17          どんな人ですか……？

18       **【メルシー】**

19          どんな人……えっとー、古物屋さんで、とてもカリスマ性のある方です。  
20          一見近寄りがたいですが、話してみると親しみやすいといいますか。共通の趣味もありますし、新人くんならすぐに打ち解けられると思いますよ。

21       **【主人公】**

22          そう言えば、メルシー先輩は店長を抱っこしても大丈夫なんですね。  
23          女の子同士だからかもしれません……。

24       **【メルシー】**

25          私と店長、ですか？  
26          んー、私が店長を抱っこしても平気なのは、同性という理由以外だと……それなりに長い付き合いだから、でしょうか。  
27          いいですか新人くん。店長はですね、いくら見た目がドールでも、中身は普通の女の子と変わらないんですよ？

1 それに、男性と接触したことがあまりないみたいで、少し過剰に反応してしまうと  
2 いうか……新人くんと同じく、「不慣れ」なんです。だから、もっと優しくしない  
3 と。

4 あなたはお店の初めての男手だから、色々と大変かもしれませんけど、一緒に頑張  
5 りましょう。ね？

6

7 **【主人公】**

8 は、はい！ 頑張ります……！

9

10 **【メルシー】**

11 うんうん～、その意気です！

12

13 では、私のお家はあっちの方なので、ここでお別れです。

14 また明日ね、新人くん！

15

16

1 1、ドール店長様の一存

2 ○Scene 1

3 ||||登場人物：ロゼ、メルシー、主人公

4 ||||場所：カフェ「朝露」店内

5 ||||シーン内容：主人公の初出勤日。

6

7 (アンビエント：午後)

8 (演出：ドアが「バンッ」と開き、激しめのドアベル)

9

10 【主人公】

11 すみませんっ……！！！

12

13 【メルシー】

14 <やや左、正面向き、通常距離、通常音量>

15 新人くん！？ だ、大丈夫ですか！？

16

17 【主人公】

18 はあ、はあ……間に合ったあ……

19

20 【ロゼ】 (時計を見る)

21 <やや右、正面向き、通常距離、通常音量>

22 ……良かったわね、新入り。あと30秒で遅刻だったわよ。

23

24 【主人公】

25 はあ……よかったです……

26

27 (演出：水をテーブルに)

28

29 【メルシー】

30 はい、お水です。

31

32 【主人公】

33 ありがとうございます……メルシー先輩。 (水を飲む)

34

35 【ロゼ】

36 ……昨日、「早めに来なさい」って言ったはずよね。

1 それにもかかわらずギリギリに来た理由、聞かせてもらえるかしら？

3 【主人公】

4 うつ……ね、寝坊しました、すみません。

6 【ロゼ】

7 はあ……想定内ね。もっと気を引き締めなさい。

8 これでは研修せずにいきなり客の前に立つことになるじゃない。心配だわ……。

10 【主人公】

11 だ、大丈夫です！ 頑張ります！

13 【ロゼ】

14 (少し苛つく) 「大丈夫」ですって？

15 初対面のドールに、「抱っこさせて」と言った貴方が、どの面で「大丈夫」だなんて言えるのかしら？

18 【主人公】

19 そ、そのことはどうかお許しくださいいーー！！

21 【ロゼ】

22 (普段口調に戻る) ……貴方が異種族との交流に不慣れなのは知っているけど、客にはそんなことわからないし、わかったとしても許されるとは限らないわ。

25 いい？ とりあえずこれだけは覚えておきなさい。

26 「種族の特徴的な部分をジロジロ見るな」。

27 ほとんどの場合、失礼に値するわ。例えば、魔族の角、獣人の尻尾や耳、有翼人  
(ゆうよくじん) の羽といったものよ。

30 【主人公】

31 ……ではドールは？

33 【ロゼ】

34 私達ドールの場合は、関節よ。大体服の下に隠れているけど、指なんかはくれぐれ  
も気をつけなさい。

37 【主人公】

38 へえー……。 (視線がロゼの体に移る)

1       **【ロゼ】**

2       (イラつく) ……貴方、その興味深そうな目はなに？  
3       まさか、私の関節構造はどうなっているか、なんて不埒なことを考へてるんじやないでしょ？

5

6       **【主人公】**

7       (ギグ) いえ、そんなことぜんっぜん……ぶつ！

8

9       (演出：髪鞭に叩かれる主人公)

10

11       **【ロゼ】**

12       (赤面ながら怒る) ……呆れた、本っ当に呆れた。  
13       百歩譲って私に下品な目を向けることはまだしも、忠告した直後にそんなことをするなんて許せないわ！  
14       私は、関心を持たないようにするためにあえて説明したのよ？  
15       それすら覚えられない馬鹿なの、貴方は？

17

18       **【主人公】**

19       す、すみません！ すみませんでした！！ ムチだけはお許しください！！！

21

22       **【メルシー】**

23       (フォロー) まあまあ店長、そんな風に言ったら男の子は想像しちゃうものですよ。  
24       接客の方は私がちゃんとフォローしますから、そんなに心配なさらないで～

26

27       **【ロゼ】**

28       メルシー、後輩ができる嬉しいのはわかるけど、あまり甘やかさないで。男なら尚更よ。

30

31       『ロゼ、時計をみる』

32

33       **【ロゼ】**

34       そろそろ時間よ、午後の開店準備をしなきや。  
35       私はキッチンにいるから、悪いけど店とそこの頭の悪そうな新米猿は任せたわよ、  
36       メルシー。  
37       もしなにかあつたら、呼んで頂戴。

38

39       **【メルシー】**

1 はい、わかりました～

2

3 『ロゼ退場』

4

5 (演出：てくてく、扉開け閉め)

6

7 【主人公】

8 毎回毎回フォローしてくださってありがとうございます……メルシーさん。

9

10 【メルシー】

11 いえいえ、大丈夫ですよ。

12 昨日言ったでしょう？ 店長は男の人との交流が少ないから、「不慣れ」なんですよ。

13 だからやけに刺々しいというか、あたりが強いというか。

14

15 【主人公】

16 そんな、店長は何も悪くありませんよ。

17 僕が失礼なことをしたから……自業自得です。

18

19 【メルシー】

20 ふふ、ちゃんと「失礼なことをしてしまった」って認識されているんですね。その心さえあれば、きっとバイトも上手くやっていけます！

21 店長も、あれはあれで、「さっきはちょっと怒りすぎたかな」とか考えていますよ。

22 ですから、気持ちを切り替えましょう～

23

24 お店の仕事についてですが、接客は主に私がやりますので、新人くんはお会計をお願いします。

25 レジの使い方は分かりますか？

26

27 【主人公】

28 あっ、これ、昔使っていたものと同じモデルです！

29 えっと、大体こんな感じで……

30

31 (演出：レジ打ち)

32

33 【メルシー】

34 おおー！ さすがは経験者！ ではメニューはここに置いておきます。

1 お会計の時に確認する用なんですが、種類はそこまで多くないので、覚えちゃった  
2 方が楽ですよ！  
3 あとは店長が仰ったことを意識していれば、基本的に問題ないはずです！  
4 もちろん、何かトラブルがあったら呼んでくださいね～  
5

6 【主人公】

7 はい！ わかりました！  
8

9 【メルシー】

10 それじゃ、店長の準備ができたら、午後の営業を始めましょう！  
11 ○Scene 2  
12  
13 ||||登場人物：ロゼ、メルシー、主人公  
14 ||||場所：カフェ「朝露」店内とキッチン  
15 ||||シーン内容：主人公の初仕事が無事に終わり、お祝いにコーヒーを奢るロゼ。  
16 メルシーと主人公はコーヒーの淹れる様子を見学する。  
17  
18 (アンビエント：夕暮れ)  
19  
20 【メルシー】  
21 <やや左、右向き、通常距離、通常音量>  
22 ご来店ありがとうございました～。お気をつけて！  
23  
24 (演出：鈴の音カランコロン)  
25  
26 ふう～、さっきのお客さんで最後ですね。  
27  
28 <正面向き>  
29 新人くん、お疲れ様でした！  
30  
31 【主人公】  
32 メルシー先輩もお疲れ様でした！  
33  
34 (演出：扉開け閉め、てくてく)  
35  
36 【ロゼ】  
37 <やや右、正面向き、通常音量、通常距離>

1 二人ともご苦労さま。今日はどうだった？

2

3 **【メルシー】**

4 お疲れ様です！ やっぱり人手が多いといいですね～

5 お会計を任せるだけでだいぶ楽になりました！

6 新人くんがバリバリお仕事してくれたおかげですね。

7 常連さんも褒めていましたよ！

8

9 **【ロゼ】**

10 (安心して) そう、上手くいったようでなによりだわ。

11 これで私もひとまずは安心できそうよ。

12

13 **【メルシー】**

14 だから心配しすぎだったんですって～

15

16 (演出：てくてく)

17

18 **【ロゼ】**

19 貴方、サルのわりには使えないわけじゃなさそうね。

20 メルシーの仕事が減って、私もキッチンの仕事に専念できる。

21 今後もいい仕事ぶりを期待しているわ。

22 だけど、今日は平日だからそこまで混んでいなかった。休日が本番よ、覚悟なさい。

24

25 **【主人公】**

26 は、はい！ ありがとうございます！

27

28 **【ロゼ】**

29 ああ、あと、異種族について知らないことがあったら私やメルシーに聞いて頂戴。

30 種族ごとの接し方、好感の持てる対応の仕方を教えるわ。

31

32 **【主人公】**

33 えっ！？ いいんですか！？

34

35 **【ロゼ】**

36 貴方が客にきちんと応対できるのは、店にとっていいことだもの。それにこれも、貴方の目的の一つなんでしょう？

38 双方にとてプラスになるわ。むしろやらないと損ではないかしら。

39

1           【主人公】  
2           あ、ありがとうございます！！！  
3  
4           【ロゼ】  
5           だけど、覚悟した方がいいわよ。  
6           教えたことは定期的に問題として出すつもりだから。  
7  
8           【主人公】  
9           ええー！？  しょ、小テスト！？  
10  
11           【ロゼ】  
12           くすくす、緊張しすぎよ大学生さん。試験じゃないわ、口頭でいいから。  
13           けれど、間違ったら……これよっ！  
14  
15           (演出：髪の鞭で叩く、空振り)  
16  
17           【主人公】  
18           はあ、はあ…… (嫌な予感がして、間一髪で避ける)  
19  
20           【ロゼ】  
21           (不機嫌そうに) ……あら、避けたわね。いい反射神経だわ。  
22  
23           【主人公】  
24           髪の鞭は、一日一回までお願ひします……。  
25  
26           【ロゼ】  
27           叩かれたくないのなら、せいぜい頑張りなさい、新入り。  
28           さて、初出勤のお祝いも兼ねて、今日くらいはコーヒーを一杯ご馳走してあげても  
29           いいわ。  
30           飲み方はどうする？  
31  
32           (少し沈黙)  
33  
34           【主人公】  
35           ……ブラック、かな。  
36  
37           【メルシー】  
38           (笑いを抑えきれず) ふ……！  ふふふふ、あは、あははは……！  
39           (笑い声、5秒程度)

1  
2     【ロゼ】  
3     (呆れるように) はあ……。

4  
5     【主人公】  
6     み、皆さんどうしたんですか！？

7  
8     【メルシー】 (笑い声が段々落ち着いてくる)  
9     あはははー！ はああ、はあ……

10    す、すみません新人くん。でも、その回答は流石にテンプレすぎですよー  
11

12     【ロゼ】  
13    はあ……貴方、さっき悩むところを見ると、普段あまりコーヒーを飲まないのでし  
14    よう？

15    コーヒーに詳しくない初心者が初めてカフェに行くと、とりあえず「ブラック」を  
16    頼もうとする謎の現象、正直理解出来ないわ。

17    確かにカフェにとって、ブラックコーヒーは店の味を象徴するものかもしれないけ  
18    ど、その味をちゃんと楽しめないと意味がない。

19    いい？ ブラックは、豆以外何も入れていないのよ。苦さはもちろん、酸味もその  
20    まま残っている。市販の砂糖やクリーミングパウダーを入れたインスタントしか飲  
21    まない人がいきなりブラックを試したら、どんなにいい豆を使っていてもハズレだ  
22    と感じてしまうわ。慣れていないんだもの。

23    本当にブラックを楽しみたいなら、ラテやカプチーノを頼んで徐々にミルクと砂糖  
24    の量を減らしていき、豆の味を覚えてから試したほうがいいわ。

25  
26    ……それでもブラックを頼みたいのなら止めはしないけど、口に合わなくても、一  
27    滴残らず飲み干しなさいね。

28  
29     【主人公】  
30     じゃ、じゃあやっぱりおすすめをお願いできますか……。

31  
32     【ロゼ】  
33    私のおすすめ……。そうねえ、貴方なら……「フラットホワイト」でどうかしら？  
34    ラテやカプチーノと同じでエスプレッソとミルクをベースにしているけど、ラテほ  
35    どミルクの濃厚さはないし、カプチーノのように分厚いフォームもない。  
36    物好きな貴方は、こういう知名度があまり高くない飲み方の方が惹かれるでしょ  
37    う？

38    あと、フラットホワイトはコーヒーの量がカプチーノの2倍ほどあるから、カフェ  
39    インが多いの。

1 (皮肉めいて) ……これなら明日の授業にも遅刻しないと思うわよ？  
2  
3  
4 【主人公】  
5 す、すみません……。  
6  
7 【ロゼ】  
8 冗談よ、真に受けないで。  
9 嫌じやないならこれにするわね。私も、久しぶりにブレンドを飲みたい気分なの。  
10 メルシーはどうする？ ホットココアなら飲めたわよね？  
11  
12 【メルシー】  
13 はい、飲めます！  
14 コーヒーが苦手なせいでいつもお手間を取らせて……すみません。  
15  
16 【ロゼ】  
17 いいのよ、気にしないで。  
18  
19 【主人公】  
20 あ、あの……店長！  
21  
22 【ロゼ】  
23 なに、新入り？  
24  
25 【主人公】  
26 溺れるところを見学したいです！  
27  
28 【ロゼ】  
29 溺れるところを見たいの？  
30 ……邪魔をしないなら、好きにしてもらって結構よ。  
31  
32 【メルシー】  
33 あっ、私も行きます！ 店長がコーヒーを淹れているところ、とっても綺麗なの  
34 で！  
35  
36 【ロゼ】  
37 悪いけど今回はエスプレッソよ、メルシー。ドリップと違って機械の出番が多いか  
38 ら、あまり見応えはないわ。  
39

1      **【メルシー】**

2      いえいえ～、店長の手際がいいって意味じやなくて、コーヒーを淹れている店長の  
3      姿が綺麗って意味です。

4      **【ロゼ】**

5      (心が痛む) っ……。

6      ……そういうことを言うのはやめて頂戴。

7      私は、そんな綺麗な人なんかじゃないわ。

8      『少しの沈黙』

9      **【ロゼ】**

10     (気持ちを切り替えて) それより新入り、見学したいのでしょうか？ ついてきなさ  
11     い。

12     (演出：ロゼの足音で、二人の足音)

13     『ロゼ、杖を使ってキッチンのドアを開ける』

14     **【ロゼ】**

15     <正面、正面向き、通常距離、通常音量>

16     「朝露」の心臓へようこそ。

17     では、淹れる準備を始めるわ。

18     <後ろ向き>

19     (小人形たちを呼ぶ) あなたたち、今日最後の仕事よ。もう少しだけ力を貸して頂  
20     戴。

21     (演出：小人形たちが飛ぶ、キラキラした魔法的な音)

22     (背景 SE：コーヒーを淹れる器具などの音)

23     **【主人公】**

24     うわっ！ な、なに！？

25     **【メルシー】 (主人公とコソコソ話)**

26     <左側、正面向き、近い距離、小さい声>

27     ふふ、可愛いでしょう？

28     店長はドールでありながら、自分よりも小さい人形たちを操ることができるんで  
29     す。

30

1 このキッチンもコーヒーの道具も人間サイズだから、店長には何かと不便でしょう？

3 だから、普段はこんな風に小人形たちを使って仕事をされているんですよ。

4

5 見てください。店長、オーケストラの指揮者みたいじゃありません？

6

7 【主人公】

8 綺麗だ……。

9

10 【メルシー】 (主人公とコソコソ話)

11 ですよね……綺麗ですよね……。

12 元々ドールたちは「作られたもの」で、浮世離れした美しさが備わっています。

13 しかもオートマタドールは自分の力で動いて、お喋りして、更に小さい人形まで使  
14 役して、おとぎ話みたいでしよう？

15 それなのに、どうして店長は自分のことを綺麗じゃないだなんて言うんでしょうね  
16 ……以前からそうなんですよ。

17 減多に外出もしないから、まるで人目を避けているようで……。

18

19 【主人公】

20 ロゼさん……。

21

22 【ロゼ】

23 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>

24 二人とも、内緒話は程々に。

25 もうすぐ終わるわ。

26 ○Scene 3

27

28 ||||登場人物：ロゼ、メルシー、主人公

29 ||||場所：カフェ「朝露」店内

30 ||||シーン内容：ロゼとメルシーが異種族のことを主人公に教える。

31

32 (アンビエント：夕暮れ)

33 (演出：カップ3つをキッチンのテーブルに置く、カタツ)

34

35 【ロゼ】

36 <やや右、正面向き、通常距離、通常音量>

37 フラットホワイト2つと、ホットココア一つ。

1 さあ、召し上がれ。  
2  
3 【メルシー】  
4 <やや左、正面向き、通常距離、通常音量>  
5 いただきまーす！  
6  
7 【主人公】  
8 いただきます！  
9  
10 【メルシー】  
11 うう～。この季節は、ホットココアが体に染みますね～  
12  
13 【ロゼ】  
14 そうね。もう秋だし、この時間帯になると少し肌寒いわ。  
15  
16 【メルシー】  
17 寝る時も厚めの毛布を掛けなきやいけない時期ですもんね～  
18  
19 では、ここで新人くんに質問っ！  
20 「キキーモラはみんな冷え性」という説は、果たして正しいでしょうか？  
21  
22 【主人公】  
23 えっ！？ いきなり！？  
24  
25 【ロゼ】  
26 キキーモラについてまだ教えていないから、今回は間違っても見逃すわ。  
27  
28 【主人公】  
29 ほっ……。正しいと思います。  
30  
31 【メルシー】  
32 おめでとうございます！ 正解～。私達キキーモラは、みんな冷え性なんです。  
33 どうしてかわかります？  
34  
35 あはは、流石にわかりませんよね～  
36 キキーモラは鳥の足などから有翼人族だと思われがちですが、実は獣人族なんで  
37 す。  
38 一番近いのは、そうですね……ウルフ族かもしれません。

1 そして獣人族は、もともと寒い地域で生きている人たち以外はほぼ冷え性で、私た  
2 ちも例外ではないんです。

3 ほら、お店の制服も、新人くんのより私のやつのほうが生地が厚いでしょう？

4

5 【主人公】

6 本当だ……教えてくださってありがとうございます！

7

8 【メルシー】

9 ふふ、感謝されるほどのことじゃありませんよ～  
10 これくらいならいつでも教えて差し上げます～

11

12 【主人公】

13 ロゼ店長も教えていただけますか……？

14

15 【ロゼ】

16 (めんどくさそうに) ……案の定、メルシーの次は私か。まあいいわ、基本的なこ  
17 とくらいは教えてあげる。

18

19 オートマタドールは、転べば足が痛む、熱湯に触れたら火傷する、太陽は眩しい、  
20 レモンは酸っぱい、アラームはうるさい……そんな諸々の「感覚」が、人間とあま  
21 り変わらないの。

22 貴方達が作ったから、似るのも当然だけど。

23

24 ただ、いくら似ていても、ドールは生き物ではない。

25 実際、作られたばかりの時は普通の人形と同じで、動けないし喋れないわ。

26 人形からドールになるためには、「契約者」と「契約術」が必要なの。

27

28 「契約術」というのは鍊金術の中の一つで、二つの契約者を精神的に連結させるた  
29 めの上位術式よ。オートマタドールの体には、そんな連結を受け止めるクリスタル  
30 がある。

31 契約者は契約術を通じて、自らの精神の一部を人形に分けることによって、人格を  
32 持った人形、「オートマタドール」を作り出す。

33

34 契約者はこの時から、ドールの「マスター」となるわ。

35 マスターから分けられた精神のかけらが、ドールの人格のベースとなり、子供と同  
36 じように育つにつれて、独立した人格へと成長していく。

37

38 大体こんな感じね。ここまででは問題ない？

39

1           【主人公】

2            鍊金術には疎いですが……大体は想像できました。

4           【ロゼ】

5            では続いて、ドールの動力について。

7            マスターの精神力の一部は、常にドールの動力として使われているわ。

8            つまり、その精神力さえあれば、ドールは動くことができるの。

9            「寿命」や「病気」という概念は、私達にはない。

10           逆に、再生や修復といった能力もない。手入れをしてもらわないと、どんなに出来  
11            の良いドールでも、最後はジャンクになるわ。

13            そんな悲しい結末を避けるために、ドールには自ら契約を破り捨て、「破棄」でき  
14            る権利が存在する。

15            「契約破棄」したら、契約で得た人格も消滅し、ドールはただの人形に戻る。

16            そして、二度と契約できなくなる。

17            それが、「ドールの死」。

19            【主人公】

20            ……。

22           【ロゼ】

23            ……暗い話でごめんなさいね。けれど、オートマタドールというのはそんなもの  
24            よ。

25            マスターがいないと生きていけない。倫理的に問題があるけどね。

27            もちろん、助手や家族のようにドールに接する良識的なマスターが殆どよ。

28            だけど、悪質なマスターも少数ではあるけど存在した。奴隸としていいように使わ  
29            れたドール、或いは教育やメンテナンスを受けられず、道具のように使い捨てられ  
30            たドールもいた。

31            そして、ある不祥事をきっかけに倫理論争が更に激しくなって、やがて国はオート  
32            マタドールの製造を禁止した。

33            その後、ドールの「コア」、契約用の「ミスティカ・クリスタル」を作る技術も鍊  
34            金術協会に禁術指定されて、すっかりロストテクノロジーとなってしまった。

36            だから、新しいオートマタドールはもう作れないの。

37            まあ、不老不死の人形が見境なく生まれたら、それはそれで不気味でしょうけど。

38

39            ……小難しい話は置いておきましょう。

1 貴方もノートを取るの、疲れたでしょう？

2

3 **【メルシー】**

4 新人くん、真面目な優等生なんですね～

5

6 **【主人公】**

7 いえ、それほどでは……

8 あ、でも、さっき店長が使った人形たちはオートマタドールではないです  
9 よね？

10

11 **【ロゼ】**

12 ええ、仕事をしているこの子達は普通の人形よ。

13 ただ、中に「精霊」がいるの。

14

15 (演出：精霊が飛び出して、魔法のキラキラの音)

16

17 **【ロゼ】**

18 「精霊」っていうとピクシーを想像するかもしれないけど、あれは「妖精」で、異  
19 種族の生物。逆に、これはただのエネルギーの塊で、「命」という概念はない。  
20 だけど僅かに知能があって、錬金術で呼び出して使役することができるわ。

21

22 (演出：精霊が人形に戻ると、一瞬躊躇。ロゼが人形を抱き上げる)

23

24 **【ロゼ】**

25 (人形に向けて、優しく) ……あら、君の体、調子が悪いみたいね。

26 あとで手入れをするから、今は備品で我慢して？

27

28 『精霊が他の人形の元へ飛んでいく』

29

30 **【ロゼ】**

31 (主人公に向けて) 見ての通り、この子達にも手入れが必要よ。  
32 作業自体は好きだけど、あまりにも時間がかかるから、普段は職人に頼んでいる  
33 わ。

34

35 **【主人公】**

36 ……よろしければ、僕に預けていただけませんか？

37

38 **【ロゼ】**

39 (眉を上げる) ……あら？ 貴方、人形の修理もできるの？

1 どうやらただのサルではないようね。

3 【主人公】

4 実家にいた時、妹の遊び相手の人形をよく修理していました。

5 職人ほどの腕じゃありませんが、簡単にならできると思います。

7 【ロゼ】

8 妹の人形の手入れを。そう……。

10 実力はわからないけど、いいわ、試しにさっきのこの子を預ける。

11 おそらく足の関節あたりに問題がありそうだけど、全身のメンテナンスもお願ひ  
12 ね。

13 けれどお試しから、治ったか確認できるまで報酬は渡せないわ。

15 【主人公】

16 いえいえ、報酬なんて。ただでいいですよ。

18 【ロゼ】

19 「ただでいい」、なんてことはないわ。

20 きちんと仕事をこなしたら、きちんと報酬を受け取るのよ。

21 いくら私が貴方の雇い主だからって、貴方の努力を「ただ」にする権利はないはず  
22 よ？

23 結果に応じて、報酬を支払うわ。

25 【主人公】

26 はい！ 頑張ります！

28 【ロゼ】

29 人形の話はもういいかしら？

30 それより、「フラットホワイト」の味はどう？

32 【主人公】

33 ああそうでした！ 僕はこの濃厚さが好きです！

34 市販のインスタントはやっぱり味が無難というか……！

36 【ロゼ】

37 そう、気に入っていたらなによりだわ。

38

39 (コーヒーを飲む) ……今日は少し、ミルクを入れすぎたかも。

1 でも、たまには、こういう甘いのも悪くないかもね。



1 2、露と共に

2 ○Scene 1

3

4 ||||登場人物：メルシー、ヴィンセント、ライズリー夫人、主人公

5 ||||場所：カフェ「朝露」店内

6 ||||シーン内容：主人公がお釣りの金額を間違えたことに対して、ライズリー夫人  
7 が度を超えた苦情を言い、メルシーに差別的な発言をした。事態が大きくなる中、  
8 ヴィンセントが店に来てライズリー夫人を追い出す。

9

10 (アンビエント：店、客のガヤ)

11

12 【メルシー】

13 <やや右、右向き、通常距離、通常音量>

14 いってらっしゃいませ～

15

16 【主人公】

17 ……あっ！ い、いってらっしゃいませ！

18

19 【メルシー】

20 <正面向き>

21 ……？

22 新人くん、ちょっとこっちに。

23

24 (演出：主人公足音)

25

26 【メルシー】

27 <正面、正面向き、近い距離、小さい声>

28 どうしたんですか？ さっきからぼーっとしていますけど、具合が悪いとか？

29 今日はお客様そこまで多くないですし、私一人でも対応できますから、無理しないでください。

31

32 【主人公】

33 すみません先輩……昨晚店長のお人形を手入れするために、ちょっと夜更か  
34 したものですから……。

35 大丈夫ですから、気にしないでください！

36

1   **【メルシー】**

2   まあ。店長のお人形のお手入れを？  
3   でも、夜更かしあはだめですよ。ちゃんと休まないと。  
4   ここからは私がやりますから、新人くんは少し休憩してください。

5  
6   **【主人公】**

7   ……本当に気遣いありがとうございます、先輩。  
8   では、お言葉に甘えて。

9  
10   **【メルシー】**

11   いいですよ～、これくらい。

12  
13   (演出：カフェのドアが激しく開く)

14  
15   **【ライズリー夫人】**

16   <正面、正面向き、通常距離、通常音量>  
17   (高飛車で不機嫌そうに) ちょっと失礼。そこの貴方。

18  
19   そう、貴方。

20   さっき私の会計を担当したわよね？

21  
22   お釣りの金額が間違っていたわ。500 ブラウンジー足りないじゃない。

23  
24   **【主人公】**

25   少々お待ちください。確認します。

26  
27   (演出：レジ打ち)

28  
29   確かに間違っていました、申し訳ございません！ 今すぐお返します。

30  
31   **【ライズリー夫人】**

32   待ちなさい。

33  
34   差額を返しただけで済むと思っているのかしら？

35   よく聞きなさい。私はとても忙しいのよ？

36   貴方がミスしたせいで、忙しい中わざわざここに戻ってきたの。  
37   まさか、移動に費やした時間と、今貴方に説明している時間を、無駄にさせるつも  
38   りじゃないでしょうね？

39

1 なに、その顔は。

2 要求は簡単よ。賠償金を払っていただくわ。金額は……そうね、500 シルバリオ  
3 ン。

4

5 【主人公】

6 シ、シルバ！？ お、お言葉ですが、百倍は流石に……！

7

8 【ライズリー夫人】

9 ええ、確かに百倍だけど、それがなにか？

10 元々、貴方が間違えたせいなのよ。

11 さっきも言った通り、私はとても忙しいの。私の経営している会社は、秒単位で利  
12 益が発生するのよ。たった 500 シルバリオンで済むなんて運が良いと思いなさい。  
13 さあ、早く支払ってくれないかしら？ でないと、1 分ごとに 100 シルバリオンを  
14 追加するわよ。

15

16 (演出：メルシー足音)

17

18 【メルシー】 (慌てて主人公を助けに)

19 <やや右、右向き、通常距離、通常音量>

20 申し訳ございません。この子はここに来たばかりで、まだ慣れていないんです。ど  
21 うか大目に見ていただけないでしょうか？ お釣りの不足分はお返しします。  
22 ですが、賠償金の要求には応えられません。度を超えたクレームは一切対応しかね  
23 ます。

24 それから、まだ営業中ですので他のお客様にご迷惑のかかる行為はおやめくださ  
25 い。これ以上の営業妨害は、通報させていただきます。

26

27 【ライズリー夫人】

28 (蔑む) ……貴女、なに？ 外見からして、キキモラかしら？

29

30 はっ、使用人として使われている一族でしょう？

31 そんな下僕ごときがこの私に歯向かうというの？ 笑わせないで。

32 使用人は使用人らしく黙って隅で働いてなさい、ここに貴女の出る幕はないわ。

33 それに、何？ 通報？ 営業妨害？ やってみなさいよ、私の夫を誰だと思ってい  
34 るの？

35

36 『ヴィンセントが店の扉を開き、登場』

37 (演出：扉開け閉め、カランコロン)

38

39 【ヴィンセント】

1 <やや左、左向き、通常距離、通常音量>  
2 おや。珍しく騒がしいと思えば……ライズリー家のご夫人ではありませんか。  
3  
4 【ライズリー夫人】  
5 <右向き>  
6 ……っ！ あ、貴方！ ヴィンセント・ラグランジュ……！  
7  
8 【ヴィンセント】  
9 ごきげんよう、ライズリー夫人。ここでお会いするとは奇遇ですね。  
10 コーヒーを飲みにいらしたのですか？  
11  
12 【ライズリー夫人】  
13 わ、私が何をしているかなんて貴方には関係ないでしょう！？  
14  
15 【ヴィンセント】  
16 どうやらお釣りの額が間違っていたようですね。  
17 (皮肉) 盗み聞きするつもりではなかったのですが、夫人の声が店の外にまで聞こ  
18 えてきたもので。  
19  
20 <正面向き>  
21 そこの貴方、間違った金額は如何ほどですか？  
22  
23 【主人公】  
24 ご、500 ブラウンジーです。  
25  
26 【ヴィンセント】  
27 左様、500 ブラウンジーですか。  
28  
29 <左向き>  
30 しかし小生が表で聞いたのは、500 シルバリオンの賠償、とのことでしたが……  
31  
32 【ライズリー夫人】  
33 ……。  
34  
35 【ヴィンセント】  
36 「会社の利益」に、「忙しいから」ですか。そのような理由で言いがかりをつける  
37 とは。  
38 かつて「富の魔術師」と呼ばれた名門のライズリー家も、落ちたものですね。  
39

1 確かに、昔のライズリー殿は富も名譽も手に収めていましたが……もう過去のこと  
2 です。

3 現在はそれが原因で、夫人の会社が傾いているわけですが……違いますか？

4

5 **【ライズリー夫人】**

6 くっ……！ 貴方みたいな古物商に言われる筋合いは……（ヴィンセントに遮られ  
7 る）

8

9 **【ヴィンセント】**

10 それに、接客や従者を務める種族は自分より格下だという思考は、時代錯誤です。  
11 一方、メルシーさんは謙虚で、その上ご家族のために働いていらっしゃる。

12

13 （皮肉）お言葉ですが、過ぎ去った栄光に縋り迷惑をかけていらっしゃる方よりも、ずっと真っ当な生き方に思えますがねえ。

14

15 **【ライズリー夫人】**

16 き、貴様ア……！

17

18 **【ヴィンセント】**

19 ああ、最後にもう一つ。危うく忘れるところでした。

20 ライズリー夫人、もうすぐ約束の日ですが、今度こそ、返済の準備はできています  
21 よね？

22

23 **【ライズリー夫人】**

24 ……ヴィンセント……覚えてなさいっ！ いつか、いつか……！

25

26 （演出：扉が激しく開いて閉まる、ライズリー夫人退場）

27

28 **【ヴィンセント】**

29 （呟き）……これで少しばかりたでしょう。

30 メルシーさん、大丈夫ですか？

31

32 **【メルシー】**

33 は、はい、ヴィンセントさん！

34 本当にありがとうございます！

35

36 **【ヴィンセント】**

37 それなら良かったです。

38

1 <後ろ向き>  
2 (店の客に対して) 皆さん、コーヒーの時間のお邪魔をして申し訳ありませんでした。  
3 どうか皆さんのが注文された分は、小生にご馳走させてください。  
4 では、ごゆっくり。

5  
6 【メルシー】  
7 あ、あの！ いいんですか？  
8 元はといえばこちらのミスのせいですし、ヴィンセントさんが支払われるのは流石に……。

9  
10  
11 【ヴィンセント】  
12 <左向き>  
13 いいんですよ。ここはお気に入りの店ですからね。  
14  
15 ライズリー夫人があんな風になってしまったのも、時の運に恵まれなかつたゆえ。  
16 それには同情しますが、今回ばかりは流石にやり過ぎです。特に、メルシーさんに  
17 あのようなことを仰つたとあれば……見過ごすわけにはいきません。

18  
19 【メルシー】  
20 あ、あはは……ですが事実ですし、そういう風に思われてもしょうがないですよ。  
21 私は別に気にしていません。周りの人はみんな優しいですからね～

22  
23 【ヴィンセント】  
24 メルシーさんのその考え方、小生は心の底から尊敬します。

25  
26 【メルシー】  
27 ヴィンセントさん、大げさですよ！  
28 私、元気だけが取り柄なんですから～

29  
30 【ヴィンセント】  
31 そう謙遜なさらずに。  
32 ところで、こちらの青年は？

33  
34 【メルシー】  
35 ああ、そうでした！ ヴィンセントさんは初めてお会いしますよね！  
36 先週からここでバイトを始めた、新人の大学生さんです！

37  
38 【主人公】  
39 会計と清掃を主に務めています！ よ、よろしくお願ひします！

1  
2     【ヴィンセント】  
3     <正面向き>  
4     ご丁寧にありがとうございます。小生は、ヴィンセント・ラグランジュと申します。以後お見知り置きを。  
5  
6  
7     <左向き>  
8     新たな働き手を雇われたとは……それだけ繁盛しているということですね。喜ばしいことです。  
9  
10  
11    【メルシー】  
12    ええ。これもヴィンセントさんたち常連のお客さんのおかげです。  
13  
14    <正面向き>  
15    新人くん、ヴィンセントさんはこの前お話しした、百日連續でうちのコーヒーを頼んだ伝説の方ですよ！  
16  
17  
18    【主人公】  
19    は、はあ……そ、そうですか……。  
20  
21    【ヴィンセント】  
22    (苦笑い) メルシーさん、そういう紹介のされ方は少々心外ですよ。  
23    彼も困惑しているではありませんか。  
24  
25    <正面向き>  
26    冗談はさておき、あのときはこの目でロゼ様を拝見できて幸せでした。ですがもう、あのようなことはいたしませんよ。  
27  
28    今はただの客ですから。どうぞ今後ともよろしく。  
29  
30    【主人公】  
31    こ、こちらこそ……！ さっきの件もありがとうございました！  
32  
33    【ヴィンセント】  
34    先程の件でしたら、お気になさらず。偶然居合わせただけですので。  
35  
36    <左向き>  
37    ではメルシーさん。早速ですが、いつものをお願いしてよろしいですか？  
38  
39    【メルシー】

1 <右向き>  
2 かしこまりました！ ご注文ありがとうございます～  
3 お席はこちらです。  
4

5 ○Scene 2

6  
7 ||||登場人物：ロゼ、メルシー、ヴィンセント、主人公  
8 ||||場所：カフェ「朝露」店内  
9 ||||シーン内容：ライズリー夫人のメルシーに対する差別的な発言に心を痛める主  
10 人公と、それを優しく慰めるロゼ。主人公の人形修理のチェックをして、今後は二  
11 人で修理の作業をすると約束する。

12  
13 (アンビエント：夕暮れ)

14  
15 【ヴィンセント】

16 <やや左、左向き、やや遠い、通常音量>  
17 では、小生はこれで。

18  
19 【メルシー】

20 <やや左、右向き、やや遠い、通常音量>  
21 今日もご来店ありがとうございました、ヴィンセントさん！  
22 お気をつけて。

23  
24 【ヴィンセント】

25 ええ、またお会いしましょう。

26  
27 『ヴィンセント退場』  
28 (演出：扉開け閉め、カラソコロン)

29  
30 【メルシー】  
31 <やや左、左向き、やや遠い、大きい声>  
32 新人くん、店長、閉店の準備に入りますよー！

33  
34 【主人公】  
35 わかりました！  
36  
37 『ロゼ、キッチンから出てくる』

1 (演出：てくてく)

2

3 (演出：メルシーと主人公の足音)

4

5 【ロゼ】

6 <やや右、正面向き、通常距離、通常音量>

7 二人とも、今日もお疲れ様。

8 午後の騒動の件、ヴィンセントに助けてもらったんですって？ 大丈夫だった？

9

10 【メルシー】

11 <やや左、正面向き、通常距離、通常音量>

12 はい、おかげでいつも通りの営業に戻れました！

13

14 【ロゼ】

15 ……借りを作りたくはないけど、今回は彼に感謝しなければならないわね。

16 新入りもあまり気負わないで。ミスは誰にでもある。今日はたまたま運が悪かっただけよ。でも、悪質な客の対応は早く覚えたほうがいいわね。

17

18 ……新入り？ 貴方、大丈夫？ 具合が悪いの？

19 睡眠不足……。

20 もしかして、ドールの修理をしていたから？

21 はあ……少し力を抜きなさい。あれはあくまでも「余裕があれば」の話よ。

22 昨晩は夜更かし、今日の午前は授業、午後はバイト。道理で顔色が悪いわけだわ。

23 あとは私とメルシーでやっておくから、早めに帰りなさい。

24

25 ……もう修理、終わったの？ わかったわ、片付けが終わったら見てみましょう。

26 じゃあ、あと少し頑張って。

27

28 『時間経過』

29

30 【メルシー】

31 (独り言) これで、大体終わりましたよね？

32

33 <やや右、右向き、通常距離、通常音量>

34 店長一、今日はお家の手伝いがあるので、先に帰らせていただきますね！

35

36

37

38

39 【ロゼ】

1 <やや左、左向き、通常距離、通常音量>  
2 ええ。お疲れ様、メルシー。

3

4 **【メルシー】**

5 お疲れ様でした！ ではまた明日！  
6 <正面向き>  
7 新人くんも頑張ってください！

8

9 【主人公】  
10 先輩お疲れ様です！

11

12 **【ロゼ】**  
13 また明日。

14

15 (演出：扉開け閉め)  
16 『メルシー退場』

17

18 **【ロゼ】**  
19 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>  
20 では、修理の結果を見ましょうか。キッチンに向かいましょう。  
21  
22 (演出：二人の足音、扉開け閉め)  
23 (演出：主人公が修理の終わったドールをテーブルの上に置く)

24

25 **【ロゼ】**  
26 (観察しながら) ……ふむ。  
27 職人に比べればやっぱり細かい部分は荒いけど、この感じなら日常的な使用には問題なさそうね。

29

30 <右向き>  
31 (精霊を呼ぶ) ボディーの修繕が終わったわ。ちょっと試してもらえないかしら？

32

33 (演出：精霊がドールに入り、簡単な動きをする)  
34  
35 見た感じ……大丈夫そうね。調子も良さそう。  
36  
37 <正面向き>  
38 うん、これでメンテナンス完了としましょう。礼を言うわ。  
39 報酬は……そうね……これくらいでどうかしら？

1  
2       【主人公】  
3     えっ、そんなに！？ こうなると逆に申し訳ないといいますか……。

4  
5       【ロゼ】  
6     言ったはずよ？ 成果に応じて報酬を与えると。

7     いい仕事をすれば、いい額を貰える。合理的でしょう？  
8     それに、本物の職人に頼るとこの倍かかるから、私にとってこれは安い方よ。  
9     だから今後の成長を期待しているわ、新入り。

10    あら……？ 浮かない顔ね。どうかした？

11    今日のこと？ あれは貴方が気に病むことじゃない。  
12    ああいう悪質な客は、サービス業を営む以上必ず出くわすものよ。  
13    いちいち凹んでいたら仕事ができなくなるわ。

14    そうじゃない？ メルシーに掛けた言葉……？  
15    キッチンにいたからうまく聞き取れなかつたけど、あの女、何て言ったの？

16  
17    『主人公説明中』

18    ……なるほど。事情はわかつたわ。

19  
20    ……貴方、面接の時、異種族と交流する為にこの国に来たって言ったわよね。  
21    確かにここトランシウィリアには様々な種族がいて、平和な交流がなされている。  
22    けれど、それはあくまでも国や社会といった大きな視点から見た形にすぎないわ。  
23    実際のところ、今の平和は各種族の力が絶妙なバランスを保ってきたから成立して  
24    いるの。  
25    だから日常において、種族間の嫌悪や差別、対立なんかは、規模は小さいものの存  
26    在しているのよ。  
27    貴方が聞いたような蔑む言葉も、その一部。

28  
29       【主人公】  
30     もしかして、大学でんなことがあったのもそれが……

31       【ロゼ】  
32     そう……貴方の大学でも似たようなことがあったのね……

33  
34       【主人公】

1 はい、同じ課程を履修しているクラスメイトです。  
2 いじめ……とまではいかなかつたですが、周りの当たりがやたら強かつたと  
3 いうか。  
4 でも、僕を含めてそれを許さない人もいましたし、当人は元気そうなので良  
5 かつたですが。

6

7 **【ロゼ】**

8 この国は、貴方の理想と違って幻滅したかもしれないけど、おとぎ話のような綺麗  
9 事は現実ではあり得ない。

10 だけど、メルシーも言っていたでしょう？ 「周りの人が優しいから、気にしている  
11 ない」って。

12 貴方のそのクラスメイトも、貴方や仲間たちが守ってくれるから、元気を貰えたと  
13 思うわ。

14 優しくしてくれる人がいれば、他人からの悪意に立ち向かえるものよ。

15 この「朝露」も、人々にそんな力を与える「繋がり」を築ける場所になってほし  
16 い。

17 何の変哲も無い、のんびりしたカフェだからこそ、穏やかな気持ちで他愛もない話  
18 をして、繋がりを築き、深めていく。

19 ……大層な話かもしれないけど、少なくとも私は、そうなるよう願っているわ。

20 来店客が最初に顔を合わせる貴方とメルシーは、その「繋がり」の最初の輪。

21 だから、嫌な現実を知っていても、どうかその優しい心を失わないで。

22

23 **【主人公】**

24 いや、僕が優しいだなんて……。

25

26 **【ロゼ】**

27 ふふ、過剰な謙遜は無礼にあたるわよ。

28 ドールは鏡のようなもの。ドールの扱いを見れば、その持ち主の心がわかる。

29 私は、貴方の手入れの成果を見たわ。

30 貴方は十分優しい。だから、責任を感じる必要はないわ。

31 次のメンテナンスは、このキッチンでやって頂戴。

32 道具も、私が使っていたものを貸してあげる。

1 それから、メンテナンスのテクニックも少し教えるわね。

2

3 【主人公】

4 本当にいいんですか！？

5 その、教わる立場なのにさらに報酬まで貰えるなんて……。

6

7 【ロゼ】

8 そういえばそうね……

9 授業料……とまでは言わないけど、技術を授ける報酬として、メンテナンスの金額  
10 から少し引かせてもらうわ。

11 それでいい？

12

13 じゃあ、そうするわね。

14

15 『少しの沈黙』

16

17 【ロゼ】

18 ……もう気分は晴れた？ 大丈夫？

19

20 【主人公】

21 はい、おかげさまで。

22

23 【ロゼ】

24 それならいいわ。

25 礼はいらないから、早く家へ帰りなさい。

26 もう遅いし、私も疲れたわ。

27 貴方、すっかりヘロヘロよ？ 気づいてる？

28

29 ええ、お疲れ様。

30

31 また明日ね、新入り。

32 今夜はいい夢を見られますように。

33

34



1 ACT II

2 3、趣味の沼にご用心

3 ○Scene 1

4

5 ||||登場人物：ロゼ、主人公

6 ||||場所：カフェ「朝露」キッチン

7 ||||シーン内容：ロゼの指導下でドールの修理を学ぶ主人公。

8

9 (アンビエント：夕暮れ)

10 (演出：フェードイン)

11

12 【ロゼ】（ここからあえてセンシティブな言い方にしていますので、艶っぽい演技  
13 をお願いします）

14 <正面、正面向き、近い距離、小さい声>

15 そして、ここは、んつ、ローションは少なめのほうが逆に動かしやすいわ。

16

17 【主人公】

18 えっと……こんな感じですか？

19

20 【ロゼ】

21 ええ……それくらいで十分よ。ゆっくり前後に動かして。

22

23 そうよ、上手ね、ふふ。

24 あっ、ペースが少し早いわ。もっと優しくして？

25

26 ふむ……やっぱり言葉だけだと伝わらないわね。

27 仕方がないわ、手を貸して。手取り足取り教えてあげる。

28

29 こんな感じで、ゆ一っくりと、ね。

30 (センシティブな部分はここで終わり)

31

32 【ロゼ】

33 <通常音量>

34 ……なに？ さっきからセンシティブ？

35

1 (困惑) ……なんのことかしら？ 人形の関節に潤滑剤を塗っているだけでしょ  
2 う。

3  
4 ローション？ 潤滑剤だからローションでしょう？ それがなにか？  
5 (イラ) 何でもないなら手のリズムに集中なさい。

6  
7 『少しの沈黙』  
8

9 **【ロゼ】**  
10 大体こんなところね……ここはもういいわ。  
11 他のところも同じように続けて。

12  
13 【主人公】  
14 わかりました！ 頑張ります！  
15

16 **【ロゼ】**  
17 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>  
18 それにしても、本当に手先が器用ね。飲み込みも早いし。  
19 私がドール職人だったら、喜んで貴方を弟子にしていたわ。  
20  
21 冗談ではないわよ。その気があるなら試してみたら？  
22 そのうち名のあるドールメーカーになっているかもね。

23  
24 はあ……その自信がなさすぎるところは、貴方の欠点よ。  
25 ドールの私が言っているのだから、自分の力を信じなさい。

26  
27 『少しの沈黙』  
28 (演出：ドールの手入れ作業)  
29

30 ん？ どうしたの？  
31 ああ、私のことは気にしないで。他にやることがないから、暫く作業を見てみたい  
32 だけ。  
33 邪魔するつもりはないけど……嫌なら自室に戻るわ。

34  
35 そう？ じゃあここにいるわね。

36  
37 『少しの沈黙』  
38 (演出：ドールの手入れ作業)  
39

1 (うつとりと) ……貴方の手つき、好きよ。  
2 昔のことを思い出すわね……。

3  
4 **【主人公】**

5 そういえば、ここに来てもう二ヶ月くらい経ちましたけど、店長さんのマス  
6 ターさんは見かけないですね。

7  
8 **【ロゼ】**  
9 私のマスター……？

10 とても忙しい人だから、ここ数年はずっと遠いところにいて、戻って来ていない  
11 の。連絡は取っているけど。

12  
13 **【主人公】**

14 数年って……店長この前、きちんと手入れしないとダメって言ってたじゃな  
15 いですか。

16  
17 **【ロゼ】**  
18 あら、私のことを心配しているの？

19 ふふ、大丈夫よ。ツールさえ揃えば、オートマタドールは自分で手入れすることも  
20 できるから。

21 知識はマスターから教えてもらう必要があるけどね。  
22 もちろん手入れできるところは限られているけど、普通に生活する程度なら長くも  
23 つわ。

24  
25 でも精霊たちは自分でできないから、その子達のボディーメンテナンスは私がやる  
26 しかない。

27  
28 (ポツリと) だから……少しだけ、羨ましいわね。  
29 誰かに手入れされるというの……。

30  
31 **【主人公】**

32 ロゼさん……。

33  
34 **【ロゼ】**  
35 ……なんでもないわ。独り言よ、忘れなさい。

36  
37 『少しの沈黙』  
38 (演出：ドールの手入れ作業)

1 【ロゼ】

2 あら？ 上半身はもう終わったの？ 続けてこの子の下半身もお願ひね。

4 【主人公】

5 わかりました！

7 『少しの沈黙』

8 (演出：ドールの手入れ作業)

11 【ロゼ】

12 新入り。

14 【主人公】

15 えっ？ はい。

17 【ロゼ】

18 さっきから、手の動きが止まりがちよ。

19 集中力が切れているなら、少し休んだ方がいいわ。

21 ……なんでもないはずがないわ、休憩して……

23 大丈夫？ 本当に？

25 ……貴方がそう言うならいいけど、疲れのせいでボディーを壊したら弁償してもら  
26 うわ。

27 言っておくけど、この人形たちは安くはないわよ？ 気を付けてね。

29 【主人公】

30 は、はい……気をつけます！

32 『少しの沈黙』

33 (演出：ドールの手入れ作業)

35 【ロゼ】

36 (呆れて) ……はあ、新入り。

38 【主人公】

39 は、はいい……。

1  
2     【ロゼ】  
3     さっきから、たびたびこちらを見ているようだけど。  
4  
5     ええ、もちろん、バレているわ。  
6     私に何かついているなら、遠慮なく教えてほしいのだけど。  
7  
8     【主人公】  
9     何でもありません……。  
10  
11    【ロゼ】  
12    ……予想通りの答えね。そろそろ貴方が嘘をつく時の癖がわかつてきたわ。  
13  
14    【主人公】  
15    本当に何でもありませんっ！  
16  
17    【ロゼ】  
18    ……「何でもない」で通そうとしても無駄よ。  
19    絶対に怒らないから、教えて頂戴。  
20  
21    【主人公】  
22    ロゼさんにだけは絶対に言えません……！　どうぞ鞭で叩いてください…  
23    …！  
24  
25    【ロゼ】  
26    (怪訝そうに) 何も言っていないのに叩かれたいの？  
27    貴方、さっきからおかしいわよ？  
28  
29    【主人公】  
30    と、とりあえず僕はキッチンをお借りします！  
31    そちらにいた方が、しゅ、集中できますので！  
32  
33    【ロゼ】  
34    え、ええ……もちろん、キッチンは使っていいけど……。  
35  
36    (演出：ドア開け閉め)  
37    『主人公がその場から逃げるように退場』  
38  
39    ……どういうこと？

1  
2 (演出：静かな部屋、時計の針の音)  
3

4 **【ロゼ】** (心の声)

5 静かになったわね……。

6 この静けさは、随分前に慣れたはずだったのに……。

7 自分の人形が羨ましいだなんて……私も、まだまだだわ。

8  
9 でも、しょうがないじゃない。

10 热心に人形の手入れをする姿を、この目で見てしまったんですもの。

11 彼の優しさは、偽りも曇りもなく本物。

12  
13 だから……どうしても求めてしまう。  
14 ただ、それは私にとって一番求めてはいけないもの……。

15  
16 ……いつか、彼に手入れされる日が、くるのかしら……？

17 つ……！ 私ってば、何を考えているの！？ 妄想にも程があるでしょう！

18 そ、そんなことをしたら、恥ずかしくて誰にも顔向けできないわ！

19  
20 ……あら？ そういえば、さっき「私にだけ」は絶対言えないって言っていたけど、もしかして——

21  
22 (演出：主人公がキッチンから出てくる、扉開け閉め)

23 **【ロゼ】**

24 (驚く) っ！

25 (恥ずかしく) ヲ、コホン！ お、終わった、かしら？

26  
27 **【主人公】** (恥ずかしい)

28 は、はい、確認、お願ひします……。

29  
30 (演出：主人公が修理の終わったドールをテーブルの上に置く)

31  
32 **【ロゼ】** (恥ずかしい)

33 え。ええ。わかったわ。

34 35 ボディーのチェック……するわね。

36  
37 38 『少しの沈黙』

1 いいわ……重要なところは、すべて抑えているみたい。  
2 人形の整備、これなら……任せられるわ。  
3  
4 【主人公】  
5 は、はい……。  
6 え、えっと、では今日はこの辺で、僕は先に……  
7  
8 【ロゼ】 (恥ずかしい)  
9 ……待って。  
10 貴方がさっき、なにを考えていたのかは、正確にはわからないけど……  
11  
12 『ロゼが背を向けて』  
13  
14 <正面、後ろ向き、通常距離、通常音量> (ここは多分あまり聞き取れないと思います)  
15  
16 (独り言) ……お、おあいこだわ。  
17  
18 【主人公】  
19 あの、店長、何を言って……  
20  
21 【ロゼ】  
22 <大きい声>  
23 (恥ずかしさを隠すために怒る) 聞こえていないなら気にしないでっ！  
24 私は疲れたわ、もう帰っていいわよっ！  
25  
26 (演出：てくてく、ドア開け閉め)  
27 『ロゼ退場』  
28  
29 ○Scene 2  
30  
31 | | | | 登場人物：メルシー、ヴィンセント、モブ客1 & 2、主人公  
32 | | | | 場所：カフェ「朝露」店内  
33 | | | | シーン内容：偶然「スカーレット・タイラント」の名前を知った主人公。ヴィ  
34 ンセントに詳しい話を聞き、彼からドール関連の本を借りる。  
35  
36 (アンビエント：店、客のガヤ)  
37

1           **【モブ客1】**  
2    <やや左、正面向き、通常距離、通常音量>  
3    お会計お願いします！  
4  
5    <左向き>  
6    ふふ、この店いいでしょ？  
7  
8           **【モブ客2】**  
9    <やや右、右向き、通常距離、通常音量>  
10   ええ、コーヒーもご飯もとっても美味しい！  
11   店長は見かけないけど……  
12  
13           **【モブ客1】**  
14   ああ、それなら諦めて～  
15   私は数ヶ月ここに通ってるんだけど、店長の顔は一度も見たことがないの。  
16  
17   あっ、そういえば、ここの店長、オートマタドールらしいわよ？  
18  
19           **【モブ客2】**  
20   オートマタドールって、あの？  
21  
22           **【モブ客1】**  
23   ええ、あの。  
24  
25   <正面向き>  
26   あっ、お釣りありがとう～  
27  
28        『モブ客、店の外へ向かって歩き始める』  
29  
30           **【モブ客2】**  
31   <やや左、左向き、通常距離、通常音量>  
32   昔不祥事があったんだっけ？  
33  
34           **【モブ客1】**  
35   <やや左、左向き、通常距離、通常音量>  
36   ああ、そうそう。「スカーレット・タイラント」だっけ？  
37  
38        『モブ客、退場』  
39        (演出：扉開け閉め)

1  
2       【主人公】  
3        ……「スカーレット・タイラント」？  
4  
5       【メルシー】  
6       <やや右、正面向き、通常距離、通常音量>  
7       新人君～、もう交代していいですよ～  
8  
9       【主人公】  
10      メルシー先輩、「スカーレット・タイラント」って知っていますか？  
11  
12      【メルシー】  
13      「スカーレット・タイラント」……？  
14      んー、そういえば昔、事件がありましたっけ。  
15      オートマタドールに関係があったような……？  
16      詳しいことは私も知らないんです。店長やヴィンセントさんに伺った方が早いと思  
17      いますよ。  
18  
19      (演出：ドア開け閉め)  
20      『ヴィンセント登場』  
21  
22      【ヴィンセント】  
23      <やや左、正面向き、通常距離、通常音量>  
24      ごきげんよう、メルシーさん。青年くんも元気そうでなによりです。  
25  
26      【メルシー】  
27      <右向き>  
28      あっ、ヴィンセントさんこんにちは～  
29      丁度良かったです。お尋ねしたいことがあるんですが……！  
30  
31      【ヴィンセント】  
32      ほう。小生に聞きたいこととは、もしや、オートマタドール関連でしょうか？  
33  
34      【主人公】  
35      はい、その通りです。  
36      あの、「スカーレット・タイラント」という名前はご存知でしょうか？  
37  
38      【ヴィンセント】

1 ……「スカーレット・タイラント」。昔、ある惨劇を起こした幻の呪い人形です  
2 ね。  
3 ドール愛好家の間で、その話を知らない人はほぼいません。  
4 もちろん、小生も存じております。

5  
6 【主人公】  
7 の、呪い！？  
8

9 【ヴィンセント】  
10 ああ、呪いといつても、おそらく想像されたものとは違います。  
11 ……ふむ、そうですね。ここで立ち話も何ですし、もし青年くんがこのことに興味  
12 がおありでしたら、バイトのあとに図書館へ来ていただけませんか？  
13 古い資料がありますから、それを使って説明した方がわかりやすいかと。

14  
15 <左向き>  
16 もちろん、メルシーさんもご一緒にどうぞ。  
17

18 【メルシー】  
19 私はお家の手伝いがあるので、今夜は難しいかもしれません。  
20

21 <正面向き>  
22 新人くん、私の分までお話、聞いてきてください。  
23

24 【ヴィンセント】  
25 左様ですか。  
26  
27 <正面向き>  
28 では、青年くん。また後ほど。  
29  
30 <左向き>  
31 メルシーさん、席の案内をお願いできますか？  
32

33 【メルシー】  
34 <右向き>  
35 はい！ こちらへどうぞ！  
36

37 『場面転換、図書館にて』  
38 (アンビエント：図書館)  
39

1      **【ヴィンセント】**

2      <正面、正面向き、通常距離、通常音量>

3      ああ！ お待ちしていましたよ。

4      丁度、当時の新聞を見つけたんです。これを読んでいただければ、概ね事件の流れ  
5      はわかるかと。

6

7      (演出：新聞紙をテーブルに置く)

8

9      (語るように) 「スカーレット・タイラント」 ……それは数十年前、小生がまだ子  
10     供の頃でした。

11     錬金術協会の建物の一つが、オートマタドールに破壊されたのです。幸い死者は出  
12     ませんでしたが、重傷者は多かったとか。

13

14      **【主人公】**

15      建物一つを！？

16

17      **【ヴィンセント】**

18     ええ。いくら錬金術の結晶といわれたオートマタドールでも、本来そんな力は備わ  
19     っていません。捜査に当たった方も頭を抱えたでしょうね。

20     小生の記憶が間違っていなければ、巷の噂によると、どうやら事件には錬金術協会  
21     が関わっていたらしいのです。

22     事実かはわかりませんが、当時の錬金術協会にとってこれは大きな不祥事となり、  
23     後のオートマタドールの製造禁止令と、既存のドール達を管理する為の「ドール名  
24     簿」の設立に直結したそうで。

25

26     どちらにせよ、もうだいぶ前のことです。現代では、そのようなことはもう起きな  
27     いでしょう。

28     しかし、その事件自体は、完全に解明されたわけではありませんでした。

29     いえ、それどころか謎だらけですね。

30     例えば、「スカーレット・タイラント」の行方は、未だに掴めていないとか。

31

32      **【主人公】**

33      えっ！？

34

35      **【ヴィンセント】**

36     ボディーは回収されていませんし、今どこにいるのかもわかつていません。

37     事件のあと、錬金術協会と警察がドールを探したものの、全く手がかりが掴めず、  
38     謳めたようです。

1 警察はともかく、ドールの製造を管理している鍊金術協会がなにも知らないのは、  
2 流石におかしいと思いますね。

3

4 【主人公】

5 で、でも、オートマタドールなら、マスターの方に聞けばなんらかの手がか  
6 りが手に入るはずでは……？

7

8 【ヴィンセント】

9 錛いですね、青年くん。そこも、この事件のおかしなところです。

10 「スカーレット・タイラント」のマスターについては、公表されていない。

11 鍊金術協会がその者を収容したと聞きましたが、これも憶測にすぎません。

12 それに、鍊金術協会は現在も「スカーレット・タイラント」を探しているという噂  
13 まであります。つまり——

14

15 【主人公】

16 そのドールはまだ存命している……？

17

18 【ヴィンセント】

19 ふふ、ご明察。

20 ドール愛好家の間では、「スカーレット・タイラント」がまだ生きていると推測す  
21 る人は、少なくありません。

22 数十年前のことですから、元のマスターはおそらくこの世を去っているでしょう。  
23 ですが、マスターを変えた可能性も十分にあります。

24 わけのわからない力を使っていたわけですし、新しいマスターを探すのもそう難し  
25 くはないかと。

26 ドール愛好家としては、是非いつかこの目で「スカーレット・タイラント」の姿を  
27 挥んでみたいものですね。

28

29 【主人公】

30 えっ、でもそれ、危険じゃ……

31

32 【ヴィンセント】

33 危険はもちろん承知しています。しかし、山岳調査やダイビングだって同じことで  
34 しょう？

35 何かを得るためにには、それに伴うリスクを背負わなければならない。

1 ですが、ここ数十年似たようなことは起きていませんので、「スカーレット・タイ  
2 ラント」が実在したとして、特段目立ったことはしていないようですね。

3

4 【主人公】

5 なるほど……それで、その……

6 「スカーレット・タイラント」って、本名ではありませんよね？

7

8 【ヴィンセント】

9 ははは、こんな派手な名前、もちろん本名ではありません。

10 事件の目撃者曰く、そのドールは全身に赤い炎を纏い、暴君のように力を振りかざ  
11 していたと……だから「スカーレット・タイラント」と呼ばれるようになった。  
12 まるで虚構の作品から出てきた悪役だと語るほど、インパクトが強かったそうです。

13

14 それで事件以降、いつの間にかそのドールが都市伝説になり、「彼女の姿を見た者  
15 は、必ず不幸に遭う」という呪物並みの噂まで出回った。

16 それが、幻の呪い人形「スカーレット・タイラント」なのです。

17

18 【主人公】

19 なんか、すごいですね。オートマタドールって。

20

21 【ヴィンセント】

22 ふふ、そうですよ。

23 オートマタドールは人造物でありながら、自ら思考を巡らせ、自らの意思で動き出  
24 す。

25 精密に作られた体、整った顔立ち、そして可愛らしさも、美しさも、気高さも、す  
26 べて備えている。

27 ですから、そんなドールに魅了される者が大勢いるのですよ。

28

29 【主人公】

30 .....

31

32 【ヴィンセント】

33 おや、どうやら、思い浮かんだドールがいるようですね？

34

35 【主人公】

36 い、いえ、そんなことは！

37

38 【ヴィンセント】

1 ははは、恥ずかしがる必要はありませんよ。ドールとはいえ、彼女達には人格があ  
2 ります。

3 それにロゼ店長は、立派なレディーですね。

4 気高く美しい女性に惚れるのは男の性。貴殿が彼女を気にかけているのは、彼女を  
5 「モノ」ではなく、一人の「人間」として認識している証拠です。誇れることだと  
6 思いますよ。

7

8 小生はこの二ヶ月、ずっと見ていました。ロゼ店長について語る時、貴殿の目に普  
9 段は見せない光が宿っていた。

10 ドールに興味があるのは一目瞭然ですが、それ以上に、もしや彼女自身に惹かれて  
11 いるのではと、小生は思ったのです。

12

13 ああ、プライベートな感情の推測は失礼でしたね。

14 まあ、小生と同じようにドールに興味を持った時点で、我々は同志ですよ。

15

16 丁度いい機会です。何冊かの本をお貸ししましょう。

17 オートマタドールについて、もっと知りたいのでしょうか？

18

19 【主人公】

20 え！？ いいんですか！？

21

22 【ヴィンセント】

23 ええ、もちろんいいですよ。すでに研究が済んだ本もありますから。

24

25 (演出：本を取り出す)

26

27 こちらです。

28

29 【主人公】

30 わざわざありがとうございます！！！

31

32 【ヴィンセント】

33 いえいえ、一人でも多くの方にドールの魅力を知っていただければ、小生にとって  
34 これ以上の喜びはありませんから。

35 こちらの本は小生個人のものですので、返却期限は特にありません。読み終わった  
36 タイミングで返していただいて構いませんよ。

37

38 【主人公】

1 ほ、本当ににからなにまで……！

2

3 **【ヴィンセント】**

4 お気になさらず。いつも朝露でお世話になっていますし、こうして趣味に関するこ  
5 とでお役に立てて嬉しいです。

6 ですが、気をつけてください。気づかぬうちに多くの時間と費用を使い込んでしま  
7 いますよ。

8 小生も経験しましたからね、ははは。

9

10 **【主人公】**

11 あはは、気を付けます。

12

13 **【ヴィンセント】**

14 ふむ……いつの間にか時間になってしまいました。今日はこのあたりでお開きとし  
15 ましょう。

16

17 **【主人公】**

18 はい！今日はありがとうございました！

19

また朝露にお越しください！

20

21 **【ヴィンセント】**

22 ええ、また朝露で会いましょう、青年くん。

23



1 4、悩みはガールズトークで

2 ○Scene 1

3

4 |||| 登場人物：ロゼ、メルシー、主人公

5 |||| 場所：カフェ「朝露」キッチン

6 |||| シーン内容：「朝露」に纏わる「スカーレット・タイラント」の噂と、主人公  
7 から向けられている好意について、ロゼが長年の付き合いであるメルシーに相談を  
8 する。

9

10 (アンビエント：夕暮れ)

11 (演出：扉を叩く音、開ける)

12

13 **【メルシー】**

14 <やや左、正面向き、通常距離、通常音量>

15 店長、なにかご用ですか？

16

17 **【ロゼ】**

18 <やや右、正面向き、通常距離、通常音量>

19 ええ。メルシー、今日もお疲れ様。

20 お茶をどうぞ。

21

22 (演出：お茶を置く)

23

24 **【メルシー】**

25 ありがとうございます！

26

27 **【ロゼ】**

28 新入りはもう家に帰ったの？

29

30 **【メルシー】**

31 はい、閉店作業が終わったので帰られました。

32 なにかありました？

33

34 **【ロゼ】**

35 ……ええ、実は2つ、相談したいことがあるの。

36

1   **【メルシー】**  
2   あら？ 店長からの相談なんて珍しいですね。  
3   私にお手伝いできることがあればなんなりと！  
4  
5   **【ロゼ】**  
6   ありがとう、メルシー。助かるわ。  
7  
8   じゃあ、早速本題に入るけど……  
9   最近お店の周りで、妙な噂が出回っているみたいね。  
10  
11   **【メルシー】**  
12   「スカーレット・タイラント」……ですか？  
13  
14   **【ロゼ】**  
15   ええ、昔のオートマタドールの話よ。事件を起こして、たくさんの人を傷つけた。  
16  
17   **【メルシー】**  
18   そういえば、この前新人くんにそのことを訊かれましたね。  
19  
20   **【ロゼ】**  
21   ……新入りに？  
22  
23   **【メルシー】**  
24   はい、その時丁度ヴィンセントさんが来店されて、あの後、二人で町の図書館にい  
25   たみたいです。そこで事件の資料を読まれたとか。  
26  
27   **【ロゼ】**  
28   そう……。  
29   あの人、ドールに関して真面目なのはわかるからいいんだけど……。  
30  
31   **【メルシー】**  
32   店長、噂のことを心配していらっしゃるんですか？  
33  
34   **【ロゼ】**  
35   ええ……。  
36   この国は信仰心が強いからこそ、こういう噂に巻き込まれると印象が悪くなりやす  
37   いわ。  
38   私がオートマタドールであるゆえに、例の事件を知つて朝露に来なくなってしまう  
39   人がいてもおかしくない。

1  
2     【メルシー】  
3     噂が朝露の営業にも影響するってことですか?  
4     ……店長、ちょっと心配しすぎでは?  
5  
6     【ロゼ】  
7     今はまだ過去のことが噂になっているだけだから、影響はまだほとんどないと思う  
8     わ。  
9     だけど、もし私が「スカーレット・タイラント」だとでも言われてしまったら、お  
10    そらくヴィンセントのようなドール愛好家以外は誰も来なくなるでしょうね。  
11  
12    【メルシー】  
13    流石にそんな事態にはならないと思いますが……。  
14  
15    【ロゼ】  
16    はあ……私も、これが杞憂に終わることを願うばかりよ。  
17    ひとまず、様子を見ましょう。何事もないのが一番だけど。  
18  
19    【メルシー】  
20    そうですね……。  
21    私にとって朝露は大事な職場で、店長はお金に困った私にお仕事を与えてくださつ  
22    た恩人ですから、そんなことにならないようにお手伝いします！  
23    もし噂が変な方向にいって、お客様たちになにかあったらすぐに報告しますね。  
24  
25    【ロゼ】  
26    本当にありがとう、メルシー。お願いね。  
27  
28    【メルシー】  
29    はい、任せてください！  
30  
31    【ロゼ】  
32    では、この件はこれでおしまい。  
33    (言いづらそうに) 次は……。  
34  
35    【メルシー】  
36    ……どうされたんですか?  
37  
38    【ロゼ】

1 (言いづらそうに) ……正直、これは貴女に聞くべきことなのか、ずっと悩んでいたわ。

3 あくまでも、私の個人的な問題だから。

4 ただ、私はこういうことに疎くて、どうすればいいのかわからないから、その……。

6

7 **【メルシー】**

8 歯切れの悪い店長、珍しいですね……よければ仰ってください！

9 できる限り、力になりたいです！

10

11 **【ロゼ】**

12 (感激する) メルシー……。

13

14 そうね……では貴女の言葉に甘えて……。

15 その……最近、新入りの……私に対する態度が少し……おかしい、と思わない？

16

17 **【メルシー】**

18 おかしい？

19

20 **【ロゼ】**

21 いえ……「おかしい」というのは、少し違うかもしれない。

22 ……どう言えばいいのかしら、その……いつも以上に、私のことを気にかけている  
23 ようで……。

24

25 この前、こんなことがあったの。

26

27 『場面切り替え。以下、ロゼの回想となります』

28

29 **【ロゼ】**

30 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>

31 新入り、お疲れ様。

32 急にシフトに入つてもらって、本当に助かったわ。メルシーに用事ができたらしくて。

34

35 **【主人公】**

36 いえいえ、丁度大学の授業がなくなったので、僕も暇でしたし！

37

38 **【ロゼ】**

39 そう、珍しく午前の授業がなかつたのね。

1 そういうえば貴方、休日は家でどう過ごしているの？  
2 メルシーは弟や妹と遊ぶのが好きみたいだけど、貴方は一人暮らしなのよね？  
3  
4 【主人公】  
5 最近はドール関連の本を読んでいますね。  
6  
7 【ロゼ】  
8 休みの日でも本を読んでいるの……？ 勉強熱心ね。  
9  
10 【主人公】  
11 いや、ただの趣味ですから勉強ではないですね～。あつ、でも外を歩くのも  
12 好きです！  
13  
14 【ロゼ】  
15 お散歩も？ ……ああ、確かに、貴方にとてこの町は新鮮なのよね。  
16 相変わらず物好きだわ。  
17  
18 【主人公】  
19 店長は休みみたい時はどうしているんですか？  
20  
21 【ロゼ】  
22 私？ もっぱらテレビね。  
23 お気に入りのショーがあるの。頭を使わない娯楽もいいものよ。  
24  
25 【主人公】  
26 テレビですか……なんかイメージと違いますね～  
27  
28 【ロゼ】  
29 なに？ 古いドールは新しいものには相応しくないと言っているのかしら？  
30  
31 【主人公】  
32 いやいや、そんなことないですよ！  
33  
34 【ロゼ】  
35 まあでも、あんな小さい箱一つで動く画面が見られるなんて、正直不思議だわ。  
36 白黒ではあるけど、映画館に行くよりずっと便利だし。  
37  
38 私が作られた時はラジオしかなかったのに、今は既に色があるテレビを使い始めて  
39 いる国もあるそうね。

1 人間の科学って本当に不可解だわ。私からすれば、鍊金術の方がわかりやすいわ  
2 ね。

3  
4 【主人公】  
5 科学については、僕も詳しくはありません。学生時代は理科が苦手だったの  
6 で……。  
7 あっ、映画といえば、最近新しいホラー映画が上映されていますけど、店  
8 長、一緒にどうです？  
9

10 【ロゼ】  
11 新しいホラー映画……？ そういえば、新聞紙で見たような……。  
12 そもそも貴方、ホラーものに興味があるの？  
13

14 【主人公】  
15 えっと、元々大学の友達と一緒に行くつもりでチケットを買ったんですけど  
16 ……  
17 急にいけなくなったりって言われて余ってしまったんです。  
18

19 【ロゼ】  
20 はあ……人間って、安全な距離感でスリルを体験したい生き物だと聞いたけど、本  
21 当のようね。  
22 私はそういうのにあまり興味がないの。だから私よりメルシーを誘ったほうがいい  
23 わ。  
24

25 【主人公】  
26 ……もしかして、店長ってそういうの苦手なんですか？  
27

28 【ロゼ】  
29 (慌てる) えっ、な、なにを言っているの？ 別に私はそんなもの怖くないわ！  
30 映画でしょう？ 演じているのでしょうか？ そんな虚構物を私が恐れるはずがない  
31 じゃない！  
32

33 【主人公】  
34 証拠を見せてもいいですか？  
35

36 【ロゼ】  
37 証拠って……（昂る）挑発しているのね、新入り。  
38 いいでしょう、だったらその挑戦、受けて立つわ！ 映画、見に行きましょう！  
39

1 貴方が負けたら、鞭でたっぷりお仕置きするわよ？ 貴方こそ、覚悟はできている  
2 のかしら？

3

4 『場面切り替え。ロゼの回想一旦終わり』

5

6 **【メルシー】**

7 へえー、直接映画に誘うなんて、大胆ですね～新人くん。

8

9 **【ロゼ】**

10 <やや右、右向き、通常距離、通常音量>

11 つい挑発に乗ってしまったとはいえ、あとで私も察したわ。

12 普通は、男性からこんな風に誘いはしないでしょ……。

13

14 **【メルシー】**

15 ですよね～

16 それでそれで？ それからどうなったんですか？

17

18 **【ロゼ】**

19 ……言わなければならないの……？

20

21 **【メルシー】**

22 だってー！ ここで終わるのは流石にずるいですよ店長！

23

24 **【ロゼ】**

25 うっ……！ わかった、わかったから……えっと……結果としては……

26

27 『場面切り替え。以下ロゼの回想』

28 (アンビエント：映画終わりの雑踏)

29

30 **【ロゼ】**

31 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>

32 はあ、はあ……。クリスタルが爆発してしまうかと思った……二度と見たくない

33 わ、あんな映画！

34

35 **【主人公】**

36 あの、店長、本当にすみません……！ 僕が悪かったですから……！

37

38 **【ロゼ】**

39 謝ってないで、さっさと私を「朝露」まで送りなさい……！

1 今日は特別に私を抱えることを許すわ！

2

3 【主人公】

4 は、はい！ では失礼して……！

5

6 (演出：主人公、ロゼを抱き上げる)

7

8 【ロゼ】

9 <やや右、正面向き、近い距離、通常音量>

10 本当に、あんなリアルなものを見せられるとは思わなかつたわ……！

11 なんのよアレ！？

12 うう……思い出すだけで、また足が震えてきた……。

13

14 【主人公】

15 ほ、本当にそこまで弱いと思わなかつたんです……！ すみません……！

16

17 【ロゼ】

18 今さらなにを言っても遅いわこの馬鹿猿！

19 こういう配慮は事前になさい……！

20

21 うう……今夜はもう眠れないかもしれないわ。どうしたら……。

22 そ、そうだわ……！ 貴方、今日はもう家に帰らないで頂戴！

23 責任をとって朝露で寝なさいっ！

24

25 わ、私は、自分の部屋で、店の明かりを眺めながら眠るから……。

26 いい！？ 私が眠りに就くまで、明かりを消すのは絶対に許さないわよ！

27 今度こそ鞭で死ぬほど叩くから！ わかった！？

28

29 【主人公】

30 は、はいっ！

31

32 『場面切り替え。ロゼの回想終わり』

33

34 【ロゼ】

35 <やや右、右向き、通常距離、通常音量>

36 ……本当にひどいわよ、あのサルは！

37 いきなりあんなもの見せられたら、誰だって怖いに決まっているわ！

38 そのせいで映画の途中、何度もあいつに抱きついてしまったし……。

39 本当に、本当に……！

1  
2 **【メルシー】**  
3 それくらい良いじゃないですか店長～。その方が、殿方は喜びますよ～  
4  
5 **【ロゼ】**  
6 私は、別にあのサルを喜ばせたいわけじゃ……！  
7  
8 **【メルシー】**  
9 ふふ、でも、店長もようやく気づかれたんですね。  
10  
11 **【ロゼ】**  
12 私……「も」？  
13  
14 **【メルシー】**  
15 何気なく、キッチンへ向かう回数が増えている気がしますね～、最近の新人くん  
16 は。  
17  
18 それに閉店後、店長と一緒にドールの修理を学んでいるんですよね？  
19 お仕事中、ずっとにこにこしているんですよ、新人くん。楽しみで仕方がないって  
20 感じで。  
21 もちろんドールへの熱意からかもしれませんけど、私からすれば、店長と一緒にな  
22 れる時間を持ちきれないみたいでした。  
23  
24 **【ロゼ】**  
25 ……やはり貴女には敵わないわね。  
26  
27 **【メルシー】**  
28 えへへ～、これでもキキーモラですから。雰囲気の変化には敏感なんですよ～  
29 それで、店長が悩んでいるのは、それにどう対応すべきか、ということですよね？  
30  
31 **【ロゼ】**  
32 ……ええ。新入りが私に好感を持っているのは、わかったわ。  
33 けれど……。  
34  
35 **【メルシー】**  
36 なんらかの理由で、その好意を受け入れられない……ですか？  
37  
38 **【ロゼ】**  
39 ……。

1  
2     【メルシー】  
3     えっとですね、そのことに悩んでいる時点で、もう答えは出ていると思いますよ、  
4     店長。  
5  
6     【ロゼ】  
7     ……どういう意味？  
8  
9     【メルシー】  
10    実はもう、彼のことが気になっているんじやないですか？  
11  
12    【ロゼ】  
13    (赤面する) ……っ。私は、そんなんじや——  
14  
15    【メルシー】  
16    今は女二人だけですから、素直になっていいんですよ～  
17    もし店長がなにも思っていないなら、直接拒絶すればいいだけの話です。  
18    わざわざ私に尋ねないでしょうし、悩むことすらしませんからね。  
19  
20    映画のことを話していた時の店長、すっごく楽しそうでしたよ。  
21    そんな楽しい思い出に背を向けるほどの苦しい選択だから、私に相談したんじやな  
22    いですか？  
23  
24    【ロゼ】  
25    (啞然として) ……。  
26    メルシー、もういっそ探偵に転職してみてはどう？  
27  
28    【メルシー】  
29    あはは。買いかぶりすぎですよ店長～、これくらいのことで。  
30  
31    (わざとらしく) コホン。  
32    冗談は置いておきましょう～  
33    私は、店長が新人くんを拒む理由は知りません。  
34    でも、どんな理由であれ、自分の想いを相手に伝えることが大切だと思います。  
35    新人くんは優しいですが、決してやわな人ではありません。  
36    誠実に応えれば、きっとわかつてもらえますよ。  
37  
38    もちろん、店長と新人くんがラブラブな方が、私は嬉しいですけどね～  
39    お二人のこと、応援していますよ～

1  
2     【ロゼ】  
3 誠実に応える……ね。  
4 もし……もしそれもできない場合は、どうしたらしいの?  
5  
6     【メルシー】  
7 (深刻そうに) ……。どうやら、私が思った以上に深刻な問題みたいですね。  
8  
9 それもできないのでしたら、せめて相手の気持ちを考えて、告白される前にきちんと距離を置いて、「あなたの気持ちに応えられない」ってサインを出すのが一番じゃないかと。  
10 ただ、それでも、相手を傷つける可能性はありますので……  
11 できるだけ、そんなことにはならないでほしいですね……。  
12  
13     【ロゼ】  
14 ……そう。そういう結末になってしまふかもしれないね……。  
15  
16     【メルシー】  
17 はい。店長にとってもお辛いでしょうけど。  
18  
19     【ロゼ】  
20 わかったわ……。ありがとね、メルシー。  
21  
22     【メルシー】  
23 いえ、私こそ、お役に立てなくすみません……。  
24  
25     【ロゼ】  
26 何を言っているの、十分助けられているわ。感謝しきれないくらいに。  
27 私のことなら心配しないで、なんとかなるはずよ。  
28  
29 相談したいことは以上よ。  
30 閉店後の時間まで使わせてごめんなさいね、メルシー。  
31  
32     【メルシー】  
33 店長の相談事なら私はいつでも大歓迎ですよ～  
34 では、お先に失礼しますね。また明日！  
35  
36     【ロゼ】  
37 ええ、気をつけて帰るのよ、メルシー。

1  
2 (演出：扉開け閉じ)  
3

4 **【ロゼ】** (心の声)  
5 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>  
6 誠実に応えることが、今の私にとって、一番難しいかもしれない……。  
7 新入り……ごめんなさいね……。  
8

1 5、雨音による静寂

2 ○Scene 1

3

4 ||||登場人物：ロゼ、主人公

5 ||||場所：カフェ「朝露」店内

6 ||||シーン内容：主人公は自分の感情を抑えられなくなり、衝動的に告白してしまう。ロゼはその好意を拒絶するも、理由を語れなかつた。

7

8 (アンビエント：雨音)

9

10 **【ロゼ】**

11 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>

12 ボディーチェックが終わったわ。

13 今回もいい仕上がりよ、お疲れ様。

14

15 **【主人公】**

16 ありがとうございます……！ 次回も頑張ります！

17

18 **【ロゼ】**

19 ああ、そのことだけ……。

20 (少し間を空け、ついに決心したように) ……今後のメンテナンスは、ここでやらないでいいわ。

21

22 **【主人公】**

23 ……え？

24

25 **【ロゼ】**

26 大分慣れてきたし、最初の頃に比べて効率もかなり上がった。

27 だからもう、私がそばで見ていなくても大丈夫。

28 手入れの道具は、そのまま貴方に譲るわ。

29

30 **【主人公】**

31 もしかして、最近の店周辺の噂のせい……？

32

33 **【ロゼ】**

34 ……ええ、それも原因の一つよ。

1 貴方も知っているでしょう、「スカーレット・タイラント」に関する噂。  
2 最初の頃は、私もただ過去の出来事を掘り返しているだけだと思っていた。  
3 ただ朝露が巻き込まれる可能性もあったから、この前もメルシーに相談して、噂の  
4 流れを把握しようとしたの。  
5 けれどまさか、こんなにも早く進展するとはね。  
6 「スカーレット・タイラントがこの辺に潜んでいる」だなんて……。  
7  
8 そのせいで、店の営業には既に影響が出ているわ。  
9 貴方もメルシーも、それを感じているでしょう。  
10  
11 私はほとんどキッチンの外へ出でていないものの、「朝露」はオートマタドールが経  
12 営しているということは隠していない。  
13 だけど、噂の流れと店のことが知れ渡れば……次は、「朝露はスカーレット・タイ  
14 ラントに関わりがある」と言われてしまうでしょうね……。  
15  
16 だから、店の中でドール関連の道具を出すのは、できるだけ避けたいのよ。  
17 ごめんなさいね、新入り。  
18  
19  
20 **【主人公】**  
21 いえいえ！ それなら全然大丈夫です！  
22 ただ、その……作業するときはずっと店長と一緒にいましたから、少し寂し  
23 くなるかもしれませんね！ こちらこそすみません。  
24  
25 **【ロゼ】**  
26 (感情を抑える) 私がいないと……寂しい……か……。  
27 それについてだけど……その、も……もう一つの原因是…… (言葉が主人公に遮  
28 られる)  
29  
30 **【主人公】**  
31 あの、店長！ いえ、ロゼさん……！  
32  
33 **【ロゼ】**  
34 えっ……なに、いきなり—— (言葉が主人公に遮られる)  
35  
36 **【主人公】**  
37 好きです……！  
38  
39 **【ロゼ】**

1 (驚く) ……えっ？  
2  
3 【主人公】  
4 好きです……！ ドールとしてではなく、一人の女性として……！  
5  
6 【ロゼ】  
7 (意味を理解するのに時間が掛かる) す……き？  
8 すき……好きって……えっ……も、もしかして……！？  
9 恋愛感情として、ってこと……？  
10  
11 【主人公】  
12 き、聞き返されると恥ずかしいですけど……。  
13 はい！ そのつもりです！  
14  
15 【ロゼ】  
16 (衝撃を受ける) っ……！  
17  
18 【主人公】  
19 えっと、その、店長は今、色々なことを抱えていますし、タイミングが悪い  
20 のはわかっています……！  
21 けど、店長と二人きりになれるのは、この時間しかないから……  
22 機会がなくなる前に、せめて、想いを伝えたいです……  
23  
24 あの、今返事をしなくてもいいですから……！ 僕は先に失礼して……  
25  
26 【ロゼ】  
27 待って新入り……！  
28 (かろうじて) ……考える時間は、必要ないわ……今から、返事をするわね。  
29  
30 【主人公】  
31 えっ……。  
32  
33 【ロゼ】  
34 (深呼吸) すう一……ふう一……。  
35  
36 ……ごめんなさい。  
37 貴方の気持ちには、応えられないわ……。  
38  
39 【主人公】

1 .....。

2

3 **【ロゼ】**

4 (真摯に) 告白のタイミングが悪いからじゃない。貴方が人間で、私がドールだと  
5 いうことも関係ない。

6 貴方が私に惹かれていて、好意を持って接していたことは……わかつっていたわ。

7 そして、私も、それを嬉しいと思っている……。

8 人形達の手入れはいつも頑張っているし、ちょっとしたお喋りの時間だって、穏や  
9 かなひとときだった。

10

11 (声が震える) 私みたいなドールにとっては……もったいないくらいの優しさだ  
12 わ。

13 貴方の想いは、もうずっと前から伝わっていた。

14

15 (暗く) ただ……私には、その気持ちに応える資格がないの。

16

17 **【主人公】**

18 ど、どういうことですか……？

19 まさか、マスターが強制的に……！

20

21 **【ロゼ】**

22 (苦しく) それだけ……貴方の気持ちに応じられない理由は、教えられないわ  
23 .....。

24

25 **【主人公】**

26 .....じゃあ、最後に教えてください。僕にできることは、ありますか？

27

28 **【ロゼ】** (涙ぐみながら)

29 新入り……ごめんなさい……。

30

31 私の問題について、貴方ができることは……なにもないわ。

32 好きになってくれて、ありがとう……けど、その恋だけは、絶対に実らないのよ  
33 .....。

34

35 だから、忘れなさい……。

36 店長とバイトのままの関係でいて……お願いだから……。

37

38 **【主人公】**

39 (ショックを受けて) そう……ですか。

1 店長が、そこまで仰るなら……仕方ないな、アハハ……。  
2 じゃあ、今日はここまでですね！  
3 明日は店長の言う通り普通に戻っていますので、心配しないでください！  
4  
5 **【ロゼ】**  
6 「普通に戻る」か……。  
7 ああ……ごめんなさい、ごめんなさい……。  
8  
9 **【主人公】**  
10 では、僕はお先に失礼します……！  
11  
12 (演出：ダッシュ)  
13 (演出：扉開け閉め、カランコロン)  
14  
15 **【ロゼ】** (店内から扉まで追いつく)  
16 っ！ 待って、新入り……！ 傘……！ 傘を忘れているわ！  
17  
18 ……もう……いなくなっちゃった。  
19 大雨なのに……。  
20  
21 『ロゼ、窓席のテーブルに座り、膝を抱える』  
22  
23 **【ロゼ】** (心の声)  
24 私はやっぱり……最低だ……。  
25 他人の好意を踏みにじり……拒む理由すら言えないだなんて……。  
26  
27 どうして、こんな私なんかを好きになったの……？  
28 私のことを綺麗って、かわいいって言ってくれた。  
29 そんな貴方が……もし、本当の私を知ってしまったら……。  
30  
31 もう、どうしようもないのよ……。  
32 どうしようもないから……許して……。  
33  
34 (演出：雨が続く)  
35 ○Scene 2  
36  
37 ||||登場人物：ロゼ、ヴィンセント

1   ||||場所：カフェ「朝露」店内  
2   ||||シーン内容：自分に向けられていた好意を拒絶するしかできないことに落ち込  
3   んでいる暇もなく、ロゼは店周辺の悪質な噂を解決しようとしていた。なかなか手  
4   がかりが見つからない中、ロゼは店のカウンターの下から、一通の手紙を見つけ  
5   る。  
6  
7       『静まりかえった夜、ロゼがテーブルから起き上がる』  
8       (アンビエント：夜)  
9  
10      【ロゼ】 (寝起きのうめき声)  
11      <正面、正面向き、通常距離、通常音量>  
12      うっ……ん……。  
13  
14      【ロゼ】 (心の声)  
15      あれ……？ 私、いつのまにか、眠ってしまっていたみたい……。  
16  
17      雨……やんでいたのね。  
18      大丈夫かしら、新入り……風邪を引いていないといいけど……。  
19      はあ……彼のこと、またメルシーに相談した方がいいかもしれないわね……。  
20  
21      その前に……そろそろあの妙な噂を止めないと、本当に收拾がつかなくなる……。  
22      でも、どうすれば……。  
23  
24      ああ、もう考える気力すら湧かないわ……。明日また考えましょう……。  
25  
26       『ロゼ、カウンターに上がって、自室に戻ろうとする』  
27       (演出：てくてく)  
28  
29      【ロゼ】 (心の声)  
30      ……あら？ カウンターの下になにか挟まって……。  
31  
32      (演出：紙を取り出す)  
33  
34      【ロゼ】 (心の声)  
35      ……手紙？  
36  
37      (演出：手紙を開く、明かりをつける)  
38  
39      【ヴィンセント】 (手紙ナレーション)

1 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>  
2 ロゼ様へ  
3  
4 お久しぶりです、ヴィンセント・ラグランジュです。  
5 以前お会いできたこと、誠に光栄でした。  
6  
7 手紙を残した理由は他でもありません。  
8 昨今、ロゼ様とカフェ「朝露」の周りで、良からぬ噂が流れていると伺いました。  
9 ロゼ様も大変心を痛めていらっしゃることでしょう。  
10 この噂について、良い解決案がございます。  
11 小生に大した力はありませんが、一古物商として、情報の扱いに関してはそれなり  
12 に長けていると自負しております。  
13 ただ、商人としてその解決案をご提供するには、ロゼ様にも少々呑んでいただきた  
14 い条件がございます。  
15 詳細を伏せてしまい申し訳ありませんが、もし興味があるようでしたら、明日の夜  
16 11時、下の地図に記した場所へお越しください。  
17  
18 良き「商談」となることを、心より期待しております。  
19  
20 ヴィンセント・ラグランジュ  
21  
22 【ロゼ】 (心の声)  
23 ……やっぱりいい気はしないわね、見えないところで嗅ぎ回って全てを握ろうとす  
24 る人は。  
25 最近新入りと仲良くしているし、気がかりだわ。  
26  
27 それにこの手紙、古物商だから単に情報に敏感ってだけかもしれないけど、さすが  
28 にタイミングが良すぎる。  
29 以前も私に執着していたし……最悪、彼が噂をばら撒いた張本人かもしれない  
30 ……。  
31 となると、これは間違いなく罠……。  
32  
33 はあ……「商談」ね……。一体どんな条件を要求してくるつもりなのかしら……。  
34 とはいって、今のままじゃいけない……不本意だけど、行くしかないか……。  
35  
36 ヴィンセントが何を知っているのか、確かめなくては。  
37  
38



1 6、嵐を告げる

2 ○Scene 1

3

4 ||||登場人物：ロゼ、ヴィンセント

5 ||||場所：ヴィンセントの常連のバーの個室

6 ||||シーン内容：やむを得ずヴィンセントとの「商談」に来たロゼ。ヴィンセント  
7 が提示した条件は、ロゼと契約して、自身が彼女のマスターになることだった。ロ  
8 ゼが固く断ると、ヴィンセントはようやく自分の真意を語り始めた。

9

10 (アンビエント：夜、部屋外のバーのガヤ)

11 (演出：扉開け閉じ、ロゼの足音)

12

13 **【ヴィンセント】**

14 <やや右、正面向き、通常距離、通常音量>

15 おお！ よくいらっしゃいました、ロゼ様。お待ちしておりましたよ。

16 あのような形でメッセージを残すのは失礼だったと、十分自覚しています。ですが  
17 この件は極秘ゆえ、どうかご容赦ください。

18

19 **【ロゼ】**

20 <やや左、正面向き、通常距離、通常音量>

21 挨拶はいらないわ、ヴィンセント。手紙に書かれていた通り来たわよ。

22 早速、そちらの要求を聞かせてもらえないかしら。

23

24 **【ヴィンセント】**

25 ロゼ様は率直なお方ですね。

26 小生は憧れますよ、その生き方。

27 わかりました、回りくどいのはやめましょう。

28 では、单刀直入に言いますが、条件は一つだけ……貴女が小生と契約することで  
29 す。

30

31 **【ロゼ】**

32 なんですか……？

33

34 **【ヴィンセント】**

35 ロゼ様もご存じの通り、小生はドールに少々興味がありまして。

36 普通の人形を鑑賞するのも好きなのですが、オートマタドールはやはり格別です。

1 自分のドールを迎えるものの、オートマタドールを作る技術が厳重に封じられて  
2 いる以上、既に作られたドールたちの元を訪ねるしかない。  
3  
4 しかし今まで訪ねたドールたちは、皆様それぞれのマスターと良い関係を築いてい  
5 ました。  
6 ドール自らが選択する以外、マスターを変えることはできませんので、強奪しても  
7 意味がありません。もちろんそれ以前に、愛好家としてそれは許されない行為です  
8 が。  
9 そうして半分諦めていたところで出会ったのが、ロゼ様なのです。

10  
11 **【ロゼ】**

12 ……残念ながら、私にもマスターがいるわ。  
13 今は少し遠いところにいて、暫くここに戻ってこられないだけ。  
14 だからその条件は無理よ。店のことは、私がなんとかするわ。  
15 ご期待に添えず悪いけど、もう帰っていいかしら？

16  
17 **【ヴィンセント】**

18 お待ちくださいロゼ様、そう急がずに。  
19 手紙にも記した通り、こちらは情報収集にはそれなりに長けているのです。  
20 準備もなしに、こんな申し出はしませんよ。

21  
22 **【ロゼ】**  
23 ……準備？

24  
25 **【ヴィンセント】**  
26 ここ数年、店にはロゼ様とメルシーさんしかいらっしゃらなかった。実際、小生が  
27 朝露に来てからの数ヶ月間、ロゼ様のマスターのお姿を拝見することは一度もあ  
28 ませんでした。  
29 いくら長い出張とはいえ、ドール一人と店を残して、姿すら見せないマスターは、  
30 小生からすれば無責任に思えますね。  
31 ろくな手入れすらされていないのでは？ ロゼ様。

32  
33 **【ロゼ】**  
34 マスターは多忙だから、いちいち顔を出す時間がないだけよ。  
35 無責任かどうかは私とマスターの問題だし、部外者の貴方があれこれ言うことでは  
36 ないと思うけど。  
37 もしマスターの存在を疑うのなら、ドールの身分証明書を見せてもいいわ。  
38  
39 私は今の生活に満足しているの。それにマスターを変えるつもりもない。

1 それじゃ、お邪魔したわね——

2

3 (演出：足音)

4

5 **【ヴァンセント】**

6 そうですか……。どうしても、というのなら……。

7

8 (陰険そうに) こちらにも、それなりの算段がありますよ。

9 「スカーレット・タイラント」。

10

11 (演出：足音止まる)

12

13 **【ロゼ】** (激怒)

14 <大きい声>

15 っ！ やっぱり、噂を流したのは貴方だったのね！

16 貴方みたいな厄介者に目をつけられた私も不運だわ！

17 はっきり言うけど、人違いよ、ヴァンセント！

18

19 **【ヴァンセント】**

20 ふふふ、「人違い」ですか……。

21 小生が本当に間違えているというのなら、こんな人けのない場所より、店の前で

22 堂々と宣言された方が効果的ですよ、ロゼ様。

23

24 **【ロゼ】**

25 <通常音量>

26 「スカーレット・タイラント」。かつて大惨劇を起こした、呪われたオートマタドール。

27 あんな化け物がこの街でのほほんとカフェを営むと本気で思っているの？ 正気？

28

29 **【ヴァンセント】**

30 おや、小生はいつだって真面目ですよ。では証拠をお見せしましょう。

31

32 (演出：紙を取り出す)

33

34 この肖像画を見てください。当時の鍊金術協会の指名手配用に描かれたものです。

35 ロゼ様は「スカーレット・タイラント」に瓜二つなんですよ。

36

37 **【ロゼ】**

38 貴方の言う「証拠」がこれ？ 冗談もほどほどになさい。

1 写真ならまだしも、これは目撃者の証言を元に描かれたものよ。必ずしも正確とは  
2 限らないわ。  
3 推理小説しか読んだことのないド素人でも知っていることよ。  
4  
5 百歩譲って、この絵に信憑性があるとしましょう。  
6 ええ、確かに私はこの人形に似ているわ。でもドールは人工物で、体はただの器。  
7 同じ人間に作られたら似るのも当然。だからなんの証明にもならないわ。  
8 そもそも、その絵を見るに、「スカーレット・タイラント」の特徴は体の傷でしょ  
9 う？ 私の顔にそんなものがあるように見える？  
10

11 **【ヴィンセント】**

12 ふふふ、流石ロゼ様。お見事です。  
13 傷については、事件後にどなたかにボディーを修復させればいいのですが……  
14 そうですね。肖像画が駄目であれば、次の証拠を見せましょう。  
15  
16 さっきロゼ様が仰っていた「マスターは他の場所にいて、暫く戻ってこられない」  
17 というお言葉ですが、それは嘘です。おそらく、ドールの身分証明書も偽物でしょ  
18 う。  
19  
20 なぜかというと、スカーレット事件以降、オートマタドールが製造禁止となるま  
21 で、すべてのドールは鍊金術協会に登録されたからです。  
22 あのような事件を二度と起こさないために、ドールの名前、住所、マスター、作ら  
23 れた日付、契約した日付など、詳細に記録されています。  
24 その中に、ロゼ様のお名前はありませんでした。  
25

26 その意味は、小生が言わずともおわかりですよね？  
27

28 **【ロゼ】**

29 (呆れて) はあ……一個人に「ドール名簿」の情報まで洩らすなんて、鍊金術協会  
30 も腐ったものね。  
31

32 **【ヴィンセント】**

33 そのご心配には及びません。  
34 小生はあくまでも、ロゼ様に関する記録があるかを尋ねただけで、具体的な内容に  
35 は一切触れていませんので。  
36 それより、登録されていない理由をお聞かせいただけますか？  
37

38 **【ロゼ】**

39 さあ？ 私もさっぱりだわ。

1 けれど確かに、登録しに行ったらなぜかトラブルばかり起きて、職員も頭を抱えてい  
2 たわね。  
3 だからちゃんと登録できていなかったのかもしれないし、あるいは手違いで記録を  
4 燃やしてしまった、ってところじゃないかしら？  
5 錬金術協会にいる頭の足りないやつらからしたら、そんなミス日常茶飯事でしょ  
6 う。  
7 そもそも「ドール名簿」にないだけで、私が「スカーレット・タイラント」だとい  
8 う証拠にはならないわ。

9  
10 【ヴィンセント】  
11 ほう……。ロゼ様は錬金術協会をよくご存知で。何かしらのコネクションがあるよ  
12 うですね。  
13 カフェの経営という仕事は、錬金術には無縁のように思えますが。

14  
15 【ロゼ】  
16 (冷たく) ……私はオートマタドール。錬金術師の手によって作られたのよ。知つ  
17 ていて当然じゃない。

18  
19 【ヴィンセント】  
20 お言葉ですが、明らかにそれ以上の知識がおありますよ？

21  
22 【ロゼ】  
23 (冷たく) ……昔のことを貴方に語る義理はないわ。

24  
25 【ヴィンセント】  
26 左様ですか。  
27 噂では、スカーレット事件は錬金術協会が深く関わっていたといいますが……  
28 憶測しかないので、その話はやめておきましょう。

29  
30 【ロゼ】 (怒る)  
31 <大きい声>  
32 脅しても無駄よ、ヴィンセント。  
33 貴方が今まで提示したものは、すべて状況証拠にすぎないわ。  
34 もっと有力なものがないのなら、今度こそ帰らせてもらうわよ。

35  
36 【ヴィンセント】  
37 そうですね。こんな時間ですし、そろそろ終わりにしましょう。  
38 では、最後の証拠です。

39

1 それは、「スカーレット・タイラント」が、失敗した試作品である、ということに  
2 関連します。

3

4 **【ロゼ】**

5 (驚く) ……なっ！

6

7 **【ヴィンセント】**

8 オートマタドールにとって一番重要なのは、契約術、つまり、マスターとの精神連  
9 結です。

10 その連結になにか異常があった場合は、検査できるツールが必要ですよね。

11 例えば……

12

13 (演出：レンズを取り出す)

14

15 **【ヴィンセント】**

16 このような、連結自体が見えるレンズがありまして。

17

18 **【ロゼ】** (驚く)

19 ……アストラルレンズ！？

20 貴方は一体誰っ！？ こんなもの、ドールを作った鍊金術師しか持っていないはず  
21 —— (言葉がヴィンセントに遮られる)

22

23 **【ヴィンセント】**

24 普通のドールなら、レンズを通して、必ずマスターとの連結が見えます。

25 しかし、「スカーレット・タイラント」の場合、レンズにはなにも映りません。

26 なぜなら、彼女は元々、「オートマタドール」として作られたわけではないからで  
27 す。

28 別の目的の為に作られたモノでしたが、予期せぬことが重なり、最後はやむを得  
29 ず、ドールとして生きることとなりました。

30

31 **【ロゼ】**

32 <通常音量>

33 (声が震える) や、やめ……

34

35 **【ヴィンセント】** (口調が段々激しくなる)

36 故に、「スカーレット・タイラント」には最初から契約などできません。マスター  
37 は存在しないのです。

38

39 「スカーレット・タイラント」。

1 オートマタドールの異例、世界中でたった一人の完全自律人形、緋色の暴君……。  
2 ロゼ・ヴァーミリオン。そう、貴女様のことですよ。

3

4 貴女こそが、このヴィンセント・ラグランジュのコレクションの中の原点かつ頂  
5 点！

6

7 さあ、ロゼ様。レンズの前に立ってください！ 小生が間違えたのだと証明してく  
8 ださい！！

9 「オートマタドール」には、とても簡単なことですよ！！！

10

11 【ロゼ】 (ヴィンセントが喋る中で)  
12 (絶望じみた) あ、ああ……ああ……

13

14 【ロゼ】  
15 <叫び>  
16 やめろっ！！！

17

18 <通常音量>  
19 (過呼吸) はあ、はあ、はあ……。

20

21 (激しい呼吸を繰り返す。アドリブ1分)

22

23 【ヴィンセント】  
24 (冷静な口調) ……大丈夫ですか？ ロゼ様。お水を持ってこさせましょうか。

25

26 ……いけませんね。やや刺激が強すぎたかもしれません。  
27 それにしても、感情のコントロールはまだまだのようですね。  
28 こんな所で暴走したら、それこそ取り返しのつかない事態になりますよ。

29

30 【ロゼ】 (息継ぎが上手くできない。ちょっと色気のある表現でお願いいたします)  
31 はあ……どの面下げて、そんなことを……。  
32 ちょ、挑発してきたのは……お前の方よ……。  
33 私のことを、うつ、何も……知らないくせに……はあ……。

34

35

36 【ヴィンセント】  
37 いいえ。ロゼ様が想像していらっしゃる以上に、貴女のことを存じ上げております  
38 よ。

1 とはいえ、ここでロゼ様が厄介事を起こしては小生も被害を受けますから、症状を  
2 緩和できる薬をあげましょう。

3  
4 【ロゼ】

5 誰か貴方の怪しい薬なんか——（言葉がヴィンセントに遮られる）  
6

7 【ヴィンセント】

8 句いを嗅げばすぐにわかると思いますよ。  
9

10 【ロゼ】

11 はあ、はあ……  
12

13 (演出：瓶開ける)  
14

15 【ロゼ】

16 っ！？ こ、これ、本物？  
17

18 (薬を飲む音、3～5秒アドリブ)  
19

20 (呼吸が段々と落ち着く、深呼吸) はあ……はあ……すう一……ふう一。  
21 体の熱が、下がっていく……。やっぱり、本物だわ……。  
22

23 アストラルレンズを持ち出した上に、この薬……。  
24 貴方、本当に何者なの……？  
25

26 【ヴィンセント】

27 ただのドール好きのしがない古物商人、ですよ。  
28

29 【ロゼ】 (怒る)

30 ふざけないで。そんなのありえないわ。  
31

32 【ヴィンセント】

33 信じるかどうかはロゼ様次第ですが、そうですね……小生と契約すれば、すべてお  
34 話ししましょう。  
35

36 では、ロゼ様、改めてこちらの条件についてどう思われますか？  
37

38 【ロゼ】 (怒る)

39 ……どうせ私に拒絶する権利なんてないんでしょう？

1 噂をばら撒いて客を減らし、私の正体を炙り出した上で朝露を潰す。  
2 卑劣すぎるわよ、この悪徳商人が！

3  
4 【ヴィンセント】

5 ありがとうございます。利用できるものは利用する、それが商人ですから。

6  
7 【ロゼ】  
8 ……けれど、解せないわ。  
9 私のことを知っていたら、契約に執着する意味がないじゃない。  
10 私は、契約自体できないよ。

11  
12 【ヴィンセント】

13 心配いりません。  
14 また、これもお伝えしておきたいのですが、契約してもロゼ様の人格は上書きいた  
15 しません。  
16 そんなことをしては小生が損をするだけですからね。

17  
18 【ロゼ】

19 貴方、私が人と契約できるとでもいうの！？

20  
21 【ヴィンセント】

22 先程申し上げた通り、ロゼ様の想像以上に、小生は貴女のことを存じていますか  
23 ら。

24 では、条件を呑まれるということで、よろしいですね？

25  
26 【ロゼ】

27 (気弱になる) ……。

28  
29 【ヴィンセント】

30 ご安心ください。契約しても、ロゼ様はこれまでのよう自由に行動できますよ。  
31 遠い場所でなければ、行き先と帰る時間をお教えいただければ、引き留めることは  
32 いたしません。

33 それから、貴女はカフェの経営に心血を注いで、辛い思いをされてきたと存じま  
34 す。

35 流石に今の仕事を続けるのは難しいでしょうが、小生からすれば、もとよりこんな  
36 辺鄙な土地はロゼ様や「朝露」に釣り合いません。

37 移転するのにいい機会ですし、お店を再開したいというのなら、この国の最も賑や  
38 かな場所で、一流の物件とスタッフをご用意します。

1 もちろんそんな仕事をしなくとも、小生の財力なら、ロゼ様がこれから姫のような  
2 生活を送れることを保証できますがね。

4 ですが、一番重要なのは、ロゼ様が今後二度と「スカーレット・タイラント」の名  
5 に怯えなくていいということです。

7 【ロゼ】

8 ……契約できたら、私は普通のドールと区別がつかなくなる。

10 【ヴィンセント】

11 左様。ですが、それだけではありません。

12 ロゼ様がさらに安心できるように、「スカーレット・タイラント」の「死」を偽装  
13 することも可能です。

15 【ロゼ】

16 (驚く) なっ！？

18 【ヴィンセント】

19 簡単なことですよ。小生もドールコレクターの端くれです。自分のオートマタドー  
20 ルはありませんが、それに関連するものでしたら多く所持しています。

22 【ロゼ】

23 ま、まさか……！

25 【ヴィンセント】

26 ふふふ、ロゼ様の予想されている通りです。

27 「ミスティカ・クリスタル」、オートマタドールの「コア」。

28 「使用済み」のものですが、いくつか保有しておりますよ。

30 ロゼ様の体を模造して、無効化したクリスタルをその体に嵌めれば、いくら鍊金術  
31 協会でも、本物か否かは見分けられないでしょうね。

33 【ロゼ】 (衝撃を受ける)

34 イカれてる……イカれてるわ、貴方！

35 死体を組み合わせて一つの屍にするだなんて……そんな冒涜的なこと……！

37 【ヴィンセント】

38 お褒めのお言葉、恐縮です。

39 目的が目的ですからね、協会の目を欺くためには手段は選んでいられません。

1 しかし、よくお考えになってください、ロゼ様。  
2 これから貴女はなんの心配もなく、この世界で自由に生きていけるのです。  
3 もう誰も貴女を拒まない。とても素敵なことではありませんか？  
4 その対価は、小生と契約するだけ。人間ですから、せいぜいあと数十年の命です。  
5 小生は子孫を残すつもりはありません。ですので私の死後、貴女を縛るものはもう  
6 この世にはなくなっています。他の誰かのドールとして生きてもいいですし、一人  
7 の生活に戻ってもいい。  
8 ご希望でしたら、遺産を譲っても構いません。  
9 一商人からすれば、これほど良い取引はないと思いますがねえ。

10  
11  
12 **【ロゼ】**

13 ……私の条件はこれだけ。  
14 契約したら、もう「朝露」に手出ししない。メルシーと新入りの生活にも関わらない。  
15 一ミリでも近づいたら、その場で契約破棄するわ。

16  
17  
18 **【ヴァンセント】**

19 小生の目的は、あくまでもロゼ様と契約することです。  
20 ですのでロゼ様のマスターである限りは、それをお約束しましょう。

21  
22 **【ロゼ】**

23 (考える) ……。

24  
25 『少しの沈黙』

26  
27 **【ロゼ】**

28 (渋々と) いいわ、条件を呑む。  
29 最初から他の選択をさせるつもりなんてなかつたでしょうけど。

30  
31 **【ヴァンセント】 (嬉しい)**

32 おお！ ご承諾ありがとうございます！  
33 やはりロゼ様は聰明なお方です。

34  
35 **【ロゼ】**

36 ……ただ、今すぐ契約するわけじゃないわ。  
37 あの子達に契約の話を伝えて、店のことを色々整理しなくてはいけない。時間が必  
38 要だわ。

1 【ヴィンセント】

2 わかりました。

3 では明後日の午後、「朝露」までお迎えに上がります。それでよろしいでしょうか？

5

6 【ロゼ】

7 明後日？ そんなに急がなければならないの？

8

9 【ヴィンセント】

10 実は、もうすぐこの国を発つ予定でして、できればその前に契約を済ませたいのです。

12 もちろん、どうしてもというなら先伸ばしにされても構いませんが、「朝露」になにが起きるかわかりませんし、早めの方がよろしいかと。

14

15 【ロゼ】

16 (冷たく) ……本当に最低な人だわ、貴方。

17 わかったわよ。それじゃ、もう帰っていい？

18

19 【ヴィンセント】

20 ええ。ロゼ様の賢明なご決断で、良い商談ができました。ありがとうございます。

21 今後とも、よろしくお願ひしますよ。

22

23 『ヴィンセント、時計を見る』

24

25 もう夜も更けましたね。朝露までお送りしましょうか。

26

27 【ロゼ】

28 結構よ。

29 私はまだ貴方のドールではないもの。ついてこないで頂戴。

30

31 【ヴィンセント】

32 仰せのままに。

33

34 (演出：扉開け閉め、ロゼの足音)

35

1 ACT III

2 7、物語

3 ○Scene 1

4

5 ||||登場人物：ロゼ、メルシー、主人公

6 ||||場所：カフェ「朝露」店内

7 ||||シーン内容：ロゼは朝露で主人公とメルシーに店長を引退すると伝え、店をメ  
8 ルシーに託す。ロゼの唐突な行動に理由を尋ねるも、ロゼは頑なに教えようとしな  
9 かった。そんなロゼの態度にメルシーは怒りを覚え、店から離れる。主人公も不満  
10 をロゼにぶちまける。二人が感情をぶつけ合うことにより、ロゼは自分が求めてい  
11 た繋がりをずっと拒絶していたことに気づき、主人公に心を開いた。

12

13 (アンビエント：朝)

14

15 【ロゼ】

16 <やや右、正面向き、通常距離、通常音量>

17 ……。

18 メルシー、新入り。今日、二人を呼び出したのは他でもないわ。

19 この店の将来について、貴方たちに伝えたいの。

20

21 【メルシー】

22 <やや左、正面向き、通常距離、通常音量>

23 い、いきなりどうしたんですか？

24

25 【ロゼ】

26 (深呼吸) すう一、ふう一……

27 私、ここの店長を辞めるわ。

28

29 【主人公】

30 えっ！？

31

32 【メルシー】

33 えっ……店長、何を言ってるんですか？

34 「朝露」から離れるなんて……どうして？

35

1   **【ロゼ】**

2   ……この店を守るためよ、メルシー。

3   ごめんなさい、いきなりこんなこと言い出して。

4   でももう決めたことよ。今後「朝露」の店長は、メルシー、貴女よ。

5

6   **【メルシー】**

7   き、聞いてないですよ店長！？ もしかして、あの噂のせいですか？

8   私は店長を務めるにはまだまだですし、そもそもロゼさんがいない朝露は朝露じゃありません！

9   そうですよね、新人君！？

10

11   **【主人公】**

12   ……。店長がそこまで言うなら、もう気持ちを変えるつもりはないんだと思  
13   いますよ、先輩。

14

15   **【メルシー】**

16   店長が頑固なのは知っていますけど……！

17   でも、新人君は朝露がこのままなくなってもいいんですか！？

18

19   **【主人公】**

20   僕だって嫌です。でも、店長は決めたことを絶対に押し通す人だから……し  
21   ょうがないですよ。

22

23   **【メルシー】** (半泣き状態)

24   しょうがない……？

25

26   ねえ、教えてください。どうしてお二人ともそんなに平然としていられるんですか  
27   ……？

28

29   あっさり手放して、それを当たり前のように受け入れて……。

30

31   もしかして、今の朝露を大事にしているのは、私だけなんですか！？

32

33   **【ロゼ】**

34   <大きい声>

35   (怒鳴り) 大事に決まっているわ！

36

37   <通常音量>

38

39   ……大事にしているからこそ、私は店を退くのよ。さっきも言ったでしょう？

40

41   だから、私のかわりに、この店を守って頂戴。

42

43   これは、私の一生のお願いよ、メルシー。

1 新入りは、授業があつて難しいかもしないけど……  
2 できるだけ、そばで彼女を支えてあげて。  
3 この建物の所有権、そして売り上げと運転資金は、あとでメルシー、貴女にすべて  
4 譲るわ。

5  
6 **【メルシー】**  
7 (驚く) なっ！？ そんなもの要りません！ それより辞める理由を教えてください  
8 い！  
9 ここまでして、ロゼさんは一体、何と戦っているんですか！？

10  
11 **【ロゼ】**  
12 (暗く) ……ごめんなさい、そのことだけは……教えられないわ。

13  
14 **【メルシー】** (怒る)  
15 っ！ ……もう嫌です！ こんなの、私は絶対認めませんから！  
16 すみませんが、今日はもう休ませていただきます！

17  
18 (演出：バタバタと足音、扉開け閉め)  
19 『メルシー退場、気まずい沈黙』

20  
21 **【主人公】**  
22 ……これで満足か？

23  
24 **【ロゼ】**  
25 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>  
26 「これで満足か」って、それが私に対する言葉？  
27 その言い方はなに？ 立場を弁え—— (主人公の言葉に遮られる)

28  
29 (演出：机たたく)

30  
31 **【主人公】** (キレ)  
32 もういい加減にしろ！！！  
33 先輩があなたっていいのかって聞いてるんだよ！！！  
34 僕は新入りだし、フラれたばかりだし、お前にとてどうでもいい存在かも  
35 しれないけど、彼女はずっとお前のそばで朝露を支えた友達じゃない  
36 か！！！  
37 そんな人にあんな悲しい顔をさせていいのかよ！ 放っておくのかよ！！！

38  
39 **【ロゼ】**

1 (心が痛む) つ……。

2

3 **【主人公】**

4 何も言わずにこのまま姿を消すつもりなのか！？

5 僕達は、理由すら打ち明けられない相手なのか！？

6 「繋がりを大切にする」って、お前が僕に教えた言葉だぞ、口ゼ！！！

7

8 **【ロゼ】**

9 (半泣きして、怒鳴り) もういい加減にしてっ！！！

10 <通常音量>

11 はあ……はあ……はあ……。

12 すう一ふう一……。

13 (泣くのを抑えながら) ……怒鳴ってごめんなさい……貴方もメルシーも、怒るのは当然のことよ。

14 もし気分が晴れるなら、ここで全部吐き出して頂戴、遠慮はいらないわ。

15 その前に、貴方からの質問に、一つずつ答えてあげる。

16 まず、メルシーには後で説得して、謝るつもりよ。

17 彼女は、貴方が思っているよりずっと強い子だから、私がいなくても大丈夫。

18 だから、店を託したのよ。

19 そして……告白の件。冷たくして、ごめんなさい。

20 私には、そんなつもりはなかった……嬉しかったの、本当よ。

21 ただ、誰かに告白されたのは初めてで、混乱して……。

22 自分の感情すらちゃんと伝えられない不器用なドールで、ごめんなさい……。

23 もう一度言うわ。貴方の気持ちに応じられない原因は私にあって、貴方のせいじゃない。

24 そして、これだけは、覚えていてほしい。

25 ここに来てから数ヶ月しか経っていないけど、貴方もメルシーと同じくらい、私にとって大切な人よ。

26 「朝露」と、貴方たちとの「繋がり」は、私にとってかけがえのない宝物。

27 貴方たちに辛い思いをさせてごめんなさい……。

28 でも、その宝物を守るためには、こうするしかなかったの。

29

1 (真摯に) ……そこは、どうか理解してほしいわ。

2

3 【主人公】

4 ……そうですか……ふふ……。

5

6 【ロゼ】 (怒る)

7 <大きい声>

8 ……どうして笑うの！？ なにが可笑しいのよ！？

9 私を笑うなんて許さないわよ！？

10

11 【主人公】

12 わかりましたよ。やっぱりロゼ様は人間関係が下手なんですね……。

13 いつも「繋がり」と口にしていますが、実際は何もわかっていませんよね？

14

15 【ロゼ】 (怒る)

16 (皮肉) ええそうよ！ 貴方の言う通りだわ！

17 貴方には何でもお見通しなのね。

18 私は人間関係が下手な馬鹿だから、よかつたら教えてちょうだい？

19 私は一体、どこで何を間違えたの！？

20

21 【主人公】

22 その「繋がり」をずっと拒絶しているのはお前の方なんだよ！！！

23

24 【ロゼ】 (怒る)

25 (低き声) ……貴方、自分が何を言っているか分かっているの？

26 ずっと居場所を探していた私が、人との「繋がり」を拒絶している？

27 そんなはずが—— (主人公の言葉に遮られる)

28

29 【主人公】

30 してるよ！ いつもいつも自己完結して、背負い込んで、自分だけが犠牲になればいいと思って！！

32 そんなの、悲しすぎるよ……！！！

33

34 【ロゼ】

35 <通常音量>

36 (涙を堪えながら) ふ、ふふ……わかっているわよ……自己犠牲くらい、とっくに自覚してた……！

38

39 <大きい声>

1 それでも……私がしたことは……！！  
2 私が犯した罪は……自分で背負うしかないのよ！！！  
3 その罪を無関係な人にまで背負わせろというの！？  
4

5 【主人公】

6 だからこそ「繋がり」があるんだよ。  
7 ……実はもう、わかっているんじゃないですか？ 店長。  
8 あなたはもう、その中にいるんですよ……。

9  
10  
11 【ロゼ】

12 <通常音量>

13 (言葉を反芻している) ……だからこそ、「繋がり」……？  
14 そして、私も……その中に……いる……？  
15 それは、どういう……。

16  
17 【主人公】

18 簡単なことですよ。店長がいつも僕達を支えてくれているように、僕達も、  
19 店長の力になりたいんです。  
20 だから、話してくださいよ。僕にも。メルシー先輩にも。  
21 本当に力になれるかどうかはわからないんですけど、みんなと分け合いましょ  
22 うよ。  
23 もう一人で背負わなくていいから……。  
24 店長みたいに不器用で優しい人には、やっぱり笑顔の方が似合いますよ。

25  
26 【ロゼ】 (声が震える)

27 辛いことを、みんなで分け合う……？  
28 もう、一人で……背負わなくても、いいの……？  
29 そんなこと……本当に許されるの……？ こんな私でも……。

30  
31 【主人公】

32 そんな当たり前のこと、誰かから許可を取る必要なんてないんですよ。  
33 僕の言葉を信じられなくても、「朝露」を信じてください。

34  
35 【ロゼ】

36 <大きい声>  
37 (一気に泣き出す) う、うう……うああー！！！  
38  
39 (泣きながら) わ、私には……私には、もうなにもないから……。

1 「朝露」だけ……ここだけは、もう失いたくない……。  
2 メルシーも貴方も、傷つけたくなんてない……！！！  
3  
4 だからそのためには、こうするしかないのよ……。  
5 自分を差し出す以外、どうすればいいのか……もうわからないのお……！！！  
6  
7 なんで私が……なんでいつもいつも、いつも！！！ 私が……！！！  
8 普通に生きること以外、なにも望んでいないのに……！！！  
9 どうして……？ ねえ、もう許して、お願ひ……許してよお……！！！  
10  
11 (演出：主人公がロゼを抱き上げる)  
12  
13 【主人公】 (宥める)  
14 もう大丈夫、大丈夫ですよ。  
15 辛かったですよね……重いものをずっと一人で抱えて、疲れたでしょう。  
16 僕なんかでよろしければ、喜んで力になりますよ。  
17  
18 (しくしくと泣き続ける声。アドリブ20秒)  
19  
20 (演出：フェードアウトして、場面転換)  
21  
22 【ロゼ】 (段々泣き止む)  
23 (深呼吸) ……すう一……はあ一。  
24  
25 ……ごめんなさい、貴方とメルシーに迷惑をかけて。それにこんな泣き虫で……。  
26  
27 【主人公】  
28 この程度じゃ泣き虫の内に入りませんよ。  
29 僕なんか、小さい頃は毎日のように泣いていましたし。  
30  
31 【ロゼ】  
32 <正面、正面向き、近い距離、通常音量>  
33 (安心した、穏やかな口調で) まさか、貴方に慰められる日が来るなんて……。  
34 (優しく) 新入りのくせに生意気ね。  
35  
36 ……ところで、その……いつまで私を抱き上げているつもり？  
37  
38 【主人公】  
39 あああ……ごめんなさいごめんさ——

1  
2     【ロゼ】  
3 ふふ、冗談よ。

4 貴方、私の力になると言ったわね？ じゃあ、このまま私を抱えていなさい。

5 (恥ずかしく) ……私も……安心、できるから……。

6 (ちょっと色っぽく) 甘えさせて頂戴？

7  
8     【主人公】  
9     ……！ はい！！ よろこんで！！！

10  
11     【ロゼ】  
12 喜びすぎよ、バカ。ふふ。

13  
14 さて……メルシーを呼び戻しましょうか。彼女にも謝らなくてはね……。

15 ○Scene 2

16  
17     ||||登場人物：ロゼ、メルシー、主人公  
18     ||||場所：カフェ「朝露」店内  
19     ||||シーン内容：メルシーを呼び戻し、再び「朝露」に集まった三人。ロゼは自分  
20 が「スカーレット・タイラント」ということと、暴走に関する一連のこと、ヴィン  
21 セントから脅迫を受けたことを説明した。

22  
23     (アンビエント：午後)

24     『ロゼは主人公に抱えられている状態で、テーブル越しにメルシーが座って  
25 いる』

26  
27     【ロゼ】

28 <正面、正面向き、近い距離、通常音量>  
29 ごめんなさい、メルシー、いつも自分勝手で……。

30  
31     【メルシー】

32 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>  
33 いいえ、謝るのは私の方です。  
34 何年も店長にお世話になっていたのに、あんなことを言ってしまって……。  
35  
36 店長がどれほど「朝露」を大事にしているのか、私が一番知っています。

1 だから、きっとなにかふか一い訳があるってわかってますし、協力したかったんです。  
2 3 ただ、それすらできないと知って、なんだかムカついて、寂しくて……。  
4 でも、もう大丈夫です！ みんな一緒なら、なんとかなりますよ！  
5

6 **【ロゼ】**

7 メルシー……。ありがとう。  
8

9 **【メルシー】**

10 いえいえ、どういたしまして。  
11 それにしても、新人君グッジョブですね、店長の心を開かせたなんて。  
12

13 **【主人公】**

14 それはまあ、えへへ～  
15

16 **【ロゼ】**

17 コホン……。新入り、デレないの。  
18

19 貴方たちに集まってもらったけど、まずは忠告よ。  
20 これは私が抱えている問題で、今までには、貴方達にはなんら関係がなかった。  
21 けれど、これから私が言うことを知ったら、今後巻き込まれた際には「関係者」になってしまふ。  
22 捕まって危険に晒される可能性もゼロではない。  
23 もし知りたくないなら、まだ間に合うわ。  
24

26 **【メルシー】**

27 そんなこと心配していたらとっくにお家に帰ってますよ～  
28 そうですよね、新人くん？  
29

30 **【主人公】**

31 だそうですよ、店長。  
32

33 **【ロゼ】**

34 はあ……ここまで脅しても駄目だなんて……。  
35 (優しく) 本当に貴方達、お人好しすぎる……心配してしまうわ。  
36  
37 では、私自身のことと、今回のことと、すべて話すわね。  
38  
39 **『少しの沈黙』**

1  
2     【ロゼ】

3     ……「スカーレット・タイラント」は、私よ。

4  
5     【メルシー】

6     やっぱりそう……でしたか。

7  
8     【主人公】

9     ……。

10  
11    【ロゼ】

12    今でも鍊金術協会は私の行方を探しているわ。だから今までずっと隠していたの  
13    ……。

14    あの事件は、不可抗力で暴走した私が起こしたもの。誰も命を落としていなかつた  
15    のは、不幸中の幸いだった。

16    けれど、無意識だったとしても、私は多くの人を傷つけた。人生の幸せの大半を、  
17    奪ってしまった。その事実は……変わらないわ。

18  
19    【メルシー】

20    一体……何があったんですか？

21  
22    【ロゼ】

23    ……細かく話すと長くなるから、大まかに説明するわ。

25    私はもともと、「オートマタドール」として作られたわけではないの。

26    だから他のドールのように、契約しているマスターはいない。

27    マスターの精神力を使う代わりに、普通の魔法エネルギー、エーテルを使ってい  
28    る。

30    私を作った人……「お父様」は、もともと鍊金術師ではなく、ヴァルガードという  
31    国の魔導科学の研究者だった。

32    だけである目的のために、鍊金術の道を歩み始めたの。

33    そしてそのために、鍊金術の禁忌にも手を出し、実験を行った。

34    ……けれど実験は失敗し、目的も達成できなかった。

35

36    貴方達が知っている今の私の人格は、その実験の副産物よ。

37    生まれたばかりの私は非常に不安定だった。幼い精神に釣り合わない膨大なエーテ  
38    ル量……爆弾なんかよりずっと危険だった。

1 普通なら副産物は、実験が失敗したとわかった時点で即座に破棄すべきだった。でも、お父様はすでに人格を得た私には生きる権利があると判断して、私をドールとして受け入れた。

4

5 それから私とお父様は、ドールとそのマスターのふりをして生き続けた……。  
6 不安定だった私も、お父様の元で育てられて少しづつ成長し、一般的なドールとあ  
7 まり変わらない生活を送っていたわ……鍊金術協会が来るまでは。

8

9 お父様が禁術を使ったことは協会にバレていて、私も一緒に捕らわれた。  
10 調査ののち、お父様は鍊金術協会から追放。そして協会所属のラボでは……私の解  
11 体作業を行うことになったの。

12

13 **【メルシー】**

14 えっ！？ で、でも、店長は今だって普通に生活できているのに、どうしてわざわ  
15 ざ解体なんて……。

16

17 **【ロゼ】**

18 ……いくら安定したとはいえ、この人格は禁術から生まれたものよ。  
19 協会のメンバーがそんな危険なものを作り出して、その上それを野放しにしたら、  
20 協会の恥さらしになるでしょう。  
21 それに彼らにとって、鍊金術と魔導科学の技術を融合して作られた私は、これ以上  
22 ないくらいの研究素材だった。

23 解体した後、じっくり調べるつもりだったのでしようね。

24

25 ……こういう解体作業において最も大事なのは、対象のすべての機能が停止してい  
26 る、或いは意識がない状態で行うこと。  
27 でもなぜかあの日、作業が始まる直前に意識が戻って、ラボにいる作業員がそれに  
28 気づかないまま、解体作業を始めてしまったの。

29

30 **【メルシー】**

31 う、うそ……でしょう……？ それって……。

32

33 **【ロゼ】**

34 ええ、「生体」解剖……厳密に言えば私は「生体」ではないけど、似たようなもの  
35 ね。

36

37 ……今でも覚えているわ。目眩がするほど無機質な白に埋め尽くされた部屋、「コ  
38 ンテナ」。

1 中央の「手術台」に固定された私が認識できたのは、巨大なメカニカルアーム 2 つ  
2 と、真っ黒な金属ツールの数々。ナイフ、ペンチ、ハンマー、はさみ……。  
3 右側のガラス窓の向こうには、アームをコントロールする研究者達……。  
4 彼らは真っ白な防護服と真っ黒なマスク姿で、顔も表情もわからなかつた。  
5 そして、私の目の前に、二つのアームが音もなく現れて、それぞれナイフを持ち上  
6 げて……両手首の関節を刺してきたわ。

7  
8 **【メルシー】**

9 (悲鳴) ひい……！

10  
11 **【ロゼ】**

12 正直、痛みはあまり感じなかつた。刺された瞬間、意識が途切れたから。  
13 再び意識が戻った時、私は見知らぬ森で一人で歩いていた。全身が火傷しているよ  
14 うに痛かつた。

15 それからしばらくして、私はようやく自分がしたことを知つた。  
16 恐怖のあまり、無意識のうちに私の動力源であるエーテルエンジンが暴走したの。  
17 そして、鍊金術協会のラボのある建物をまるごと破壊した。たくさんの無関係な人  
18 がその中にいたにもかかわらず。

19  
20 私は、あの人達に恨みや怒りがあるわけじゃない。  
21 彼らはただあの時、あそこにいただけ。  
22 それだけなのに、ある人は腕をなくし、ある人は足、ある人は視覚、ある人は聴  
23 覚、ある人は、体の半分を失つた。

24  
25 ……私のせいだ。

26  
27 **【メルシー】**

28 でもそれは、店長のせいじゃありません！  
29 ラボの人達が作業前にちゃんと検査を行わなかつたのが一番の原因じゃないです  
30 か！

31  
32 **【ロゼ】**

33 ……きちんと検査を行つていたら、私はその時に死んでいたわ。

34  
35 **【メルシー】**  
36 それは……そう、ですけど……。

37  
38 **【ロゼ】**  
39 暴走していたとはいえ、崩壊させたのは他の誰でもない私よ。

1  
2 ……生きているだけで、罪悪感に苛まれる日々だったわ。  
3 正直、自分を差し出して、何もかもを終わらせて、せめて罪滅ぼしができたら……  
4 なんてことは、何度も考えたけど……。  
5 昔、お父様が、こんなことを言っていたの。  
6 「罪悪感を抱えて、藻掻いて生きて、同じ苦しみを味わう。それこそが贖罪だ」と  
7 ね。  
8  
9 それから私は人目を避けて、転々として、自分が受け入れられる場所を探し続け  
10 た。  
11 私が望むのは、あるべき場所で、普通の生活を送ること。それだけよ。  
12  
13 【メルシー・主人公】  
14 ……。  
15  
16 『少しの沈黙』  
17  
18 【メルシー】  
19 ……なんだか壮絶すぎて、どう反応していいかわからなくなってしまいました  
20 ……。  
21 事故に遭った人たちも、店長も……みんな被害者じやないですか。  
22  
23 【ロゼ】  
24 けれど、関係ない人たちが傷ついてしまったのに、私は命を失わなかつたのよ。  
25 そんな私が被害者だなんて道理に合わないわ。  
26  
27 【メルシー】  
28 少なくとも、店長は罪人なんかじやありません！ 自分を責めなくたっていいと思  
29 います！  
30  
31 【主人公】  
32 僕もメルシー先輩と同意見です。  
33 事故の責任は、店長が背負うべきものではないと思います。  
34  
35 【ロゼ】  
36 ……貴方たちの思いは受け取ったわ。だけど、事実は変わらない。  
37 生きることを許された以上、それに対しての償いがなくてはならないわ。  
38  
39 ……何か言いたげな顔ね、新入り。

1  
2       【主人公】（モヤモヤしながら）  
3       ……いえ、なんでもないです。気にしないでください。

4  
5       【ロゼ】

6       そう、なんでもないならいいわ。

7  
8       ……昔話は以上よ。重要なのは、これからのこと。

9  
10      実は、ヴィンセントが独自の情報源から、私が「スカーレット・タイラント」だと  
11      いうことを知ったらしいの。

12      噂が広まったのもあいつの仕業よ。「朝露」が私の弱みだと気づいていたから、そ  
13      こに付け込んで、私と契約するつもりみたい。

14  
15       【メルシー】

16      契約……つまり店長のマスターになりたいってこと？

17      （驚く）って、ヴィンセントって、まさかあのヴィンセントさんですか！？

18  
19       【ロゼ】

20      ええ、常連のあいつよ。

21  
22       【メルシー】

23      た、確かに最初は店長にかなり執着していましたけど、一度顔を合わせてからは普  
24      通にお客さんとしていらしていましたし、私にも新人君にも優しいから……単にド  
25      ール好きな紳士だとばかり……。

26      どうしてこんなことを……？

27  
28       【ロゼ】

29      オートマタドールに執着しすぎて、どうしても自分のドールがほしいんですって。  
30      今世界に残っている既存のドールには大体マスターがいて、無理に奪うこともでき  
31      ないし、調べ回って私に辿り着いたんでしょう。

32      加えて、私は普通のドールじゃないから、コレクターのあいつにとっては喉から手  
33      が出るくらいほしい個体なのかもね。

34  
35      正直、あいつの情報収集能力とドールに関する知識量は恐ろしいわ。  
36      なにせ私についても、私自身が知らないことまで知っていた……。  
37      あいつ自身もそれなりの鍊金術師か、あるいは協会に太いパイプがある、そんなと  
38      ころかしら。

39

1 ……考えてみれば、あいつは多分、最初から私と契約するつもりで店に来ていたん  
2 だわ。  
3 私に会いたいとか言って、実際は私にマスターがいるか確認したかっただけなのかも  
4 もしれない。  
5 いい人を装って貴方達の信頼を得たのも、さらに情報を集めるための手段だったん  
6 でしょう。

7  
8 『主人公がぴくんと反応する』  
9

10 **【ロゼ】**  
11 ……。新入り、なにか心当たりがあるのかしら？

12  
13 **【主人公】**  
14 お恥ずかしいことに、たくさんあります、すみません……。  
15 鞭で叩いてください……。

16  
17 **【ロゼ】**  
18 大丈夫よ、こんなことで叩かないわ。  
19 貴方にとっては常連客との交流にすぎなかつたでしょうし。  
20 それとも、私がそんな簡単に暴力を振るうような暴君だとでも？

21  
22 **【主人公】**  
23 それは……。

24  
25 **【ロゼ】**  
26 (怒る) どうして黙っているの？ 叩かれたいのかしら？

27  
28 **【主人公】**  
29 イエ……ナンデモアリマセン……。

30  
31 **【ロゼ】**  
32 話を戻すわ。  
33  
34 あいつは私に、「自分を差し出せば、その引き換えに『朝露』を守る」という条件  
35 を示してきた。  
36 そして、貴方達も知つての通り、私はその条件を呑んだ。  
37  
38 ……呑まないわけがないわ。「朝露」はこの世界における、私の唯一の居場所だか  
39 ら。

1 ここすら失ったら……もう本当に耐えられそうにないわ。

2

3 『主人公が無意識に強くロゼを抱きしめる』

4

5 **【ロゼ】**

6 って……うつ、ちょっと新入り、腕に力込めすぎ、ん、少し痛いわ……！

7

8 【主人公】

9 ああ、す、すみませんすみません、気をつけます！

10

11 **【ロゼ】**

12 しっかりなさい、ドールの体はとても繊細なのよ？

13 (照れる) ……まあ、悪い気は……しないけど。

14

15 **【メルシー】** (大袈裟に)

16 うそお！！！ うちの店長がそんなデレッデレな顔をするなんてー！！！

17 神様、こんなものを見られるなんて、私、明日死ぬんですね！ うええーん！！！

18

19 **【ロゼ】**

20 (赤面ながら怒る) なっ！？ なによメルシー！？ それどういう意味！？

21 新入りもニヤニヤしないで頂戴！

22

23 **【メルシー】**

24 でも、やっぱり店長はこうじやなくちゃ。

25 普通に照れたり怒ったりして。ね？

26

27 【主人公】

28 ああ、こっちの方がお似合いですよ。

29

30 **【ロゼ】**

31 貴方達……。

32

33 ……なんとかして、この問題を乗り越えましょう。

34 あいつに手を引かせるためには、私が誰かと契約して、「スカーレット・タイラン  
ト」ではないと思わせなくてはならない。

36

37 **【メルシー】**

38 それならドールの店長には簡単なことじゃないですか！

39 新人くんさえよければの話ですけど。

1  
2       【主人公】  
3        僕がマスターになる前提なんですか！？  
4  
5       【メルシー】  
6       えっ！？  なんで新人くんが驚くんですか！？  
7       店長のこと、好きなんですよね！？  
8       もしかして私、ずっと勘違いしてました！？  
9  
10      (ロゼを見て)  あっ。  
11  
12      【ロゼ】  
13      (圧マシマシ、背後からゴゴゴゴみたいな) 貴方達……落ち着きなさい。  
14  
15      【メルシー】  
16      ハイ、モウシワケゴザイマセン……。  
17  
18      【ロゼ】  
19      ……マスター云々の前に、まず私に、契約は行えないわ。  
20  
21      【メルシー】  
22      え！？  
23  
24      【ロゼ】  
25      普通のドールの契約術が、私には使えないの。  
26      私とお父様は、普通のドールとマスターを装って生きてきたって言ったでしょう？  
27      あの頃に既に色々と試していたわ。けれどどの実験も成功しなかった。  
28  
29      ヴィンセントは「心配いらない」って言ったけど……。  
30      どの術式を使うかもわからないし、自己流で改造した術を使うことも、あいつの知  
31      識ならあり得るわね。  
32  
33      【主人公】  
34      「どの実験も」？  
35  
36      【ロゼ】  
37      ええ、ドールの契約術は一つだけではないの。  
38      基礎となる術式はほぼ同じだけど、たくさん変化形があるのよ。  
39

1 【メルシー】

2 じゃあ、その中から探せば……。

3

4 【ロゼ】

5 残念ながら、私が知っている術はごく一部で、それに成功しなかったから。契約術  
6 を記述した本はあるけど、どれも古くて貴重だから、鍊金術協会の図書館に保管さ  
7 れているの。

8 鍊金術師でない限り、まず貸してくれないわ。

9

10 ん？ どうしたの新入り？

11

12 (演出：ロゼをテーブルに置く)

13

14 <正面、正面向き、通常距離、大きい声>

15 って、私を置いてどこに行くの！？

16

17 すぐ戻る？ って、ちょっと、私の話聞いてる！？

18

19 (演出：主人公、店をダッシュで出る、扉開け閉め)

20 ○Scene 3

21

22 ||||登場人物：ロゼ、メルシー、主人公

23 ||||場所：カフェ「朝露」店内

24 ||||シーン内容：主人公がヴィンセントから貰ったドールの本を持ってくる。三人  
25 はその本を読んで徹夜で契約術を探す決心する。

26

27 (アンビエント：夕暮れ)

28 (演出：扉開け閉め)

29

30 【メルシー】

31 <やや右、正面向き、近い距離、通常音量>

32 あっ、帰ってきました。

33

34 【ロゼ】

35 <やや左、正面向き、近い距離、通常音量>

36 もう、話の最中にどこへ行っていたのよ？

37

1 (演出：本を机に置く)

2

3 **【ロゼ】**

4 なに、この分厚い本……  
5 っ！？ このカバー！ まさか——

6

7 (演出：ページを捲る)

8

9 **【ロゼ】**

10 ま、間違いない……これ、契約術を記述した本だわ……！  
11 どこで手に入れたの！？

12

13 **【主人公】**

14 ……ヴィンセントさんから。

15

16 **【ロゼ】**

17 なんですって！？ ヴィンセントから！？

18

19 **【主人公】**

20 ……え、ええ。以前、オートマタドールに関して勉強したいと言ったら、本  
21 を貸してくれて……。

22 まだ全部読んではいないんですけど、契約術に関する本ならこれかもしれない  
23 と思って、家から持ってきました。

24

25 **【ロゼ】**

26 おかしい……これじゃあまるで、自らカードを敵に渡すみたいだわ……。  
27 情報にうるさいあいつが、こんな馬鹿げたミスをするかしら？  
28 私が使用できる契約術が書かれてい可能性も高いけど……試す価値はあるわ  
29 ね。

30

31 ……新入り、今夜は貴方の家にお邪魔するわ。

32

33 **【主人公】**

34 え！？

35

36 **【ロゼ】**

37 なにをぽかんとしているの？ 貴方の手元にあるその本を調べ尽くすのよ！  
38 メルシーも手伝って。いいわね？

39

1       **【メルシー】**  
2       もちろんです！  
3  
4       **【ロゼ】**  
5       よろしい。では早速——（言葉が主人公に遮られる）  
6  
7       **【主人公】**  
8       ちょっと待ってください！  
9  
10      **【ロゼ】**  
11      （呆れて）はあ……まだ何かあるの、新入り？  
12      また先に帰るつもり？ 今度は理由くらい教えて頂戴？  
13  
14      **【メルシー】**  
15      （察し）……あつ。  
16      店長、新人君のお家はちょっと散らかっているようです。ですからお片付けしなき  
17      やいけないみたいですね～  
18  
19      **【主人公】**  
20      え、ええ！！  そうなんです！！！  だから少し待っていただければ……  
21  
22      **【ロゼ】**  
23      ああ、それなら全然気にしないわ。そんなことより早く……  
24  
25      『メルシー、ロゼを抱き上げる』  
26  
27      **【メルシー】**  
28      <やや左、正面向き、近い距離、通常音量>  
29      いいからいいから、新人君の意思を尊重しましょう～  
30      私たちもすぐに行きますから、早めにお願いしますね、新人君～  
31  
32      **【主人公】**  
33      はい！  お先に失礼します……！  
34  
35      （演出：主人公、店をダッシュで出る。扉開け閉じ）  
36  
37      **【ロゼ】**  
38      <大きい声>  
39      ちょっとメルシー、はなして！

1 貴女、私の話聞いてるの！？ メルシー！？

2

3 (演出：ロゼの声でフェードアウト)

4



1 8、秘密

2 ○Scene 1

3

4 |||| 登場人物：ロゼ、メルシー、主人公

5 |||| 場所：主人公自宅

6 |||| シーン内容：夜が深くなり、奇跡的に主人公とロゼが使える契約術を見つける。

7

8 (アンビエント：夜)

9 (演出：主人公がメルシーをベッドに寝かせる)

10

11 【メルシー】 (寝言)

12 <正面、正面向き、通常距離、小さい声>

13 もう食べられません……むにやむにや……

14 (寝息) すー、すー……

15

16 (演出：毛布掛ける)

17

18 【ロゼ】 <やや左、正面向き、近い距離、小さい声>

19 メルシーがベッドで寝るなら、貴方はどうするの？

20

21 【主人公】

22 ソファがありますので大丈夫ですよ。それより次の術式を試しましょうか。

23

24 【ロゼ】 そうね、その通りだわ。試していない術はまだたくさんある。

25 ……ごめんなさいね。契約術の編成は共同でやらないとできないから、貴方達にまで夜更かしさせてしまって。

26

27 【主人公】

28 夜更かしくらいへっちゃらですよ。

29 それに、慣れていますし。

30

31 【ロゼ】

32 ふふ、貴方達がいてくれて、本当に心強いわ。

1 けれど貴方、鍊金術は今日が初めてなのよね？  
2 初心者にしては上出来よ。飲み込みも早いし、向いているかもしれないわね。  
3  
4 メルシーは集中力が途切れるのが早かったけど……頑張ってくれたし、ぐっすり眠  
5 ってもらいましょう。  
6 私達は次のを試すわよ。

7  
8 【主人公】  
9 はい！  
10

11 (演出：二人の足音、扉開け閉め)  
12 (演出：リビングで二人同時詠唱、失敗)

13  
14 【主人公】  
15 うつ！  
16

17 【ロゼ】  
18 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>  
19 っ！ 新入り！？  
20

21 【主人公】  
22 だ、大丈夫です……少し、目眩が……。  
23

24 【ロゼ】  
25 <近い距離>  
26 精神力を消耗しすぎたのよ。まったく……。  
27 疲れた時はちゃんと言ってって、言ったじゃない！  
28

29 【主人公】  
30 僕は、大丈夫ですので……  
31

32 【ロゼ】  
33 (心配そうに) どこが大丈夫なのよバカ……。  
34 精神力が減ったら休む、それが鍊金術の基本。  
35 術を探し始める前に教えたはずよ。もう忘れたのかしら？  
36  
37 貴方は頼りになるけど、強がっている場合じゃないわ。  
38 ソファで少し休みなさい、私も一緒にいくから。  
39

1 (演出：移動、ソファに座る)

2  
3 【ロゼ】

4 ほら新入り、私を抱いて。

5  
6 【主人公】

7 ええ！？

8  
9 【ロゼ】

10 ん？ そこまで驚くこと？

11 「朝露」でずっと私を抱えていたじゃない。

12  
13 【主人公】

14 あ、ああ……そうですね！

15  
16 (演出：主人公がロゼを抱き上げる)

17  
18 【ロゼ】

19 ……昔、お父様が疲れた時は、いつも私を膝の上に座らせていたわ。

20 そうすれば回復が早くなるらしいの。

21 多分、私がドールだからでしょうね。

22 こうやって、人々の支えになることが、ドール本来の役割なのに……。

23 私は……。

24  
25 【主人公】

26 ……店長の製作者さんは、どんな人だったの？

27  
28 【ロゼ】

29 お父様のこと？

30 紳士的で、博識で、優しくて、とても素晴らしい人よ。そして、とても不幸な人。

31 運命は残酷……この一言に尽きるわね。

32 ……事件が起きてからは、会えていないの。

33 「会いたくない」と言ったら嘘になるけど……あの時お父様は既に60代。何十年  
34 も経った今、生きている可能性は高くない。

35  
36 貴方が謝ってどうするのよ。

37 いずれにせよ、どうにもならないことだわ。

38  
39

1           『少しの沈黙』

2

3    【ロゼ】

4    (ポツリと) ……正直なことを言うとね。

5    昨晚、ヴィンセントと商談をしていて、私はすべてを諦めたの……。

6    「朝露」を守るためというのは嘘じやない……けれど同時に、心のどこかで、もう

7    何もかも投げ出したい気持ちもあったわ。

8    ただただ……疲れた。

9

10    でもたった一日で、貴方とメルシーが、その思考から連れ戻してくれた。

11    これも、繋がりの力なのかもしれないわね。

12    お父様にはもう会えないかもしれないけど、今の私には、貴方達がいる。

13

14    ねえ……手、貸して？

15    髪を、梳いて頂戴。

16

17    【主人公】

18    え、けど櫛を持っていないです……

19

20    【ロゼ】

21    櫛ではなく、貴方の指でするのよ。

22    昔、お父様にそうされるのが好きだったから。

23    ちょっとしたわがままだと思って、お願ひ。

24

25    (演出：指櫛)

26

27    【ロゼ】

28    ……こんな感触、いつぶりかしら。

29

30    【主人公】

31    えっと、こういうの、先輩にお願いすればしてもらえると思いますけど……

32

33    【ロゼ】

34    ああ、メルシーにお願いしたこともあるけど、女性の手は男性のと感触が違うもの。

35    これはゴツゴツしていて、力強くて、温かくて……。

36

37    『少しの沈黙』

38

1       **【ロゼ】**

2       (ポツリと) ……ねえ、もし術を見つけ出したら、本当に私と契約するつもり？

3

4       **【主人公】**

5       えっ！？  そそそ、それは……

6       こ、心の準備というか……

7

8       **【ロゼ】**

9       (からかうように) あんな唐突に告白したくせに、いざ契りを交わすとなると心の  
10      準備ができていないっていうの？ 無責任な人ね。

11

12       **【主人公】**

13       いやそれは……えっと、良いマスターになれる自信がなくて……

14

15       **【ロゼ】**

16       ふふ、冗談よ。

17       貴方は、きっと良いマスターになれる。私はそう信じているわ。だから心配しない  
18      で。

19

20       (暗く) ……自信がないのは、私の方よ。

21

22       **【主人公】**

23       え……？

24

25       **【ロゼ】**

26       ……貴方はまだ、本当の私を知らないわ。

27       私の最後の秘密を知った上で、改めて、私のマスターになるかどうかを決めて頂  
28      戴。

29

30       でもその前に、契約術を見つけなければならないわ。

31

32       『少しの沈黙』

33       (演出：手櫛終わる)

34

35       **【ロゼ】**

36       もう大丈夫？

37

38       そう、では次の術にいきましょう。いいわね？

39

1           【主人公】  
2            はい！  
3  
4           【ロゼ】  
5           <通常距離>  
6           始めるわよ……！  
7  
8           (演出：二人同時詠唱、成功)  
9  
10          【ロゼ】  
11          ……！  
12  
13          (独り言) せ、成功、した……！？  
14          う、うそ、これで本当に……！？  
15  
16          <大きい声>  
17          ねえ、新入り！ 貴方も感じたわよね！？ さっきの感覚！  
18  
19          【主人公】  
20          は、はい！  
21  
22          【ロゼ】  
23          見つ……かった……！  
24          これで、私も……朝露も……！！  
25          ああー！！！  
26  
27          (しきしきと泣く、アドリブ30秒)  
28  
29          『ロゼは感極まって声にならない状態で、主人公に抱きつき泣いている』  
30  
31          【主人公】  
32          おっと……！ 良かったですね、店長！  
33  
34          (演出：主人公がロゼの頭を撫でる)  
35  
36          【ロゼ】 (段々落ち着く)  
37          ごめんなさい、本当にどうしようもなくて……。  
38  
39          【主人公】

1 そんなことでいちいち謝らなくていいですって！

2

3 (演出：扉開け閉め、足音)

4

5 【メルシー】 (寝ぼけて)

6 <やや左、正面向き、通常距離、通常音量>

7 店長～～、新人君～～。使える術、見つかったのぉ～？

8

9 【ロゼ】

10 <正面、右向き、通常距離、通常音量>

11 メルシー！ ごめんなさい、起こした？

12

13 【メルシー】

14 (あくび) ふああ～

15 えへへ～、私ってばこんな大事な時に寝ちゃうなんて～

16

17 じゃあ、店長のマスターは新人君にお願いしなきや、ですね？

18 マスターのマスターかあ、グランドマスター……かな？

19

20 【ロゼ】

21 いいえ、まだ契約者はこいつと決めたわけではないわ。

22

23 【主人公】

24 えっ！？

25

26 【ロゼ】

27 <正面向き>

28 「えっ」 じやないでしょ？

29 ここ数年、私のそばにいたのはメルシーよ。彼女にも、私のマスターになる権利があるわ。彼女の意見も同じくらい大切よ。

30

31

32 【メルシー】

33 店長の好意は嬉しいですが、新人君はドールに縁があって、店長のことを何かと気にかけていましたし、私なんかよりお人形のことを理解していますし、それなのに奪い取るだなんて、メルシーちゃんそんなことできませんよ～

34

35

36

37 それにマスターになるには、鍊金術が使えないダメでしょう？

38 私はこういうじつとしてるのってどうしても苦手なんです……。

39 適材適所といいますし、新人くんの方がいいと思います。

1 だから店長のこと、頼みましたよ！

2

3 **【ロゼ】**

4 ……貴女がそういうのなら決まりね。契約者は新入り、貴方にするわ。

5

6 **【メルシー】**

7 ああでも、マスターだからって店長におかしな命令をしちゃダメですよ！

8

9 **【ロゼ】**

10 (冷たく) もしそんなことしたら、その場で契約者をメルシーに移して貴方はクビ  
11 よ。客として来ても追い返すから。

12

13 **【主人公】**

14 そんなことしないですって！

15

16 **【メルシー】**

17 あはは～そうですよね、新人くんはそういう人じやありませんものね。

18 では、無事契約術も見つかったわけですし、私はお家に帰りますね～

19

20 **【ロゼ】**

21 ずいぶん遅くなってしまったから、家まで送るわ。

22 それで、契約のことだけど……「朝露」で行いたいの。いいわね、新入り？

23

24 **【主人公】**

25 は、はい……！

26 ○Scene 2

27

28 ||||登場人物：ロゼ、主人公

29 ||||場所：カフェ「朝露」ロゼの寝室

30 ||||シーン内容：契約を行う前に、ロゼは自分の過去すべてと今まで隠していた秘密を主人公に教える。

32

33 (アンビエント：夜)

34

35 **【ロゼ】**

36 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>

37 殺風景な部屋でごめんなさいね。あまり私物を持っていないから。

1 適当にベッドに座っていいわ。

2

3 (演出：主人公がベッドに座る)

4 【主人公】

5 この部屋の家具、ドール用のものではないですよね？

6

7 【ロゼ】

8 ええ。この部屋にあるものは、元からここにあったものよ。

9 全部人間サイズだけど、別に不便はないから修繕して使っていたの。

10

11 お茶飲む？

12

13 わかった、淹れるわね。

14

15 <右向き>

16 (人形に向かって) 仕事よ。少し手伝って？

17

18 (演出：人形が動き出して)

19

20 <正面向き>

21 ん？ ああ、この子ね。

22 この子はキッチンにいる精霊たちと違って、なぜか夜の方が活発なの。出番が少な

23 いから自分の部屋に置いているのよ。

24 上手く飼い慣らせたみたいで、私に懐いているみたい。そのうち、名前をつけよう

25 かしら。

26

27 (演出：お茶を淹れる)

28

29 お待たせ。

30 コーヒーの器具は下の階にあるから、きちんとした振る舞いができなくて申し訳な

31 いわね。

32

33 (演出：ロゼは自分のティーセットを運び、人形は人間サイズのカップを主

34 人に渡す)

35 (演出：ティーセットをベッド前のテーブルに置く)

36 (演出：ロゼは主人公のそばに座り、カップを持ち上げ、お茶を啜る)

37

38 『主人公、お茶を啜りながら、面白そうにティーセットを見ている』

39

1   **【ロゼ】**

2   <やや右、正面向き、近い距離、通常音量>

3   私のティーセットに興味があるの？

4   ……これは、とあるお嬢様から贈られたものよ。

5   やや古臭いデザインだけど、愛用しているの。

6

7   昔、色々な場所に移り住んでいた頃、ここに来る前に辿り着いたのがとある城だつ  
8   たのよ。

9

10   ふふ、貴方が思うような煌びやかな王城ではないわ。

11   もっと薄暗くて不気味で、城というよりダンジョンの方が近いかもね。

12   なにせ、吸血鬼の城だから。

13

14   ええ、「その」ヴァンパイアよ。

15   この国は鍊金術だけじゃなく、歴史上、吸血鬼関連の話も多いのよ。

16   私が入ったのは、そういう家系の城だった。

17

18   最初はそれまでと同じように普通の人形を装っていたんだけど、程なくしてそこの  
19   お嬢様にバレてしまってね。

20   けれど人間と違って、魔物の彼女は「呪い人形」の噂なんて信じなかつたし、嫌悪  
21   感もなかつた。城から追い出されどころか、私を自分の部屋に置いてくれたわ。

22

23   ……そのとき初めて、お父様以外の人に受け入れられた。

24

25   今思えば彼女は、ある意味私と同じ境遇だったわ。自分の意思と関係なしに、多く  
26   のものを背負っていた。よっぽど話し相手が欲しかつたのかもね……。

27

28   けれど、それも束の間の安らぎにすぎなかつた。

29

30   そのお嬢様の両親は、吸血鬼の撃だか何だかを破っていたらしくて、同族によって  
31   暗殺されてしまったの。

32   それから、城が砂のように崩れていった。衛兵や使用人、みんなが去つていって、  
33   やがて彼女と眷属の妖精一人だけが残された。

34

35   どうやら私は、まごうことなき「呪い人形」のようね。

36   夜の王だと謳われた長寿の吸血鬼の家族ですら、私に関われば壊滅してしまう。

37

38   **【主人公】**

39   いや、それは単なる偶然だと思います……。

1  
2 ……ええ、それくらい知っているわ、偶然だって。  
3 ただ、不幸の連鎖に巻き込まれると、重なった偶然を脳が勝手に「運命」に変換し  
4 ようとするものよ。  
5  
6 最後に、彼女は自分と一緒にいると危険だからと、なるべく早く城から離れるよう  
7 私に言った。  
8 あの時の彼女の顔は、今でもはっきり覚えているわ。あれは、来たる運命に降伏  
9 し、すべてを諦めていた顔よ。  
10 昨晩の私は……それと同じ表情をしていたでしょうね。  
11  
12 館別はティーセットと、偽造されたドール身分証明書と……このブローチ。  
13 城を去ってからはそれらを使って、ドールにもできる仕事をして、お金を貯めて、  
14 そしてこの店を開いた。  
15  
16 前にも言ったけど、私にとって、朝露は自分が作り上げた居場所よ。  
17 だから、自分を差し出してでも、ここを守りたいの。  
18  
19 『少しの沈黙』  
20  
21 最後に、もう一度聞くわ。  
22 貴方、本当に私と契約するの？  
23  
24 (決心して) ……なら、本当の私を、見せてあげる。  
25  
26 (演出：ロゼが立ち上がり、ベッドの上で服を脱ぎ始める)  
27  
28 【主人公】  
29 ちょ、ちょっとロゼさん！  
30  
31 【ロゼ】  
32 <正面、正面向き、近い距離、通常音量>  
33 ……ちゃんと下着はついているから騒がないで。  
34 私だって、肌を晒すのは恥ずかしいのよ。  
35  
36 (演出：衣擦れ)  
37  
38 『ロゼ、ブローチを手にして』  
39

1     【ロゼ】

2     これで、偽装魔法を無効化すれば……。

3

4     (深呼吸) すうーはあー。

5     今から何を見ても、目を逸らさないで。お願ひ。

6

7     ……これが、本当の私よ。

8

9     『ロゼがブローチを握り、偽装魔法が無効化し、体に多くの傷跡が浮かぶ』

10

11     【主人公】

12     っ！？

13

14     『恥ずかしがりながらも、ロゼは自分の肌を主人公に見せる』

15

16     【ロゼ】

17     体に満遍なく巻きついたバラのツル……これらは全部、暴走した時につけた傷だ  
18     わ。

19     この傷を目印にして、協会は私を探していた。だから、一つの場所に長く留まらない  
20     ように、あちこちに転がり込んでいたの。

21     そして吸血鬼のお嬢様からもらった偽装ブローチとドールの身分証明書のおかげ  
22     で、ようやく追われることなく、それなりに安定した生活を手に入れられた。

23

24     貴方達がよく知っている「ロゼ」という名前も……あの証明書に書かれた名前よ。  
25     そう、貴方達が知っている私のすべてが……全部、偽物だったの。

26

27     ……貴方、この前告白した時に、私に綺麗って言ったでしょう？

28     これを見て、まだ「綺麗」と言えるかしら？

29     これを見て、まだ「好き」と言えるかしら？

30     もう長年手入れされていないから、何もかも傷だらけで、ボロボロなのよ？

31     こんなジャンクみたいな私でも、貴方はまだ契約したいと思うの？

32

33     【主人公】

34     ……まだ痛いのか？

35

36     【ロゼ】

37     (驚く) えっ？

38     いいえ……もう痛くはないわ、かなり古い傷だから……。

39

1           【主人公】

2            そつか……良かった……。

4            (演出：主人公がロゼを優しく抱き上げる)

6           【ロゼ】

7            <正面、正面向き、直近距離、通常音量>

8            あっ……！

10          【主人公】

11          ボロボロだって、また直せばいいじゃないですか。

12          手入れする人がいないなら、僕がりますよ。

13          職人ほどの腕ではないかもしませんが、これから上達していきますから。

14          ロゼさんの美しさは、こんな跡で減るようなものではありません。

16          だから、僕の答えは変わらない。

17          何回でも言います。好きですよ。

18          僕なんかでよろしければ、契約させてください。

20          【ロゼ】

21          そう……。こんな私でも、受け入れてくれるのね……。

22          ……ありがとう。本当に……ありがとう。

24          <左側、直近距離、囁き>

25          貴方からは、もうなにもいらないわ。

26          私と契約して頂戴。

27          これは、「新入り」の貴方に、私がお願いできる最後のことよ。

29          (演出：二人、契約術詠唱)

31          【ロゼ】

32          だから、これからは、あの子たちにしたように、私の手入れもよろしくね……マスター。

34          そして、覚えていて……。

36          私の本当の名前は、「ロザリー」。

37          だから、本当は紅い霧ではなく、紅薔薇（ベニバラ）よ。

39          (主人公の頬にキス) ちゅつ。

1  
2 (演出：契約術詠唱終わり)  
3 『少しの沈黙』  
4

5 【主人公】  
6 ろ、ロゼさん、今のは……  
7

8 【ロゼ】  
9 <正面、正面向き、直近距離、小さい声>  
10 ん？ 今？  
11

12 (頬を赤く染めながら) っ……！ あ、貴方ね……。

13 そんなこと、改まってレディーに聞くつもり？

14 勘違いしてもいいから、黙って喜びなさい。

15 それと、二人きりの時は、本当の名前で呼んでもいいわ。

16 マスターの貴方には、なにも隠す必要はないもの。

17 もう全部、捧げたのだから。

18 【主人公】  
19 わ、わかった……ロゼ……じゃなくて、ロザリー。  
20

21 【ロゼ】  
22 「ロザリー」……。この名前で呼ばれたのは、何年ぶりかしらね……。  
23

24 『少しの沈黙』  
25 (演出：主人公がロゼをベッドの上に置く)  
26

27 <正面、正面向き、近い距離、通常音量>  
28

29 これで明日、あの悪徳商人の策略を打ち破れる。

30 私を脅したこと、たっぷり後悔させてやるわ。  
31

32 【主人公】  
33

34 ええ！ 明日のためにも、きちんと休まないと。店長も今日は疲れたでしょ  
35 う。  
36

37 もう深夜……日を跨いでしまいましたね。僕はそろそろ——うお！  
38

39 【ロゼ】

1 <正面、正面向き、直近距離、通常音量>  
2 待ちなさい。  
3 まさか、契約したばかりのドールを置いて、「また」先に帰るつもりじゃないでし  
4 ょうね？  
5

6 それとも、「呪い人形」の私と寝るのが、そんなに怖い？  
7

8 【主人公】  
9 そんなことは決して——  
10

11 【ロゼ】  
12 (恥ずかしがりながら) そうじゃないなら、今夜くらい……泊まっていきなさいよ  
13 ……。  
14 そばにいてくれないと……安心できない気がするわ……。

15 自分のドールのわがままくらい、聞いてくれるでしょう？ マスター？

16 ○Scene 3  
17

18 |||| 登場人物：ロゼ、主人公  
19 |||| 場所：カフェ「朝露」ロゼの寝室  
20 |||| シーン内容：契約後、本当の意味で「結ばれる」二人。主人公がロゼを長年縛  
21 続けた「贖罪意識」から救い出す。

22  
23 【ロゼ】  
24 <左側、正面向き、直近距離、小さい声>  
25 このブランケット、捨てなくて良かったわ。  
26 大丈夫？ 寒くない？  
27

28 【主人公】  
29 あの、ロザリーさん、流石にこれは……  
30

31 【ロゼ】  
32 ん？ ベッドは一つしかないから、同じブランケットで寝るのは仕方ないでしょ  
33 う？  
34 貴方の家のベッドより大きいから、スペースは十分だと思うけど、不満？  
35

36 【主人公】  
37 いや、不満はないんですけど……えっとですね……

1  
2     【ロゼ】  
3     ああ、わかった。男だからドールと寝るのが恥ずかしいんでしょう。  
4     ここには私達しかいないし、このことを誰かに言うつもりはないから安心して。  
5     そもそも人形と遊べるのは女の子だけってルール、一体誰が作ったの？ おかしい  
6     わ。  
7  
8     【主人公】  
9     いや違いますよ！  
10  
11    【ロゼ】  
12    違う？ では何の問題があるの？  
13  
14    【主人公】  
15    僕達のこの状況を見てくださいよ！  
16  
17    【ロゼ】  
18    状況って、ドールとマスターが同じベッドで一緒に寝ているだけだけど……  
19    それがおかしいとでも？  
20  
21    【主人公】  
22    ……。  
23  
24    【ロゼ】  
25    ほらまた黙った。文句があるならはつきり言いなさいって何度も……きやつ！  
26  
27    (演出：布ゴソゴソ)  
28  
29    【ロゼ】 (ここからはちょっと悩ましげな喘ぎ声っぽくお願ひします)  
30    <正面、正面向き、直近距離、小さい声>  
31    あん、ちょっと……！ な、なに！？  
32    んはあ、う、うなじ、甘噛みしない……！  
33    って、こら！ 耳っ！ 耳弄らないで！？ んっ、ね、ねえ、話、聞いて……！  
34    聞いてって……んん！ はうっ、んっ、はあ……！  
35    えっ！？ なぜパジャマの下に手を入れるの！？  
36    ちょっと、ちょっと、あそこはダメ！ 汚いから、だめ……ダメよ！！！  
37  
38    『主人公、我に帰る』  
39

1     【ロゼ】

2     <右側、正面向き、直近距離、小さい声>

3     はあ、はあ、はあ……。

4     (か弱く) ……いきなり襲ってきて、本当にケダモノみたいだわ……。

5

6     【主人公】

7     店長があまりにも無防備なのが問題なんだよ……！

8

9     【ロゼ】

10    わ、私のせいなの！？

11

12    (少し考えて、だんだん恥ずかしくなる) ……。

13    (恥ずかしがる) お、おそらく、私にも、非があるんでしょうけど……。

14    (恥ずかしさを誤魔化す) こんな私に欲情できる貴方もどうかしているわよ。

15

16    (デレ) ……本当に、どうかしているわ、マスターは。ふふ。

17

18    『少しの沈黙』

19

20    【ロゼ】

21    ……落ち着いた？

22

23    【主人公】

24    ええ、多分……

25

26    【ロゼ】

27    ならいいわ。

28

29    【主人公】

30    って、ずっと抱きしめたままでしたね！ すみません！

31

32    【ロゼ】

33    あっ、手は、はなさないで……このまま、貴方に抱きしめられたままがいいの  
34    ……。

35    できれば、眠りにつくまで、ずっと……。

36

37    【主人公】

38    は、はい……。

39

1 『少しの沈黙』

2  
3 あ、あの……さっきの、怒らない……のか？

4  
5 【ロゼ】

6 怒るって……貴方がケダモノになったことについてかしら？

7  
8 【主人公】

9 もうやめてください、恥ずかしいです……。

10  
11 【ロゼ】

12 あら、まだ恥ずかしさを感じるくらいの理性は残っていたみたいね。えらいわ。

13  
14 冗談よ。怒ることなんてないじゃない。貴方は、私のマスターよ。

15 言ったでしょう？ 「全部捧げた」って。

16 それに、なにより、求められること自体は……私にとっては、幸せ、だから……。

17 でも、いきなりするのは本当に危険だからやめなさい。また暴走したら——

18  
19 (何か気づく) ……あら？

20  
21 【ロゼ】

22 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>

23 (心の声) いつもなら感情が昂ると、体が熱くなるはずなのに……契約してから、

24 それがなくなっている……？

25 もしかして……

26  
27 【主人公】

28 ……ロザリー？

29  
30 【ロゼ】

31 <右側、正面向き、直近距離、小さい声>

32 ……マスターのおかげで、もう自分のことが怖くないわ。

33 貴方に……とんでもない借りを作ってしまったようね。

34  
35 ふふ、今は分からなくても大丈夫、あとで教えてあげるから。

36 今日はもう寝ましょう。

37  
38 <左向き>

39 (人形に向かって) 灯りを消して頂戴。

1  
2 『少しの沈黙』  
3 (SE : 布コソコソ)  
4  
5 <正面、正面向き、直近距離>  
6 (ロゼ吐息、アドリブ2分)

7  
8 **【ロゼ】**

9 <小さい声>  
10 (ポツリと) 思い出したわ……人の温もりって……こんな感じだったわね……。  
11 すっかり忘れそうになってた……。

12  
13 ねえ、私小さいから、抱き締めても物足りないんじゃない?

14  
15 そう……なら良かったわ。

16  
17 私? 私は、ずっとここで眠っていたくらい心地が良いわ。

18  
19 ……さっき、貴方に手を離さないでって言ったのは……怖かったからよ。  
20 何十年も、一人ぼっちで生きてきた。先週までは、それがこれからも続くと思って  
21 いた。けれど、今は私のそばには貴方がいる。

22 現実味がないわ。まるで、この腕を離したら、二度と戻ってこないような気がする  
23 ……。

24 覚めた夢みたいに、ぼやけた記憶だけが残りそうで……。

25  
26 私は本当に、幸せになっていいのかしら……。

27  
28 **【主人公】**

29 ……。

30 店長の本名は、「お父様」が付けたものなのか?

31  
32 **【ロゼ】**

33 本名の由来、ね……。  
34 間違ってはいないわ。お父様に名付けられたのよ。  
35 だけどこの名前は、私のものではないの。  
36  
37 ……私はドールとしてではなく、「ある目的」のために作られたって、言ったわよ  
38 ね?  
39

1 それはね、ある人の命を救うためだったの。  
2 私は、お父様の本当の娘、「ロザリー」という子供を不治の病から救う切り札だつ  
3 た。  
4  
5 ええ、そうよ。私は、「器」だった。  
6 お父様は娘のために、ヴァルガードという国からここに来て、長年研究し続けた魔  
7 導科学を捨て、一から鍊金術を学び始めたの。オートマタドールを作る技術もね。  
8 「ドールがマスターの精神のかけらを元に人格を確立できるなら、すでにある人格  
9 をそのまま受け継ぐのも不可能ではない」。それが最初の構想だった。  
10 その上、高効率の小型エーテルエンジンを搭載すれば、マスターがいなくても動け  
11 るし、十分長い間生きることができる。  
12  
13 もちろんそれは、鍊金術協会から禁じられている行為よ。お父様はそれでも構わな  
14 かった。  
15 けれど、どんなに実験しても、失敗続き。日に日に、ロザリーの体調は悪化してい  
16 った。  
17 結局、禁術の研究は報われず、彼女はこの世を去ってしまった。  
18 そして器の私に残されたのは、ロザリーの精神のかけらだけ。  
19  
20 だけど不完全ながらも、それも彼女の一部。  
21 娘が残した最後の形見を、どうしても破棄できなかつたのでしょうね。  
22 だから、私に彼女の名前をつけて、本当の娘のように育てることにした。  
23  
24 あとのこととは、知つての通り。  
25  
26 ……そういえば、貴方この前、何か言いたげな顔をしていたわね。  
27 この際全部吐き出して頂戴。知つてのことには、答えるつもりだから。  
28  
29 【主人公】  
30 店長は、「生きることを許された以上、それに対する償いがなくてはなら  
31 ない」って言ったよね。  
32  
33 【ロゼ】  
34 ……ええ、確かに言ったわ。  
35 生きることを許されたのだから、それに対する償いが必要だと。  
36  
37 【主人公】  
38 どうして、店長は自分をそこまで追い込むほど、「償い」に執着している  
39 の？

1  
2     【ロゼ】

3 あら、おかしいことを言うのね。  
4 なにかを与えられたら、必ず代償を支払わなければいけないでしょ？  
5 コーヒーを頼むにはお金が必要。大学に入るには学費が必要。  
6 あの事件で命を落としていたはずの私は、図らずも生き延びた。  
7 それに対する代償は、罪悪感と共に生きることよ。

8  
9 お父様は、娘を救えなかつたことの罪悪感にずっと苛まれていた。  
10 亡くした娘への贖罪こそが、自分の生きる意味だと仰っていた。  
11 私は、あの頃のお父様と同じことをしているだけ。

12  
13     (演出：主人公が強くロゼを抱きしめる)

14  
15 (悩ましげに) んっ、あつ。  
16 ね、ねえ。どうしたの？ また強く抱きしめて……。  
17 ……どうして、そんなに悲しい顔をしているの？

18  
19     【主人公】

20 ……ロゼさん、僕のことを信じてくれますか？

21  
22     【ロゼ】  
23 えっ？ ええ、貴方のことはもちろん信じるわ。私のマスターだもの。

24  
25     【主人公】  
26 多分、店長のお父様は……。彼は本当は、あなたを愛していなかつたと思  
27 う。

28  
29     【ロゼ】  
30 ……お父様が、私を愛していなかつたというの……？

31  
32 (暗く) ……どうしてそう断言できるのか、教えてくれる？

33  
34 (独り言) ……そう。やっぱりね。  
35 子供の前で、そんな言葉を口にする親なんて、いないわよね。  
36  
37 ……ねえ、また髪を梳いてくれる？  
38 少し、考えたいの。

39

1 『少しの沈黙』

2

3 【ロゼ】 (ポツリと)

4 実は……薄々気づいていたわ。

5

6 普通の人形を装って放浪する中で、様々な家庭を見てきた。

7 殆どの親は、自分がどれだけ辛くとも、決してそれを子供に見せはしなかった。

8 ……お父様とは違ったわ。

9 だからおそらく、お父様にとって私は……「娘の代わり」なだけで、「ロザリー」  
10 ではなかったのよ。

11

12 実験が失敗したせいで、私は、真の「ロザリー」にはなれなかった。

13 だけどお父様の「娘」であることさえ否定したら、自分が誰なのか、わからなくな  
14 ってしまう……。

15 私は思考が迷子になることを恐れて、ずっとそのことを考えないようにしてきた。

16

17 でも……今は、もう怖くない気がする。

18 マスターがいるから。

19

20 【主人公】

21 ああ、店長は、店長だから。

22

23 【ロゼ】

24 ふふ、そうね。マスターの言う通りだわ。

25 私は私。

26 たとえ証明書が偽物でも、そのことに偽りはない。

27

28 私は、ロゼ。ロゼ・ヴァーミリオン。「朝露」の店主。

29 これから私は、貴方のオートマタドールとして生きていく。もう過去に縋り付きは  
30 しないわ。

31

32 『少しの沈黙』

33

34 【ロゼ】

35 ……何十年も生きてきて、私は今日初めて、ちゃんと私になれた気がする。

36 そして「朝露」はやっと、真の意味で、私の居場所になった。

37 これも全部、マスターのおかげよ。

38 本当に、ありがとう……。

39

1 『少しの沈黙』

2

3 【主人公】

4 そういえば……あの日、店長が僕の告白を拒んだ原因は、やっぱり自分の過  
5 去にあったんですね……

6

7 ええ、そうよ……私に告白してきた貴方に、「スカーレット・タイラント」が私だ  
8 って、打ち明けられるはずがないじゃない。  
9 だから、貴方の好意を受け入れられなかつたけど……。

10

11 【主人公】

12 じゃ、じゃあ……今、は？

13

14 (優しく) もう……本当に、おバカさんね。今の私達は、マスターとドールなの  
15 よ？

16 私達には、口先だけの甘ぬるい言葉なんかよりも、ずっと強い絆があるわ。

17

18 ほら、マスター、目を閉じて。

19 マスターの胸板に触れているの……わかるかしら？

20

21 (演出：体を触る)

22

23 ええ。私も、マスターのことが好きよ。

24 それも……

25

26 【ロゼ】 (心の声)

27 マスターに告白される前からね。

28 だから、私の勝ちよ。

29

30 【主人公】

31 えっ！？ どういうこと！？

32

33 【ロゼ】

34 ふふ、テレパシーは精神連結の一般的な応用よ。マスターもすぐ使えるようになる  
35 わ。

36

37 <左側、正面向き、直近距離、囁き>

38 さっきの言葉は、あの時貴方を傷つけたお詫び。

39

1 でも、それを抜きにしても、私は貴方のことが好きだし、ずっと貴方のドールでい  
2 るつもりよ。

3

4 ええ。死が二人を分かつまで、ずっと貴方のものよ。

5 これで、満足かしら、マスター？ ふふ。

6

7 ……私も、もう二度と、貴方を手放さないから。

1 9、萌芽

2 ○Scene 1

3

4 ||||登場人物：ロゼ、ヴィンセント、モブ客1、主人公

5 ||||場所：カフェ「朝露」店内

6 ||||シーン内容：ヴィンセントは時間通りにロゼを迎えてきたが、朝露が通常営業  
7 していることに戸惑う。彼は客の前でロゼの精神連結を検証しようと提案する。

8

9 (アンビエント：朝、客のガヤ)

10 (ヴィンセント、約束の日に朝露にロゼを迎えてきた)

11

12 【ヴィンセント】 (心の声)

13 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>

14 ん……？ 店が、開いている？

15

16 (演出：ドア、カラシコロン)

17

18 【ロゼ】

19 <やや右、正面向き、通常距離、通常音量>

20 いらっしゃいませ、ヴィンセント。

21 いつもご来店ありがとうございます。

22

23 【ヴィンセント】

24 ……まさか、ロゼ店長自らお出迎えいただけるとは、光栄です。

25

26 【ロゼ】

27 「朝露」の大事なお客様ですもの、これくらい普通ですわ。

28

29 【ヴィンセント】

30 <近い距離、小さい声>

31 しかしロゼ様、この状況は一体どういうことでしょうか？

32

33 【ロゼ】

34 <正面、正面向き、近い距離、通常音量>

35 あら？ 見ておわかりにならない？ いつも通り営業中です。

1 今日は気分がいいので、少々お安くしているんですよ。軽食とコーヒーのセットは  
2 いかがかしら？

3

4 【ヴィンセント】

5 ……ほう。では、ロゼ様は「契約」を破棄なさるおつもりで？

6

7 【ロゼ】

8 なんのことでしょうか？ さっぱりわかりませんね。はっきりとお願ひできます  
9 か？

10 できれば、ここにいる皆さんにも聞こえる声で。

11

12 【ヴィンセント】

13 (独り言) ……なるほど。

14

15 <正面、正面向き、通常距離、大きい声>

16 (演説するように) ロゼ様がそう仰るなら、いいでしょう。

17 丁度、常連のお客様方もいらっしゃいますし、ここで全部はっきりさせましょう。

18

19 (アンビエント：客のガヤが消える)

20

21 【ヴィンセント】 (歩き回る)

22 <左から右、右から左、正面向き、通常距離、通常音量>

23 皆さん、お食事中申し訳ありません。

24 この店に関して、皆さんに知らせなければならないことがございます。

25 具体的には、ロゼ店長についてですが。

26

27 皆さんもご存知でしょう、近頃の噂を。

28 「スカーレット・タイラント」はこの街に潜んでいる、と。

29

30 数十年前の悲劇、ご高齢の方々は今もよく覚えていらっしゃるでしょう。

31 当時はまだ幼かった小生も、ラジオから流れる現場の音声を聞いて、衝撃を受けま  
32 した。

33 事件は解決したものの、当事者である「スカーレット・タイラント」というドール  
34 の行方は、誰も掴むことができませんでした。

35 小生はずっと、その「スカーレット・タイラント」を探していたのです。

36 幻を追い求めるようなのですが、それでも、諦めきれずにいました。

37

38 そんな中耳にしたのが、今回の噂です。

1 皆さんご存知の通り、この区画に住んでいる「ドール」は、ここにいるロゼ店長し  
2 かいらっしゃいません。

3  
4 もし彼女が、かつてあの大惨事を起こした「スカーレット・タイラント」だとした  
5 ら？  
6

7 (アンビエント：客のガヤ)  
8

9 <大きな声>  
10 そんな皆さん的心配を和らげるために、小生が好きなこの店を危険から守る為に、  
11 そして、ロゼ様の心労を解消するために、真偽を確かめるべきだと考えています。  
12

13 (アンビエント：客のガヤが消える)  
14

15 <通常音量>  
16 小生は一介のドール愛好家に過ぎませんが、かつてドール製造の技術者だった友人  
17 がいましてね。  
18 彼の助言のもと、小生は多くの資料を集めました。そしてそこから、「スカーレッ  
19 ト・タイラント」の絶対的な特徴を一つ、見つけたのです。  
20 「スカーレット・タイラント」には、「オートマタドール」にある「精神連結」が  
21 存在しない。  
22 そこで小生は友人から、とあるツールを借りてきました。

23  
24 (演出：レンズを取り出す)  
25

26 これは、その「精神連結」が見えるレンズ……「アストラルレンズ」といいます。  
27 もしこれを通して「連結」が見えたなら、ロゼ様の無実は証明できます。  
28 ですが、もし何も映らなかつたら……  
29 残念ですが、ここにいる皆さんの安全の為に、鍊金術協会に通報することになるで  
30 しょう。

31  
32 もちろん、この道具が信じられないようでしたら、町の協会機構に同行し、レンズ  
33 が本物か確かめていただいても構いません。

34  
35 <正面、左向き、通常距離、通常音量>  
36 どうでしょう、ロゼ様。ここで検証してもよろしいですか？  
37

38 【ロゼ】  
39 <やや右、右向き、通常距離、通常音量>

1 ええ、もちろん。  
2 その方が、変な噂もなくなるでしょうし。  
3  
4 【ヴィンセント】  
5 <正面、正面向き、通常距離、大きい声>  
6 ……では、始めましょう。  
7  
8 公正を期す為に、レンズを見るのは小生ではなく、今居合わせている方にお願いし  
9 たいと思います。  
10 どなたか参加されたい方は？  
11  
12 ああ、たくさんの方が手を挙げてくださっていますね、素晴らしい……！  
13 ご協力、ありがとうございます。  
14 では、一番前のお嬢ちゃん、こちらへどうぞ。  
15  
16 (演出：靴音)  
17  
18 【モブ客1】  
19 <やや左、左向き、通常距離、通常音量>  
20 (緊張して) お、お願ひします。  
21  
22 【ヴィンセント】  
23 <正面、右向き、通常距離、通常音量>  
24 そう緊張なさらずに。とても簡単ですから。  
25  
26 <左向き>  
27 ロゼ様、準備はよろしいですか？  
28  
29 【ロゼ】  
30 ええ、いつでもどうぞ。  
31  
32 【ヴィンセント】  
33 <右向き>  
34 では、レンズの照準をロゼ様に合わせてください。  
35 ロゼ様が無実の場合、まもなく「連結」が見えるはずです。  
36  
37 (演出：レンズが起動する音)  
38  
39 【ロゼ】

1 (緊張する) ……。

2

3 【モブ客1】

4 み、見えました……！

5

6 【ヴィンセント】

7 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>

8 ……。

9

10 【モブ客1】

11 <やや左、左向きから正面向きに変わる、通常距離、大きい声>

12 えっと……この、黄色の線を辿ればいいんですか……？

13 ええっ！？ お、お会計のお兄さん……！？

14

15 (アンビエント：客のガヤ)

16

17 【ロゼ】

18 <やや右、正面向き、通常距離、通常音量>

19 ええ、そうよ。

20 マスターはとある理由で、他国で学生時代を過ごしていたの。

21 そして高校を卒業して、ようやく戻ってきたのよ。

22

23 <やや右、右向き、通常距離、通常音量>

24 これではつきりしたわよね？ ヴィンセント。

25

26 【ヴィンセント】

27 <正面、左向き、通常距離、通常音量>

28 ……。ええ、もちろんですよ。

29 ロゼ様が無実であることは、「朝露」の客として非常に喜ばしいです。皆さんもこ

30 れで安心できるでしょう。

31

32 (SE：足音、主人公移動)

33

34 <やや左、左向き、通常距離、小さい声>

35 ロゼ様、少しお話をしても？ お店の外でお待ちしております。

36

37 【ロゼ】

38 <やや右、右向き、近い距離、小さい声>

39 ……丁度良かったわ。私も、貴方に聞きたいことがあるの。

1  
2 <正面向き>  
3 マスターも、一緒に来て頂戴。

4 ○Scene 2

5  
6 | | | |登場人物：ロゼ、ヴィンセント、主人公  
7 | | | |場所：カフェ「朝露」店外の路地裏  
8 | | | |シーン内容：ロゼと主人公は無事危機を乗り越えたが、ヴィンセントが突如ロ  
9 ゼに攻撃し、彼女を追い込み、再び暴走を起こそうとする。しかし契約で得たマス  
10 ターの精神力が彼女の助けとなり、ロゼは暴走することなく、自身の力を駆使して  
11 ヴィンセントの攻撃を阻止した。

12  
13 (アンビエント：朝)

14  
15 **【ヴィンセント】**  
16 <やや左、正面向き、通常距離、通常音量>  
17 マスターとのご契約、おめでとうございます。「スカーレット・タイラント」のロ  
18 ゼ様。

19  
20 **【ロゼ】**  
21 <やや右、正面向き、通常距離、通常音量>  
22 正直、貴方の行動が理解できないわ。  
23 私が契約できたのは、貴方がマスターに貸した本のおかげ。  
24 私がほしかったのでしょうか？ これでは、他人に譲ったようなものだわ。  
25 なにを企んでいるの？

26  
27 **【ヴィンセント】**  
28 簡単なことです、競争ですよ。  
29 青年くんは私と同じ、貴女というドールに惹かれる人間です。  
30 少々、チャンスを与えただけですよ。

31  
32 しかし正直、あの短い時間で術を見つけ出せるとは思いませんでした。  
33 錬金術の素人が術の変化形を覚えるにはとても時間がかかりますし、上位術式なだ  
34 けあって消耗も激しい。  
35 正解にたどり着く前に体がもたなくなると思っていましたよ。

36  
37 ですから、チャンスと言っても可能性はほぼゼロでした。

1 運がいいというか、もはや運命というべきかもしれませんね。

2

3 【ロゼ】

4 ……やはり理解できないわ。マスターを気に入ったから手を抜いたの？

5

6 【ヴィンセント】

7 ふふ、似たようなものです。

8 彼からは、ドールに対する情熱を感じました。昔の自分と同じように。

9

10 私は長い時間をかけて、様々なオートマタドールを見てきました。

11 そんな彼女達に対して、自分がどんな想いを抱いているのか、ずっと考えていました。

13 するとそちらの青年は、私にはない、数少ない尊いものを持っていました。

14

15 【ロゼ】

16 つまり、マスターは特別だった……ってこと？

17

18 【ヴィンセント】

19 そうですね。

20 ロゼ様が他のドール達と交流を深めれば、いずれおわかりになると思いますよ。

21

22 【ロゼ】

23 ……わかったわ。それじゃ、こちらからも質問させて頂戴。

24

25 貴方、さっき店で嘘をついたでしょう？

26 「知人から借りたレンズ」だなんて、そんなはずがないわ。

27 協会のラボから持ち出すことすら禁止されているものでしょう？

28 それに、この前私に渡した薬……あれは、お父様が私のエーテル炉の暴走を押さえたためだけに作ったものよ。

30 貴方、一体誰？

31

32 【ヴィンセント】

33 言ったはずですよ、ロゼ様。私はただの、ドール愛好家です。

34

35 ……好きが高じて、幼い頃からオートマタドールを作る鍊金術師になると志すほどでした。

37 ですが程なくして、オートマタドールの製造が禁止されてしまった。しかしアカデミアでは、研究用のオートマタドールならまだ許されていました。

39

1 専門の高校に入り、鍊金術の道を本格的に歩み始めた時、ようやく夢が叶うと思いました。

3 しかし、一年も立たずに、鍊金術協会は研究用の製造すら禁止してしまった。

4 それでも諦めきれませんでした。技術を磨いて大学に入り、鍊金術協会の会員となることを承認されました。そしてしばらくして、隠されたものや禁じられたものへのアクセスもできるようになったのです。

7 そこで見たのが、ロゼ様の製作者のノートと論文です。  
8 そう、貴女の「作り方」について記されていました。

10あの薬は、私がそのノートの通りに調剤したもの。

12完璧にするために、事件当時の協会の調査記録も確認しました。

13まあ、あの薬は二度と出番がないことを祈りますが。

14 ……ああ、そうでした。それについてですが。

17【ロゼ】

18 ……なに？

20 (演出：ヴィンセント、突然猛ダッシュ)  
21 (演出：剣を抜く)

23【ロゼ】

24 っ！？ なんなの！？

26【ロゼ】 (心の声)  
27 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>  
28 その剣……杖から！？ は、早い！？

30【主人公】  
31 っ！ ロゼ！！！

33 (演出：主人公、ダッシュ)  
34 (演出：ヴィンセント、剣を振りかざす)

36【ロゼ】  
37 (心の声) しまった……！ 間に合わない！ 私……！  
38 ああ、いや……いや、いや！  
39 マスター！ 助けて！！ マスター！！！

1  
2 (演出：鞭の音。ヴィンセントが衝撃を受けて弾かれる)  
3 (演出：剣が地面に転がる、カラン)

4  
5 **【ヴィンセント】**

6 (背が壁にぶつかる) ぐああ……！

7  
8 (演出：主人公、ダッシュ)

9  
10 **【主人公】**

11 ロゼ！ 大丈夫？

12  
13 **【ロゼ】** (少し呼吸が乱れる)

14 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>

15 え、ええ……私は、大丈夫よ。

16  
17 さっき、私……エーテルを使ったわ。でも、暴走は、していない……。

18 昨晩思った通りだわ……。

19 やっぱり、マスターがいれば私は…… (言葉がヴィンセントに遮られる)

20  
21 **【ヴィンセント】** (かろうじて立ち上がる)

22 <やや左、正面向き、通常距離、通常音量>

23 ケホケホ……精神連結はエーテルの制御作用も兼ねていますからね。

24 ……ケホ……ふう……

25 極限状態において……短時間で大量のエーテルを集中させ、鞭のように空気を使う  
26 ……。

27  
28 ……合格ですよ、ロゼ様……いいえ、「ロザリー」。

29  
30 **【ロゼ】**

31 <正面、右向き、通常距離、通常音量>

32 (悲しむ) ……「ロザリー」は、もういないわ。

33 ここにいるのは、ロゼ・ヴァーミリオンというオートマタドールと、そのマスター  
34 よ。

35  
36 **【ヴィンセント】**

37 <左向き>

38 そうか……。貴女はもう、あの時のロザリーちゃんではないのですね……。

39

1     【ロゼ】  
2     ……えっ?  
3  
4     【ヴィンセント】  
5     37年前のことですから、ロゼ様が覚えていないのも当然ですよ……。  
6     5歳の子供が、美しいドールに一目惚れして、どうしても欲しくなった。どこにで  
7     もありそうな、ありふれた話ではありませんか。  
8  
9     【ロゼ】  
10    君……は……。  
11  
12    【ヴィンセント】  
13    ふふ、無理に思い出さずともいいのです。  
14    私は既に、諦めていますから。  
15  
16    【ロゼ】  
17    ……。  
18  
19    (演出：ヴィンセント、剣を杖に戻す)  
20  
21    【ヴィンセント】  
22    <やや左、正面向き、通常距離、通常音量>  
23    小生はここで退場しましょう。  
24    ロゼ様も、まだ「朝露」の仕事が残っていますからね。  
25  
26    またご縁がありましたら、そのときはよしなに。  
27  
28    そして、青年くん。  
29    こんなことを言われる筋合いはないでしょうが……彼女のこと、頼みましたよ。  
30  
31    (演出：肩ぽんぽん、足音)  
32    『ヴィンセント退場』  
33    ○Scene 3  
34  
35    ||||登場人物：ロゼ、メルシー、主人公  
36    ||||場所：カフェ「朝露」店内  
37    ||||シーン内容：ロゼからシャーロットへの手紙。

1  
2 (アンビエント：朝、客のガヤ)  
3  
4 『以下の会話は背景のセリフとなります』  
5 (メルシー視点)  
6  
7 **【メルシー】**  
8 <正面、正面向き、通常距離、大きい声>  
9 新人くん、お客様のご案内をお願い！  
10  
11 (演出：足音)  
12  
13 **【メルシー】**  
14 <左向き>  
15 店長、2番テーブル様のご注文の品はこれですか？  
16  
17 **【ロゼ】**  
18 <やや右、右向き、通常距離、通常音量>  
19 ええ、そちらの4番様もお願いね。  
20  
21 **【メルシー】**  
22 はい！  
23  
24 (演出：足音)  
25  
26 **【メルシー】**  
27 <正面向き>  
28 おまたせいたしました！ ご注文のカプチーノとたまごサンドです！  
29  
30 <右向き>  
31 あっ、お会計ですね。入り口のカウンターでお願いします！  
32  
33 <左向き>  
34 おまたせいたしましたー  
35  
36 『背景のガヤとセリフが段々タイプライターの音にかわる』  
37 (アンビエント：タイプライター)  
38  
39 **【ロゼ】** (手紙ナレーション)

1 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>  
2 一連の騒動が終わり、ひと月が経ったわ。  
3 ヴィンセントは国を出たから、しばらくトランシウィリアには戻らないでしょう。  
4 正直、今でも、彼を憎むべきか感謝すべきかわからない……。  
5 37年前……精神ですら子供の私……。思い返すと、はるか昔に思えてくる。  
6 もうなにもかもがぼやけて、何があったのかすら思い出せないけど、楽しかったと  
7 いう感情は、今でも心の中にある。  
8  
9 ああ、ごめんなさい、感傷に浸ってしまったわ。  
10 今はなにもなかつたみたいに日常が戻ってきたの。  
11 朝露は相変わらず……いいえ、これまで以上に繁盛しているわ。  
12  
13 どうやら、「ここでオートマタドールが見られる」って理由で人気が出たみたい。  
14 ……そういうのは好きじゃないわ、まるで私が商品の一部みたいで。  
15 まあ、メルシー目当てのサルもたくさん来るから、商売している以上、仕方がない  
16 のかもしれないけど。  
17  
18 だけど、今までずっとキッチンにこもっていた私も、恐れることなく、堂々とカウ  
ンターに出られるようになった。  
20  
21 私は、かつて「スカーレット・タイラント」と呼ばれ、忌み嫌われた存在。  
22 罪を犯し、自分すら傷つけ、居場所を失い、世界中を放浪し彷徨った。  
23 けれど貴女に拾われ、こうして希望を取り戻した「呪い人形」。  
24  
25 でも今の私は、ただ素敵なマスターと出会えた、幸せな人形よ。  
26  
27 いつか、貴女にも見せたいわ……今の私と、この自慢の店を。  
28 だから、さよならなんて言わせないわよ。  
29 絶対に、また会いましょう。  
30  
31 私の友人、シャーロット・アーネスト・シルベルトへ  
32  
33 ロゼ・「ロザリー」・ヴァーミリオン  
34

1 Epilogue

2 10、紅薔薇と？？？

3  
4 ||||登場人物：ロゼ、シャーロット、ベルモット、主人公  
5 ||||場所：カフェ「朝露」店内  
6 ||||トラック内容：シャーロットとベルモット（次回作の主人公たち）が「朝露」  
7 に来る。

8  
9 (アンビエント：朝)  
10

11 ○Scene 1

12  
13 (演出：扉開け閉め、二人の足音)  
14 (ロゼ視点)

15  
16 【シャーロット】

17 <やや右、正面向き、通常距離、大きい声>  
18 お邪魔するわ。

19  
20 【ロゼ】

21 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>  
22 ようこそ、カフェ「朝露」へ。  
23 手紙でやり取りしていたとはいえ……十数年ぶりに会ったわね、シャーロット。

24  
25 【シャーロット】

26 <通常音量>  
27 ええ、本当に久しぶり、ロザ……いいえ、ロゼの方が正しいかしら。

28  
29 【ロゼ】

30 ふふ、貴女にならどちらで呼ばれても構わないわよ。  
31 だけど驚いたわ、手紙に書いてあったこと。「もうじき城から出られる」だなん  
32 て。  
33  
34 そちらの方は、貴女のパートナーかしら？

1  
2 【シャーロット】  
3 ええ、元・吸血鬼狩りよ。  
4 はい、自己紹介。  
5  
6 【ベルモット】  
7 <やや左、正面向き、通常距離、通常音量>  
8 はじめまして、ベルモットという者です。お初にお目にかかります。  
9  
10 【ロゼ】  
11 ご丁寧にありがとうございます。  
12 ベルモット家のご高名を知らない者はこの国にはいないでしょう。  
13 私はカフェ「朝露」の店主、ロゼ・ヴァーミリオンと申します。  
14 今後お見知りおきを。  
15  
16 【ベルモット】  
17 こちらこそ。  
18 事前にお嬢から聞いてはいたものの、まさか本当にオートマタドールにお会いでき  
19 るとは。  
20 光栄です。  
21  
22 【シャーロット】  
23 これで挨拶は一通り済んだね。  
24 さて、ガールズトークの時間だから、ベルモットはどこかで適当に寝てて。疲れた  
25 でしょう？  
26  
27 【ベルモット】  
28 人をペット扱いすんな、お嬢——  
29  
30 【シャーロット】  
31 (ベルモットを無視) 大丈夫よね？ 店長。  
32  
33 【ロゼ】  
34 ええ、いいわ。  
35 今日店は休みですし、テーブル席をご自由に使ってください。  
36  
37 【ベルモット】  
38 助かります。正直、疲れていて。お言葉に甘えます。  
39

1 (演出：ベルモット、あくびして眠る。いびき)  
2

3 【シャーロット】

4 <正面、右向き、通常距離、通常音量>

5 (呆れて) はあ……相変わらず眠りに就くのが早いわね。呑気なやつだわ。

6 【ロゼ】

7 吸血鬼狩りで有名なベルモット家の男が、ヴァンパイアの名家であるシルベルト家の女と国中を周っているって噂、どうやら本当だったようね。

8 城を出てそれなりに経ったから、変わったことも多いだろうと思っていたけど、流石に予想外よ、シャーロット。

9 【シャーロット】

10 <正面向き>

11 貴女こそ変わったわ、ロザリー。まるで邪気が祓われたみたい。

12 【ロゼ】

13 吸血鬼様がそんな言葉を口にして大丈夫？ 属性、正反対じゃない？

14 【シャーロット】

15 「元」吸血鬼よ。それに、うちの苗字に「銀」が入っているのを忘れたかしら？

16 【ロゼ】

17 ……そういえばそうだったわね。

18 ふむ……、とある頼りがいのないやつのおかげで、私は、前に進む力を手に入れたわ。

19 【シャーロット】

20 さすがマスターを見つけたドール、面構えが違うわね。

21 で？ そのマスターは？ 見掛けないけど。

22 【ロゼ】

23 午前は大学の授業があるの。12時くらいには帰ってくるはずよ。

24 【シャーロット】

25 あら、それなら挨拶できるかもね。

26 【ロゼ】

27 ええ、紹介するわ。

1 それより貴女こそ、陽の当たる場所も平然と歩けるのね。

2

3 【シャーロット】

4 ふふ、こっちだって、色々あったのよ。でも話すと長くなるから、また今度ね。

5 ただ……生きるってこんなにも楽しいものなんだって、生まれて初めて知ったわ。

6 誰かさんのお陰で。

7

8 【ロゼ】 (じっとシャーロットを見つめる)

9 ……ふーん。

10

11 【シャーロット】

12 (慌てて) な、なによ、ジロジロ見て。

13

14 【ロゼ】 (ジト目)

15 ……惚気話は店の外でなさい。

16

17 【シャーロット】

18 私達はそんな関係じゃないわ！

19 それにその言葉、そっくり返してあげる。

20

21 【ロゼ】

22 ここ、私の店なんだけど？

23

24 まあ、遠路遙々來たんだし、何か飲んでいって頂戴。

25 お代は要らないから。

26

27 【シャーロット】

28 太っ腹ね。それじゃあお言葉に甘えちゃおうかしら。

29 紅茶派だけど、たまにはコーヒーも悪くないわね。飲み方は……お任せしていい？。

31

32 【ロゼ】

33 わかったわ。それで、パートナーの分は？

34 お疲れのようだし、寝起き用にコーヒーでもいかが？

35

36 【シャーロット】

37 あいつはまあ……ちょっと変わり者で……。

38 ゲテモノメニューがあればそれをお願いしたいかも。

39

1           **【ロゼ】**  
2    ゲテモノ？ 食べ物を粗末にするようなメニューはうちにはないわよ。  
3    ああ、開発中のメニューならあるけど、そんな毒見のようなことをさせていいの？  
4  
5           **【シャーロット】**  
6    いいのいいの～  
7    あいつはやばいほど頑丈だから。  
8  
9           **【ベルモット】**  
10   (テーブルに向けたまま) 聞こえてるよお嬢一  
11   (寝息) ぐがあー  
12  
13           **【ロゼ】**  
14   ですって。  
15   準備するから、少し待ってて。  
16  
17   (演出：ロゼがキッチンに入る、ドア開け閉め)  
18  
19           **【シャーロット】**  
20   <右向き>  
21   (呆れて) あんたってほんと、悪口に対してだけは地獄耳よね……。  
22   ○Scene 2  
23  
24   (演出：扉開け閉め、カラソコロン)  
25  
26           **【主人公】**  
27   ロゼさん、ただいま……あれ、お客様？  
28  
29           **【シャーロット】**  
30   <正面、正面向き、通常距離、通常音量>  
31   あら、噂をすれば、今回の主人公のご登場ね。  
32  
33           **【主人公】**  
34   えっと……ど、どちら様？  
35  
36           **【ロゼ】**  
37   <やや右、正面向き、通常距離、通常音量>

1 おかえり、マスター。紹介するわ。  
2 彼女はこの前話した吸血鬼のお嬢様、シャーロット・シルベルトよ。  
3 そしてこちらは、彼女のパートナーのベルモットさん。  
4  
5 【主人公】  
6 え、えっ！？ いきなり！？  
7 けどベルモットって、吸血鬼狩りじゃないですか！？  
8  
9 【シャーロット】  
10 あら、この国で名高い、夜の一族ヴァンパイアを見ても動搖しないなんて、大した  
11 ものね～  
12 なーんちゃって。  
13 あくまで「元」だけどね。  
14  
15 【ベルモット】  
16 <やや左、正面向き、通常距離、通常音量>  
17 俺も「元・吸血鬼狩り」です。はじまして、マスターくん！  
18  
19 (演出：ベルモット、コーヒーを飲む)  
20  
21 【ベルモット】  
22 <左向き>  
23 おっ、ロゼ様、このコーヒー面白いですね。  
24  
25 【ロゼ】  
26 <右向き>  
27 「美味しい」じゃなく、「面白い」か……もう少し調整が必要なようね。  
28 気に入ってくれたのは嬉しいけど。  
29  
30 【シャーロット】  
31 (ジロジロと主人公を見る) ふーん、いかにも頼りなさそうなかんじだけど……  
32  
33 【主人公】  
34 ……えっと、申し訳ありません？  
35  
36 【シャーロット】  
37 でも、あのロゼを落としたんだものね……甘く見れないかも。  
38  
39 【ロゼ】

1 あのロゼってなによ。人を化け物みたいに言わないでくれる？  
2  
3 【シャーロット】  
4 で、「あの」ロゼのマスターさん、お名前を伺っても？  
5  
6 『主人公自己紹介』  
7  
8 【シャーロット】  
9 ふーん、いい名前ね。ベルモットの名前もそういうのにしようかしら～  
10  
11 【ベルモット】  
12 <左向き>  
13 勘弁してくれ……。お嬢のネーミングセンスは、ほんとにアレだから……。  
14  
15 【シャーロット】  
16 <右向き>  
17 はあ！？ なによ、不満があるなら直接言いなさいよ！？  
18 こっちはあんたの為に考えてるんだけど！  
19  
20 『以下、ベルモットとシャーロットの痴話喧嘩、背景セリフ』  
21  
22 【ベルモット】  
23 それは嬉しいけど！ そのセンスだけはどうにかしろって……。  
24  
25 【シャーロット】  
26 なんですって！？  
27  
28 【ベルモット】  
29 いや、ダサいもんはダサいだろ！？  
30 そんな名前付けられたら名乗る時恥ずかしいっつーの！  
31  
32 【シャーロット】  
33 もう一度言ってみなさいよ！？ 私が吸血鬼じゃなくともあんたくらい楽に倒せる  
34 のよ！？  
35  
36 『喧嘩ここまで』  
37  
38 【主人公】  
39 (小さい声で) えっと……あの二人、大丈夫ですか？

1  
2     【ロゼ】

3 <右側、正面向き、近い距離、小さい声>

4 放っておきなさい、あのお嬢様は昔からあんなかんじだから。

5 しっかりしているけど、少し頭のネジがゆるいというか、ぶつ飛んでいるというか  
6 ……。

7  
8     【主人公】

9     (困惑) は、はあ……。

10  
11    【シャーロット】

12 <左向き>

13 聞こえているわよ、ロゼ！

14  
15    【ロゼ】

16 <やや右、右向き、通常距離、通常音量>

17 本当のことを言つただけよ。

18 それより、大の大人が子供レベルの喧嘩をするのはやめて頂戴。

19 見るに堪えないわ。恥ずかしくないの？

20 貴方達のご先祖が見たら泣くわよ？

21  
22    【シャーロット】 (ベルモットと同時に)

23 家のことは関係ないでしょう！？

24  
25    【ベルモット】 (シャーロットと同時に)

26 <左向き>

27 家のことは関係ないだろ！？

28  
29    【ロゼ】

30 <正面向き>

31 はあ……うるさい……。

32

33 ○Scene 3

34

35    【シャーロット】

36 <正面、左向き、通常距離、通常音量>

37 で、ロゼは今後どうするつもり？ ずっとここに留まるのかしら？

1  
2     【ロゼ】

3 <やや右、右向き、通常距離、通常音量>

4 そうね……。

5 朝露以外の場所は……あまり考えていないわ。

6 そもそも、現代の他のオートマタドールがどうやって生きているのかすら知らない。

7 機会があったら、他の子達に会ってみたいわね。

8 その時は、暫く店を閉めてあちこち回るつもりよ。

9 城から離れる時に貴女から貰った旅費も、まだ残っているし。

10

11     【シャーロット】

12 そう……私達も、似たようなものよ。

13 今はとある場所を探しているわ。

14 そこに辿り着けば、私達なりの生き方を見いだせると思う。

15

16     【ロゼ】

17 お互い、頑張りましょうね。

18

19     【シャーロット】

20 ええ、これからも精一杯生きましょう。私も、貴女も。

21

22 さて、そろそろ行かなきや。

23 手紙を送るから、お返事忘れないでね、ロゼ。

24

25     【ロゼ】

26 ええ、約束するわ。

27

28     【シャーロット】

29 ほらベルモット、行くわよ。

30

31     【ベルモット】

32 <やや左、左向き、通常距離、通常音量>

33 はいはい。

34 ではロゼ様、失礼します。

35

36     <正面向き>

37 マスターくんも、お元氣で。

38

39

1           【主人公】  
2        はい！  また会いましょう、ベルモットさん。  
3  
4           【シャーロット】  
5        また機会があつたらお邪魔するわ。  
6  
7           【ロゼ】  
8        ええ、いってらっしゃい。  
9  
10        (演出：扉開け閉め、カラソコロン)  
11  
12        (完)  
13

1 エキストラ：ドールに癒やされる ASMR

2

3 | | | 登場人物：ロゼ、主人公

4 (アンビエント：午後)

5

6 **【ロゼ】**

7 <正面、正面向き、普通距離、普通音量>

8 マスター、ちょっとといいかしら？

9

10 いいえ。用はないけど、お昼からずっと本と戦っているようだし、少し休んだら？

11

12 (SE：てくてく)

13

14 <正面、近い距離、普通音量>

15 はい、ご注文のラテよ。

16

17 (SE：カップを置く)

18 (ロゼ、隣に座る)

19

20 <左側>

21 隨分熱心に読んでいるわね。錬金術の本？

22

23 (SE：紙をめくる)

24

25 「メイデンの作り方」？ 確か……ドールのボディに関する本よね。

26 ついにドールメーカーを目指すつもり？

27

28 **【主人公】**

29 ロゼさんの手入れのために色々勉強しなきやね。

30

31 **【ロゼ】**

32 え？

33 ああ、そ、そ、う……私のために……

34 (照れ) 私の……ために……

35

36 (咳払い) コホン。

37 いいえ、ニヤニヤなんてしていないわ。

1 マスターたるもの、ドールの手入れの技術を向上させるのは当たり前のことよ。そ  
2 んなことで喜ばないわ。

3

4 ただ……あまり煮詰めないでね。

5 私ができることがあれば、遠慮なく言ってほしいわ。

6

7 【主人公】

8 家賃を補助して頂いているのでもう十分ですが……

9

10 【ロゼ】

11 家賃のことは気にしないでって言ったじゃない。

12 朝露に引っ越してって言ったのは私なのだから。

13 それに、もともとこの部屋は余っていたし、貴方のバイト代から少し引いているか  
14 らいい取引だわ。

15

16 それで、何かしてほしいことはある？

17

18 「抱っこして一緒に寝たい」 ……ね。

19

20 『少しの沈黙』

21

22 だけどそれ、いつも眠る時にしているじゃない。

23

24 <左側、直近距離、囁き>

25 ねえ、貴方……それだけで、本当に満足なの？

26 契約術を探したあの日、貴方が急いで家に帰った原因はわかっているのよ……。

27 ……隠すためでしょう、「なにか」を。

28

29 <右側、直近距離、囁き>

30 恥ずかしがる必要ないじゃない……あれから私もメルシーにたくさん教えてもらつ  
31 たの……。

32 だから……私にだって、色々できるわ……。

33 貴方が望むなら、今すぐにでも……

34

35 【主人公】

36 じ、じゃあ耳かきをお願いします……！

37

38 【ロゼ】

39 <右側、近い距離、小さい声>

1 え、えっ？  
2 み、耳かきでいいの……？  
3  
4 別に構わないけど……  
5 (少し不機嫌そうに) ほんとっ、意気地なしね。  
6  
7 人にしてあげたことなんてないから、下手だったらごめんなさい。  
8  
9 じゃあ、ベッドに横になって。私は綿棒を取ってくるから。  
10  
11 (SE : ベッド)  
12  
13 <右側、直近距離>  
14 始めるわね。  
15  
16 (SE : 耳かき)  
17 (アドリブ : 吐息ループ3分)  
18  
19 ……膝枕できなくて、なんだか申し訳ない気持ちだわ。  
20  
21 こっちの方がいい？ 本当？  
22 男性は膝枕に憧れるってメルシーが言っていたから……。  
23  
24 ふふ、手が気持ちいいのは、精神連結のおかげよ。  
25 連結している二人が互いの体に触れると、感覚が鋭くなるの。  
26 だから普通のボディタッチよりはつきり感じられるのよ。  
27  
28 でも……そうね。 そう言われると、嬉しいわ、ふふ。  
29  
30 (SE : 耳かき)  
31  
32 人の耳をこんなに近くで観察できたのは初めて。  
33 想像より、ずっと複雑な形をしているわ。  
34  
35 いいえ、かなり作り込まれた人形なら耳穴もついているけど、大体の場合はそれも  
36 ただのトンネルだから。人の耳のようにくねくねしていないの。  
37  
38 ええ、もちろん自分でしたことはあるわ。  
39 赤ん坊用の綿棒を使って、中の埃なんかを取っていた。

1 人間と違って、耳垢がないからやりやすいわよ。

2

3 とにかく、痛かったら言って頂戴。

4 ……今のところは大丈夫そうね。続けるわ。

5

6 (SE : 耳かき)

7

8 こっちはそろそろ終わりにしましょうか。

9

10 (耳に吹きかける) ふー

11

12 ふふ、敏感ね、貴方は。

13 じゃあ、もう一回してあげる。

14

15 (耳に吹きかける) ふー

16

17 (頬にキス) んちゅつ。

18

19 <囁き>

20 (甘く) こっちは体を向けて、マスター。

21

22 (SE : ベッド、向き変更)

23

24 <左側、小さい声>

25 それじゃあ、私はそっちに……

26

27 えっ？ こ、このまま？

28 けれど、ここからじや耳の中まで見えないから、危ないわ。

29

30 しなくていい……？ そうしたらなんの意味が……？

31 ひや……！

32

33 (SE : 主人公がロゼに抱きつく)

34

35 (テレ) ……か、顔を体に埋めたいだなんて……。

36 こら、露骨に匂いを嗅がないで！

37

38 わ、悪い気はしないけど、恥ずかしいわ……。

39

1 もう、マスターのそういうところ、全く変わらないわね。  
2 肝心な時もこれくらい行動力があればいいのに……。  
3  
4 それとも、やっぱり……私とは、嫌……？  
5  
6 そ、即答してくれたのは嬉しいし、貴方の話を信じていないわけでもないけど……  
7 ……行動で示してほしいわ。  
8  
9 私を傷つけるのが怖い……まさか、ボディのことを心配しているの？  
10 お馬鹿さんね、マスターは。もちろん準備はしてあるわ。  
11 どんな準備かって……その時に、自分で確かめなさい、ふふ。  
12  
13 『少しの沈黙』  
14 (SE：主人公、手を離す)  
15  
16 もういいの……？  
17 だったら、耳かき再開しましょうか？  
18  
19 わかったわ、ではこっちも……失礼するわね。  
20  
21 (SE：耳かき)  
22  
23 あっ、頬に私の髪がかかってしまったわ、ごめんなさい。  
24 えっ？ いい匂い？  
25 それ、シャンプーの匂いじゃない？  
26  
27 そうじゃないならわからないわね。  
28 そもそも、この髪の毛でいつも貴方を叩いているから、てっきり髪を恐れているか  
29 と思ったわ。  
30  
31 全然？  
32  
33 む、むしろ嬉しい……！？ 叩かれて、嬉しいの？  
34 やっぱり変よ……いつものことだけど、ふふ。  
35  
36 触りたいなら、触ってもいいわよ。  
37  
38 髪の色？ ああ、グラデーションと裏側の赤のこと？  
39 残念だけどよくわかつっていないの。元は銀髪で、事件のあとこうなったのよ。

1 気に入らなかつたら……いいえ。マスターは、そんなことは言わないわよね。

2  
3 (SE：耳かき)

4  
5 【ロゼ】

6 正直、髪だけじゃなく、体の仕組みもよくわからないわ。

7 何の力が使えるかはわかるけど、どうしてできるかは理解していないの。

8  
9 お父様の論文は、発表当時も難解で有名だったから。

10 だから、当然のようにそれを理解して、その上薬を再現したヴィンセントはすごい  
11 と思うわ。

12  
13 まさか、彼があんな風になったのは、私のせいだったなんて……

14 自分でも知らないうちに、縁ができていて……いい縁とは言い切れないけど、悪い  
15 わけでもない……

16 何十年と生きていても、まだまだ知らないことだらけね。

17  
18 【主人公】

19 ロゼは、ヴィンセントと会ったこと、覚えているのか？

20  
21 【ロゼ】

22 ヴィンセントと会ったことは……本当に、うつすらとしか覚えていないわ。

23 お父様と一緒に散歩した時に、近所の子供と遊んだことが何度かあったの。だから  
24 そこで会ったのかもしれない。

25 どうしてそんなことを知りたいの？

26  
27 ……もしかして、嫉妬してる？

28  
29 <囁き>

30 破った相手に負けたくないなら、早く私を自分のものになさい。ヘタレマスター。

31  
32 (SE：耳かき)

33  
34 <小さい声>

35 こっちもそろそろ終わるわね。

36  
37 (長めの耳吹きかけ) ふー。

38  
39 もう一回するわよ。

1  
2 (長めの耳吹きかけ) ふー。  
3  
4 はい、おしまい。  
5  
6 <小さい声>  
7 どう? 初めてにしては我ながら上手にできたと思うけど。  
8  
9 マスター……?  
10  
11 <左側から正面、近い距離、小さい声>  
12 マスター?  
13  
14 眠ってる……。  
15 本も開きっぱなしで……本当に、仕方のない人ね。  
16  
17 (SE: 本に葉を挟んで閉じる)  
18 『少しの沈黙』  
19  
20 すやすや眠っていて、気持ちよさそう……私も一緒に寝ようかしら。  
21  
22 (SE: 衣擦れ)  
23  
24 おやすみなさい、マスター。  
25 夢の中でも、一緒にいられますように。  
26  
27 (吐息でフェードアウト)  
28  
29 (エキストラ完)